



調査年度	調査区	調査区名	調査区	形状	位置	残存率	軸土	色澤	内装調整	外装調整	備考
37	SH04	Ⅱ区	弥生 鉢	(底)4.0	石炭大・小少、灰行中少	底部2/8		内：10YR7/6黄褐色、5YR7/6黄 外：5YR7/4に赤い帯	ハテ	(株)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	内面赤色顔料
38	SH04	Ⅱ区	弥生 鉢	(底)3.1	石炭・長石大・小少	底部2/8		内：5YR7/4に赤い帯 外：5YR7/6黄褐色	ナデ		
39	SH04	Ⅱ区	弥生 鉢	(口)9.1 (底)5.4 3.4	石炭大・中少、長石大・小 少、赤色磁石大	7/8		内内：10YR8/6黄褐色	(口)ナデ(株)オサエ後ナデ ナデ	(口)ナデ(株)オサエ後ナデ(底) ナデ	
40	SH04	Ⅱ区	弥生 鉢	(底)3.0	石炭大少、長石大・中少	底部2/8		内内：5YR7/6黄褐色	(口)ナデ(底)オサエ	(株)ナデ、オサエ(底)ナデ	
41	SH05	Ⅱ区	弥生 壺	(底)3.4	角閃石大、長石大・中少、 赤色磁石中	底部2/8		内：2.5YR7/6黄褐色	(株)長石ナデ(底)オサエ	(株)ナデ、オサエ(底)ナデ	
42	SH05	Ⅱ区	弥生 壺	(底)2.8	赤褐色磁石大、 中少、赤色磁石大	底部2/8		内：10YR6/6に赤い帯、10YR5/7黄 外：2.5YR7/6に赤い帯、2.5YR7/6黄	ハテ	(株)オサエ後ナデ、オサエ後ナデ ナデ(底)ナデ	内面紅面
43	SH05	Ⅱ区	弥生 壺	(口)13.5	石炭大・中、長石大・中少、 赤色磁石大	口縁部2/8		内：10YR8/6黄褐色、10YR8/6黄 外：10YR8/6黄褐色	(口)口ナデ(底)オサエ、ナデ	(口)ヨコナデ(底)ハテナデ	
44	SH05	Ⅱ区	弥生 壺	(口)16.0	石炭大・中、長石大・中多	口縁部2/8		内：10YR8/6黄褐色、10YR8/6黄 外：10YR8/6黄褐色	(口)ヨコナデ(底)ナデ	(口)ヨコナデ(底)ヨコナデ、ハテ ナデ(底)ハテ後ナデ、オサエ後ナデ	
45	SH05	Ⅱ区	弥生 壺	(口)13.7	石炭・長石大・中少	上半部2/8		内：10YR8/6黄褐色、10YR8/6黄 外：2.5YR7/6に赤い帯	(口)ヨコナデ、ハテ(底)ヨコナデ ナデ(底)オサエ、オサエ	(口)ヨコナデ、ハテ(底)オサエ後 ナデ	
46	SH05	Ⅱ区	弥生 壺	(底)5.0	石炭・長石大・中多	底部2/8		内：2.5YR7/6黄褐色	(株)ナデ(底)オサエ後ナデ	(株)ナデ、オサエ後ナデ(底)ナデ	内面紅面
47	SH06	Ⅱ区	弥生 壺	(底)3.6	石炭中・小少、長石大・小 少、赤色磁石大・中少	底部2/8		内：2.5YR7/6黄褐色、10YR7/4に 赤い帯	ナデ	(株)オサエ後ナデ(底)ナデ	底面
48	SH06	Ⅱ区	弥生 壺	(底)4.8	赤褐色磁石大、赤褐色磁石 大、石炭大・中少	底部2/8		内：2.5YR6/6黄褐色、5YR6/6黄褐色	オサエ後ナデ	(株)ハラケズリ後ナデ(底)ナデ	下川漆B面
49	SH06	Ⅱ区	弥生 壺	(底)2.8	石炭・長石大・中多	底部2/8		内：2.5YR7/6黄褐色、2.5YR7/4黄褐色 外：5YR7/6黄褐色	(株)ハテ(底)オサエ後ナデ	ナデ	
50	SH06	Ⅱ区	弥生 壺	(底)4.2	石炭・長石大・中少	底部2/8		内：10YR6/6黄褐色 外：10YR7/6に赤い帯	ハテ	(株)オサエ後ナデ、ナデ(底)ハラ ケズリ後ナデ	
51	SH06	Ⅱ区	弥生 鉢	(口)17.2 (底)7.9 (底)7.8	石炭大・中、赤色磁石 大、石炭大・中少	(底)7/8		内：10YR8/6黄褐色 外：10YR8/6黄褐色	(口)ナデ、ハテ(底)ハテ	(口)ナデ(底)オサエ後ナデ(底) ナデ	
52	SH06	Ⅱ区	弥生 土器	(底)3.3	角閃石中・小少、石炭小、 長石大・中少	底部2/8		内：7.5YR8/6黄褐色 外：7.5YR8/6黄褐色	(株)ナデ(底)ナデ	(株)底)ハラケズリ(底)ナデ	
53	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(口)23.4	石炭大・中多、長石大・中多	上半部2/8		内：10YR7/6に赤い帯、10YR6/6黄 外：10YR8/6黄褐色、10YR8/6黄	ヨコナデ	(口)ヨコナデ(底)ハテ	外部成沢の掘削
54	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(口)15.4	石炭・長石大・中多	口縁部2/8		内：7.5YR8/6黄褐色、10YR8/6黄 外：10YR8/6黄褐色	マメツ		
55	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(口)15.5	石炭・長石大・中多、赤色磁 石大・中、長石大・中少	口縁部2/8		内：10YR8/6黄褐色、10YR8/6黄 外：2.5YR7/6に赤い帯	(口)ヨコナデ(底)ナデ(底)ナデ ナデ(底)オサエ後ナデ	(口)ヨコナデ、ハテ(底)ヨコナ デ、オサエ後ナデ	内面赤色顔料
56	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(底)2.8	赤褐色磁石大・中多、 赤色磁石大	口縁部2/8		内：10YR8/6黄褐色、10YR8/6黄 外：2.5YR7/6に赤い帯	ヨコナデ、オサエ、ナデ、ハラケズ リ	ハラケズリ後ナデ、オサエ 後ナデ	
57	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	6/8	赤褐色磁石大・中、 長石大・中多	4/8		内：10YR6/6黄褐色、10YR8/4黄褐色 外：2.5YR7/6に赤い帯	ハラケズリ後ナデ、ハテ	オサエ後ナデ、オサエ後ナデ	底面
58	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(底)8.0	赤褐色磁石大・中、 長石大・中少	下半部2/8		内：10YR8/6黄褐色	(株)ハテ(底)オサエ	(株)オサエ後ナデ(底)ナデ	
59	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(口)12.4 (底)2.8	石炭大・中、長石大・中多、 赤色磁石大	6/8		内：10YR8/6黄褐色、5YR7/6黄 外：10YR8/6黄褐色	(口)ヨコナデ(底)ナデ(底)ナデ ナデ	(口)ヨコナデ(底)オサエ後ハテ ナデ	底面
60	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(口)13.8	石炭大・中、長石大・中多、 赤色磁石大	上半部2/8		内：10YR8/6黄褐色、10YR8/6黄 外：10YR8/6黄褐色	(口)ヨコナデ(底)ハラケズリ後 ナデ	(口)ヨコナデ(底)オサエ後ハテ ナデ	
61	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(口)13.5	赤褐色磁石大、赤褐色磁石 大、石炭大・中少	口縁部2/8		内：7.5YR8/6黄褐色、10YR8/6黄 外：7.5YR8/6黄褐色	(口)ヨコナデ(底)長石ナデ	(口)ヨコナデ(底)ナデ	下川漆B面
62	SH06	Ⅱ区	土器 弥生 壺	(口)15.0	石炭大・中少、長石中	口縁部2/8		内内：10YR8/6黄褐色	(口)ヨコナデ、マメツ	(口)ヨコナデ(底)ナデ	



分類	調査番号	調査地	調査時期	調査者	調査方法	調査地	調査時期	調査者	調査方法	調査地	調査時期	調査者	調査方法	調査地	調査時期	調査者	調査方法	
94	SK14	Ⅱ区	1954	栗生 繁	(口)15.4	石炭・長石大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	(口)ヨコナガ(体)ヨコナガ、ハナ	外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ヨコナガ	1954	栗生 繁	(口)ヨコナガ(体)ヨコナガ、ハナ	外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ヨコナガ	1954	栗生 繁	(口)ヨコナガ(体)ヨコナガ、ハナ
95	SK14	Ⅱ区		栗生 繁		角閃石大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ハナ				栗生 繁						
96	SK14	Ⅱ区		栗生 繁	(口)4.2	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	(体)ハナ、ナ(体)ナ				栗生 繁						
97	SK14	Ⅱ区		栗生 繁	(口)18.1	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
98	SK14	Ⅱ区		栗生 繁	(口)22.7 (高)7.8 (底)4.0	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
99	SK17	Ⅱ区		栗生 繁	(口)19.0 (高)8.9 (底)5.4	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
100	SK17	Ⅱ区		栗生 繁	(口)18.3	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
101	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)19.9 (高)16.8 (底)14.4	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
102	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)15.1 (高)7.2 (底)3.4	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
103	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)12.9	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
104	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)13.4	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
105	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)17.5 (高)12.0	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
106	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)13.3	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
107	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)16.3	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
108	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)14.0	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
109	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)16.5	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
110	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)14.5	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
111	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)14.0	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
112	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)16.5	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
113	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)14.0	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
114	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)11.9 (高)11.0	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
115	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)11.8	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
116	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)13.8	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
117	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)16.0	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
118	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)13.1	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
119	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)13.8	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
120	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)16.0	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
121	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)13.1	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
122	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)13.1	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						
123	SK21	Ⅱ区		栗生 繁	(口)13.1	石炭大・小	内: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤) 外: 2.5YR6/6(赤) 5YR6/4(黄赤)	ナ				栗生 繁						

番号	部名	階級名	種別	距離	決り手	船主	色調	内容調整	外国調整	備考
124	SD03	1区	SF7	標準	休憩小片	石巻中、長石大、小少	内: 25X62 外: 5YX61 外: 5YX61	ヨコナテ	ヨコナテ	1區船内里に練習口置 船内里に田原式並、黒田
127	SD02	1区	上層	標準	口陣船小片	石巻、長石大、小少、赤色	内: 5YX61 外: 5YX61	ヨコナテ	ヨコナテ	
128	SD02	1区	上層	標準	休憩小片	金栗中、中巻、長石大、中少、赤色	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	オオエ、オオエ後ナテ	ハク、ヨコナテ	
129	SD02	1区	上層	標準	休憩小片	石巻大、中巻、長石大、中少、赤色	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) 船ナテ後ナテ、ナテ(休) ナテ	(休) 船ナテ後ナテ、ナテ(休) ナテ	外置へウ輪 黒班
130	SD02	1区	上層	標準	底船28	金栗中、小巻、長石大、中少、赤色	内: 7.5YX62 外: 7.5YX62 外: 7.5YX62	(休) ハケ後ナテ	(休) タタキ後ナテ(休) ナテ	外置赤色船料
131	SD02	1区	上層	標準	底船28	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 7.5YX62 外: 7.5YX62 外: 7.5YX62	(休) 船ナテ後ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	
132	SD02	1区	上層	標準	底船28	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 10YX64 外: 10YX64	板子ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	
133	SD02	1区	上層	標準	口陣船小片	金栗中、小巻、長石大、中少、赤色	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
134	SD02	1区	上層	標準	底船28	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
135	SD02	1区	上層	標準	底船28	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
136	SD02	1区	上層	標準	底船28	金栗中、小巻、長石大、中少、赤色	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
137	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
138	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
139	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
140	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
141	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
142	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
143	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
144	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
145	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
146	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
147	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
148	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
149	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
150	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
151	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
152	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
153	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
154	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料
155	SD02	1区	上層	標準	口陣船	石巻大、中巻、長石大、中少	内: 5YX62 外: 5YX62 外: 5YX62	(休) ハケ、ナテ(休) ナテ	(休) タタキ(休) ナテ	内置船料

番号	通称	調子	調子	位置	現存	新十	色調	内面調	外面調	備考
156	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.7	底部流	石炭・長石大・小	内: 10YR6/2灰白 外: 7.5YR6/2灰白	靴ナダ	(体)タタキ(底)ナダ	黒底
157	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.4	底部流	石炭・長石大・小	内: 10YR6/2灰黄 外: 10YR6/2灰黄	(体)靴ナダ(底)ナダ	(体)ハタケナダ(底)ナダ	黒底
158	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.0	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/4黄 外: 10YR6/4黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
159	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.0	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/4黄 外: 10YR6/4黄	(体)ハタケナダ(底)ナダ	(体)タタキ・マタツク・オサエ・ハタケナダ	黒底
160	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.2	底部流	石炭大・中・少、長石大・中・少	内: 10YR6/4黄 外: 10YR6/4黄	ヘラケナダ	(体)タタキ・マタツク・オサエ・ハタケナダ	黒底
161	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.6	底部流	常陸中・多、石炭大・中・少	内: 2.5YR6/2灰黄 外: 5YR6/6黄	(体)靴ナダ(底)ナダ	(体)タタキ・マタツク・オサエ・ハタケナダ	黒底
162	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.6	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/4黄 外: 10YR6/4黄	(体)靴ナダ(底)ナダ	(体)タタキ・マタツク・オサエ・ハタケナダ	黒底
163	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.6	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
164	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.6	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
165	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.6	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
166	SD02	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.6	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
167	SD04	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.3	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
168	SD04	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.3	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
169	SD04	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.3	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
170	SD04	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.3	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
171	SD04	1区 下脚	吹生 葉	(C)3.3	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR7/2に、灰白 外: 2.5YR6/2黄	体(底)ナダ	ナダ	身孔は二対小、二孔成
172	SD01	1区 SP8	吹生 葉	(C)6.0	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
173	SD01	1区 SP7	吹生 葉	(C)5.2	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 2.5YR6/4黄 外: 2.5YR6/4黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
174	SD01	1区 SP7	吹生 葉	(C)5.2	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 2.5YR6/4黄 外: 2.5YR6/4黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
175	SD01	1区 SP7	吹生 葉	(C)5.2	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 2.5YR6/4黄 外: 2.5YR6/4黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
176	SD01	1区 SP5	吹生 葉	(C)7.0	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
177	SD01	1区 SP5	吹生 葉	(C)7.1	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
178	SD01	1区 SP9	吹生 葉	(C)7.6	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
179	SD01	1区 SP9	吹生 葉	(C)8.2	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 5YR6/6黄 外: 5YR6/6黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
180	SD02	1区 SP5	吹生 葉	(C)11.7	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
181	SD01	1区 SP11	吹生 葉	(C)11.9	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
182	SD01	1区 SP10	吹生 葉	(C)11.9	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
183	SD01	1区 SP8	吹生 葉	(C)12.0	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
184	SD01	1区 SP09	吹生 葉	(C)11.8	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 2.5YR6/6黄 外: 2.5YR6/6黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底
185	SD01	1区 SP25	吹生 葉	(C)11.7	底部流	石炭大・中・多、長石大・中・少	内: 10YR6/3黄 外: 10YR6/3黄	靴ナダ	(体)靴ナダ(底)ナダ	黒底



番号	標名	所在地	形状	出露	現存率	地質	地質	地質	地質	地質	地質	備考
214	石炭大・小多、長石大・中少、赤石大・中多	Ⅱ区 ①・②・③・④	要	(底)5.2	成部58	石炭大・小多、長石大・中少、赤石大・中多	Ⅱ区 ①・②・③・④	要	(底)5.2	成部58	石炭大・小多、長石大・中少、赤石大・中多	外調調整 (体)タタキ砂ナ(底)ナ
215	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)25.4	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)25.4	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	内調調整 (口)ヨコナテ、ナナ(体)ナ
216	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)4.1	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)4.1	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ(底)ナ
217	石炭大・中少、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)14.2 (厚)0.5	成部58	石炭大・中少、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)14.2 (厚)0.5	成部58	石炭大・中少、長石大・中少	ヘタミガキ
218	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)117.5	上部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)117.5	上部58	石炭大・中多、長石大・中少	(口)ヨコナテ(底)ヨコナテ、ナナ (体)オサエ、ナ
219	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)11.3	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)11.3	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ヨコナテ
220	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)5.6	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)5.6	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ
221	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)3.6	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)3.6	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ
225	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)21.2	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)21.2	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ナナ、ヘタミガキ、ヨコナテ
226	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)11.9	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)11.9	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(口)ナナ(体)オサエ
227	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)2.1	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)2.1	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ
228	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)4.9	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)4.9	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ヨコナテ
229	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)5.3	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)5.3	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ
231	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)4.1	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)4.1	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ
242	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)4.5	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)4.5	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ナナ
243	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)5.0	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)5.0	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ
244	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)3.9	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(底)3.9	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ
245	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)29.7	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)29.7	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	(体)ナナ
246	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)16.0	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)16.0	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ナナ
247	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)19.6	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)19.6	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ナナ
248	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)11.8	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)11.8	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ナナ
250	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)10.9	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)10.9	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ナナ
252	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)12.7	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	Ⅱ区 ①・②・③・④	林	(口)12.7	成部58	石炭大・中多、長石大・中少	ナナ







番号	寄附者名	寄附品	形状	法様	材質	出土	色澤	内装調整	外面調整	備考
320	SD43 聖区	黒色 瓶	(高)16.0 (高台高)0.8 (口)7.0 (高)1.2	底面跡	石灰大・小瓶、灰石中・小少	内外：5YR2/1黒	へうミヤギキ	黒転ナデ	黒転ナデ	
321	SD44 聖区	土層 小皿	(口)7.0 (高)1.2	2/8	石灰大・小瓶、灰石中・小少	内外：10YR8/2赤黄、10YR6/6黄緑	黒転ナデ	(底)黒転ナデ(底)黒転へう切り	(底)黒転ナデ(底)黒転へう切り	
322	SD44 聖区	土層 瓶	(高)6.8 (高台高)0.8	底面跡	石灰中・大、灰石中・小、赤色	内外：10YR7/2に赤い黄緑、10Y7/2に赤い黄緑	黒転ナデ	黒転ナデ、ナデ、高台貼付	黒転ナデ、ナデ、高台貼付	
323	SD44 聖区	土層 瓶	(高)6.2 (高台高)0.8	底面跡	石灰中・小少、灰石中・小少	内外：N7/6灰白、N6/6灰	黒転ナデ	黒転ナデ(底)黒転へう切り	(1)黒転ナデ(底)黒転へう切り (2)黒転ナデ(底)黒転へう切り	
324	SD44 聖区	黒色 瓶	(口)11.2 (高)3.8 (口)12.0 (高)4.0	底面跡	石灰大・中・小、赤色	内外：10YR8/2灰白、5YR6/6黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
325	SD44 聖区	黒色 瓶	(口)11.0 (高)3.8 (口)12.0 (高)4.0	底面跡	石灰大・中・小、赤色	内外：10YR8/2灰白、2.5YR6/4に赤い電	黒転ナデ			
326	SK10 聖区	土層 杯	(高)7.4 (高)1.6	3/8	石灰大・中・小、赤色	内外：10YR8/2赤黄、5YR7/6黄	黒転ナデ			
327	SK10 V区	土層 杯	(口)11.1 (高)2.5 (底)8.0	1/4底面跡小片	石灰小少	内外：10YR8/2赤黄、5YR7/6黄	黒転ナデ			
328	SK10 V区	土層 杯	(口)12.0 (高)3.1	7/8	石灰大・中・小、赤色	内外：2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
329	SK10 V区	土層 杯	(口)12.8	底面跡	石灰大・中・小、赤色	内外：10YR7/2に赤い黄緑、2.5YR6/6黄	メタフ			
330	SK10 V区	土層 杯	(底)7.6	底面跡	石灰大・中・小、赤色	内外：2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
331	SK11 V区	土層 杯	(口)11.4 (高)3.5 (底)6.5	底面跡	石灰大・中・小、赤色	内外：5YR7/2に赤い黄緑、5YR6/6黄	黒転ナデ			
332	SK10 V区	土層 杯	(口)12.8 (高)3.5 (底)7.0	7/8	石灰大・中・小、赤色	内外：5YR6/6黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
333	SK10 V区	土層 杯	(口)12.6 (高)3.6 (底)6.5	6/8	石灰大・中・小、赤色	内外：10YR8/2赤黄、5YR6/6黄	黒転ナデ			
334	SK10 V区	土層 杯	(口)12.0 (高)2.8 (底)6.5	7/8	石灰大・中・小、赤色	内外：10YR8/2赤黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
335	SK10 V区	土層 杯	(口)12.0 (高)3.0 (底)6.5	6/8	石灰大・中・小、赤色	内外：5YR6/6黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
336	SK10 V区	土層 杯	(高)8.4 (高台高)1.4	6/8	赤黄、灰石中・小瓶、赤色	内外：5YR6/6黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
337	SK10 V区	土層 杯	(高)7.1 (高台高)0.8	底面跡	石灰大・中・小、赤色	内外：5YR6/6黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
338	SK10 V区	土層 杯	(高)8.1 (高台高)1.5	7/8	石灰中・小少、赤色	内外：10YR7/2に赤い黄緑、5YR6/6黄	黒転ナデ			
339	SK10 V区	黒色 瓶	(高)6.8 (高台高)0.9	底面跡	赤黄、灰石中・小瓶、赤色	内外：2N2黒	黒転ナデ			
340	SK10 V区	黒色 瓶	(高)7.8 (高台高)0.8	底面跡	赤黄、灰石中・小瓶、赤色	内外：10YR7/2に赤い黄緑、5YR6/6黄	黒転ナデ			
341	SK10 V区	土層 土蓋	(口)11.1	3/8	赤黄、灰石中・小瓶、赤色	内外：5YR6/6黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
342	SK10 V区	須香 杯蓋	(口)13.8	1/4底面跡小片	石灰中・小少	内外：N6/6灰、外：N7/6灰白、N6/6灰	黒転ナデ			
343	SK10 V区	須香 瓶	(口)30.1	3/8	石灰中・小少	内外：N6/6灰、外：N7/6灰白、N6/6灰	黒転ナデ			
347	SK33 聖区	須香 瓶	(底)7.7	底面跡	石灰大・中・小	内外：10YR8/2に赤い黄緑	メタフ			
348	SK33 聖区	須香 瓶	(底)7.2	底面跡	石灰大・中・小	内外：2.5YR6/6黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
349	SK33 聖区	須香 瓶	(底)7.2	底面跡	石灰大・中・小	内外：2.5YR6/6黄、2.5YR6/6黄	黒転ナデ			
350	SK33 聖区	須香 瓶	(底)3.9	底面跡	石灰大・中・小	内外：10YR8/2に赤い黄緑	ナデ、オサエ			
351	SK33 聖区	須香 瓶	(底)3.9	底面跡	石灰大・中・小、赤色	内外：5YR7/6黄、10YR7/2に赤い黄緑	オサエ			
352	SK33 聖区	須香 瓶	(底)3.9	底面跡	石灰大・中・小	内外：10YR8/2に赤い黄緑	ナデ、オサエ			
353	SK33 聖区	須香 瓶	(底)3.9	底面跡	石灰大・中・小	内外：5YR7/6黄、10YR7/2に赤い黄緑	オサエ			



動物分類	属名	科名	種名	産地	法量	残存率	標本	色調	内面調整	外面調整	備考
380	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛小、長石大、少、 石大、少、赤毛長石中	山陰県	(長)18.2 (短)23.2	無頭部	内外：7.5YR6/4に、ふい、 外：2.5YR6/6青黒	内外：7.5YR6/4に、ふい、 外：2.5YR6/6青黒	ナ、ヨコナ	ナ、ヨコナ	内面文2条、中央1孔 残存
381	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	(山)ヨコナ(体)ナ	(口)ヨコナ(体)ナ	(口)ヨコナ(体)ナ	
382	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	固形ナ	ナ	ナ	
383	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
384	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
385	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
386	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
387	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
388	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
389	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
390	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
391	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
392	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
393	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
394	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
395	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
396	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
397	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
398	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
399	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
400	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
401	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
402	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
403	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
404	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
405	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	
406	第2低山区 地帯	鼠科	赤毛、長石大、少	山陰県	(長)18.4 (短)23.2	山陰部小片	内外：7.5YR6/6青黒 外：2.5YR6/6青黒	ナ	ナ	ナ	

番号	種別	地区	種別	形態	法量	残存率	出土	色量	内訳調査	外部調査	備考
407	低区	土器	弥生 灰	丸型 灰	(底)25	底部2/8	赤褐色、石灰、中少、赤石、中少、赤褐色、中少	内：J5YR6/5に多い、赤石、10YR6/5の少量	(株)ナナ、ハク(底)ナナ	(株)ナナ、タタキ(底)ナナ	黒土
408	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)12.1 (高)15.7 (底)1.0	7/8	石灰、中赤、灰石、中少	内：2.5YR5/6の少量、赤石、2.5YR6/6の少量	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ハク	(口)ヨコナリ(株)ハク(底)ナナ	外周部孔、黒土
409	低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)13.9	口縁部1/8	石灰、中少、灰石、中少	内：5YR6/4に多い、赤石、5YR6/4に多い	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	
410	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)11.2	口縁部1/8	赤褐色、石灰、中少、赤褐色、中少、赤褐色	内：7.5YR6/6に多い、赤石、7.5YR6/6に多い	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	
411	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)13.6	口縁部1/8	石灰、低石、中少	内：10YR6/7の少量、赤石、10YR6/7の少量	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ハク	
412	低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)11.5 (高)1.6	4/8	金葉、中赤、石灰、灰石、中少	内：10YR6/7に多い、赤石、10YR6/7に多い	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	
413	低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)3.1	3/8	石灰、中赤、灰石、中少	内：7.5YR6/6に多い、赤石、7.5YR6/6に多い	ナナ、後ナナ	(株)ハク(底)ナナ	黒土
414	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)13.9	口縁部2/8	金葉、中少、赤石、中少、赤褐色、中少	内：7.5YR6/4に多い、赤石、7.5YR6/4に多い	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ハク	下出部黒土
415	低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)16.0	4/8	石灰、中少、灰石、中少	内：7.5YR7/6に多い、赤石、7.5YR7/6に多い	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ハク	
416	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)12.2	2/8	石灰、中少、灰石、中少	内：7.5YR7/6に多い、赤石、7.5YR7/6に多い	(口)ハク(株)ナナ、後ハク	(口)ハク(株)ナナ、後ハク	
417	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)13.1	上半部2/8	石灰、低石、中少、赤褐色、中少	内：7.5YR7/6に多い、赤石、7.5YR7/6に多い	(口)ナナ(株)ナナ、後ハク	(口)ナナ(株)ナナ、後ハク	
418	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)13.1	5/8	灰土、赤褐色、赤褐色、中少、赤褐色、中少	内：5.5YR6/6に多い、赤石、5.5YR6/6に多い	(口)ナナ(株)ナナ、後ナナ	(口)ナナ(株)ナナ、後ナナ	
419	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)5.6	底部5/8	石灰、中赤、灰石、中少	内：7.5YR6/6に多い、赤石、7.5YR6/6に多い	板ナナ、ナナ、後ナナ	ナナ、後ナナ	底周部孔、黒土
420	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)6.8	底部6/8	石灰、中赤、灰石、中少	内：5YR6/4に多い、赤石、5YR6/4に多い	別置	ナナ	底周部孔、黒土
421	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)15.4 (高)8.6	底部3/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：5YR7/6に多い、赤石、5YR7/6に多い	ナナ	ナナ	底周部孔、黒土
422	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)17.3 (高)7.5	4/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：2.5YR6/6の少量、赤石、2.5YR6/6の少量	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
423	低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)18.4 (高)8.3	3/8	石灰、赤石、中少	内：10YR7/6に多い、赤石、10YR7/6に多い	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
424	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)22.9	1/8	石灰、低石、中少	内：10YR7/6に多い、赤石、10YR7/6に多い	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	外周部赤褐色、黒土
425	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)17.3 (高)7.5	4/8	石灰、低石、中少、赤褐色、中少	内：2.5YR6/6の少量、赤石、2.5YR6/6の少量	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
426	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)18.4 (高)8.3	3/8	石灰、赤石、中少	内：10YR7/6に多い、赤石、10YR7/6に多い	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
427	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)22.9	1/8	石灰、低石、中少	内：10YR7/6に多い、赤石、10YR7/6に多い	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	(口)ヨコナリ(株)ナナ、後ナナ	
428	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)22.9	3/8	石灰、低石、中少、赤褐色、中少	内：2.5YR6/6の少量、赤石、2.5YR6/6の少量	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
429	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)22.9	1/8	石灰、低石、中少、赤褐色、中少	内：2.5YR6/6の少量、赤石、2.5YR6/6の少量	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
430	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(口)14.0 (高)6.7	1/8	石灰、低石、中少	内：5YR6/6に多い、赤石、5YR6/6に多い	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
431	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)5.7	底部5/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：2.5YR6/6の少量、赤石、2.5YR6/6の少量	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
432	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)6.6	底部6/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：5YR6/6の少量、赤石、5YR6/6の少量	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
433	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)6.6	底部6/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：10YR6/6に多い、赤石、10YR6/6に多い	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
434	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)6.6	底部6/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：10YR6/6に多い、赤石、10YR6/6に多い	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
435	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)6.6	底部6/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：10YR6/6に多い、赤石、10YR6/6に多い	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
436	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)6.6	底部6/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：10YR6/6に多い、赤石、10YR6/6に多い	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	
437	2低区	土器	弥生 赤	丸型 赤	(底)6.6	底部6/8	石灰、中赤、灰石、中少、赤褐色、中少	内：10YR6/6に多い、赤石、10YR6/6に多い	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	(口)ナナ、ナナ、後ナナ	









種別	語名	漢字	ローマ字	部位	質量	性状	計量	色調	内訳	内訳要	外訳要	備考
317	高木	高木	カキ	高木	(口)15.4	塊	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白、 外: 10YR4/1に白	(口)ヨコナリ(塊)ナリ (口)ヨコナリ(体)ハラズリ度ナリ ハラミギキ	(口)ヨコナリ(塊)ナリ (口)ヨコナリ(体)ハラズリ度 ハラミギキ (口)ヨコナリ(体)ハラミギキ (口)ヨコナリ(塊)ハラミギキ (口)ヨコナリ(塊)ハラミギキ (口)ヨコナリ(体)ハラミギキ	
318	高木	高木	カキ	高木	(口)14.0	石	口徑28	白	外: 10YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
319	高木	高木	カキ	高木	(口)12.0	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
320	高木	高木	カキ	高木	(口)11.2	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
321	高木	高木	カキ	高木	(口)10.8	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
322	高木	高木	カキ	高木	(口)16.8	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	(口)ヨコナリ(塊)ハラミギキ (口)ヨコナリ(体)ハラミギキ (口)ヨコナリ(塊)ハラミギキ		
323	高木	高木	カキ	高木	(口)14.3	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	(口)ヨコナリ(体)ハラミギキ (口)ヨコナリ(体)ハラミギキ (口)ヨコナリ(体)ハラミギキ		
324	高木	高木	カキ	高木	(口)27.0	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
325	高木	高木	カキ	高木	(口)32.8	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
326	高木	高木	カキ	高木	(口)17.8	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
327	高木	高木	カキ	高木	(口)70.4	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
328	高木	高木	カキ	高木	(口)17.6	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
341	高木	高木	カキ	高木	(口)15.6	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
342	高木	高木	カキ	高木	(口)24.2	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
343	高木	高木	カキ	高木	(口)23.8	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
344	高木	高木	カキ	高木	(口)17.9	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
345	高木	高木	カキ	高木	(口)15.6	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
346	高木	高木	カキ	高木	(口)17.2	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
347	高木	高木	カキ	高木	(口)16.5	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
348	高木	高木	カキ	高木	(口)17.2	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
349	高木	高木	カキ	高木	(口)16.5	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
350	高木	高木	カキ	高木	(口)18.2	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
351	高木	高木	カキ	高木	(口)17.9	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
352	高木	高木	カキ	高木	(口)17.6	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
353	高木	高木	カキ	高木	(口)17.6	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		
354	高木	高木	カキ	高木	(口)17.6	石	口徑28	白	外: 5YR6/5 内: 5YR7/1に白、 外: 10YR4/1に白	ヨコナリナリ		









登録番号	園名	園区	園種	法量	発表年	園十	色調	内面調整	外面調整	備考
713	池田07	園区 上野	土師 小庭	(園)12.2 (園)11.4	36	石炭・小庭・長石・中庭・赤石炭・小庭・長石・中庭	内：2.5YR7/6赤褐色 外：2.5YR7/6赤褐色	園庭ナア	(□)マメツ(園)庭ナア(庭)庭ナア (□)阿能ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
714	池田07	園区 上野	土師 小庭	(園)11.0 (園)11.1	68	石炭・中庭・長石・中庭 石炭・小庭・長石・中庭 赤石炭・小庭	内：10YR6/6赤褐色 外：10YR6/6赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
715	池田07	園区 上野	土師 小庭	(園)11.2 (園)11.2	36	石炭・小庭・長石・中庭 石炭・小庭・長石・中庭	内：10YR6/6赤褐色 外：10YR6/6赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
716	池田07	園区 下野	土師 小庭	(園)11.5 (園)11.5	36	石炭・小庭・長石・中庭 石炭・小庭・長石・中庭	内：2.5Y7/6赤褐色 外：2.5Y7/6赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
717	池田07	園区 下野	土師 小庭	(園)11.5 (園)11.5	18	石炭・小庭・長石・中庭 石炭・小庭・長石・中庭	内：2.5Y7/6赤褐色 外：2.5Y7/6赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
718	池田07	園区 上野	瓦器 小庭	(園)11.5 (園)11.5	36	石炭・中庭・長石・中庭 石炭・小庭・長石・中庭	内：N5/灰白 外：N5/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
719	池田07	園区 上野	瓦器 小庭	(園)11.5 (園)11.5	18	石炭・中庭・長石・中庭 石炭・小庭・長石・中庭	内：N5/灰白 外：N5/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
720	池田07	園区 下野	瓦器 小庭	(園)12.0 (園)12.0	28	石炭・中庭・長石・中庭 石炭・小庭・長石・中庭	内：N6/灰白 外：N6/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
721	池田07	園区 下野	瓦器 小庭	(園)12.0 (園)12.0	28	石炭・中庭・長石・中庭 石炭・小庭・長石・中庭	内：N6/灰白 外：N6/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
722	池田07	園区 下野	土師 台付 小庭	(園)10.9 (園)10.9	28	赤石炭・中庭・長石・中庭 赤石炭・小庭・長石・中庭	内：4.5YR6/6赤褐色 外：4.5YR6/6赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
723	池田07	園区 上野	土師 庭	(園)16.1 (園)16.1	底庭28	石炭・中庭・長石・中庭	内：10YR6/6赤褐色 外：10YR6/6赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
724	池田08	園区 上野	黒色土 庭	(園)15.1	口縁部16	石炭・長石・小庭	内：7.5Y2/1黒 外：7.5Y2/1黒	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
725	池田07	園区 上野	黒色土 庭	(園)15.0	口縁部小片	石炭・長石・中庭・小庭	内：2.5Y7/2黒 外：2.5Y7/2黒	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
726	池田07	園区 上野	瓦器 庭	(園)15.9 (園)15.9	28	石炭・小庭	内：5Y7/灰白 外：5Y7/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
727	池田07	園区 上野	瓦器 庭	(園)15.6 (園)15.6	底庭28	石炭・中庭・長石・小庭	内：5Y7/灰白 外：5Y7/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
728	池田07	園区 上野	瓦器 庭	(園)16.0 (園)16.0	底庭28	石炭・中庭・長石・小庭	内：5Y7/灰白 外：5Y7/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
729	池田07	園区 上野	瓦器 庭	(園)16.3	口縁部小片	石炭・中庭	内：N4/灰 外：N4/灰	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
730	池田07	園区 下野	瓦器 庭	(園)16.3	口縁部小片	石炭・小庭・長石・小庭	内：5Y7/灰白 外：5Y7/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
731	池田07	園区 下野	瓦器 庭	(園)18.2	口縁部小片	石炭・中庭・長石・中庭・小庭	内：5Y7/灰白 外：5Y7/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
732	池田07	園区 下野	瓦器 庭	(園)15.1 (園)15.1	底庭28	石炭・中庭	内：2.5Y8/2赤褐色 外：2.5Y8/2赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
733	池田07	園区 下野	瓦器 庭	(園)16.0 (園)16.0	底庭28	金銅・石炭・小庭・長石・中庭	内：5Y8/2赤褐色 外：5Y8/2赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
734	池田07	園区 下野	瓦器 庭	(園)16.0 (園)16.0	小片	石炭・中庭・長石・小庭	内：N6/灰白 外：N6/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
735	池田07	園区 上野	瓦器 庭	(園)19.3(園)20 (園)19.3(園)20)	底庭28	石炭・長石・中庭	内：N7/灰白 外：N7/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
736	池田07	園区 上野	須磨 庭	(園)17.5	底庭28	石炭・中庭・長石・中庭・小庭	内：N6/灰 外：N4/灰	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
737	池田07	園区 上野	須磨 庭	(園)17.5	底庭28	石炭・中庭・長石・中庭・小庭	内：5Y7/灰白 外：5Y7/灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
738	池田07	園区 下野	土師 庭	(園)17.5	口縁部小片	石炭・長石・小庭	内：N5/灰 外：N5/灰	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
739	池田07	園区 下野	土師 庭	(園)17.5	口縁部小片	石炭・中庭・長石・小庭	内：5Y8/2赤褐色 外：2.5Y8/2赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
740	池田08	園区	赤土 庭	(園)11.0	底庭28	石炭・中庭・長石・小庭	内：10YR6/6赤褐色 外：10YR6/6赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
741	池田08	園区	須磨 庭	(園)17.5	底庭28	石炭・中庭	内：N7/灰 外：N6/灰	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
742	池田08	園区	土師 小庭	(園)11.0 (園)11.0	28	長石・中庭	内：10YR6/6赤褐色 外：10YR6/6赤褐色	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	
743	池田08	園区	土師 小庭	(園)15.0 (園)15.0	28	石炭・中庭・赤石炭・小庭	内：2.5Y8/1灰白 外：2.5Y8/1灰白	園庭ナア	(□)園庭ナア(庭)庭ナア(庭)庭ナア	

番号	町名	地区	路線	区画	法面	残存率	地土	色調	中間調整	外形調整	備考
744	北郷08	電区	土師 小皿	(口)6.0 (口)11.3	28	石灰・長石・小少	内：10YR6/6黄褐色 外：2.5YR6/6黄褐色	同転ナブ	(口)同転ナブ(底)ヘラ切り後ナ		
745	北郷08	電区	七郎 小皿	(口)8.9 (口)11.1	38	石灰・中黒・長石中粒	内：2.5YR6/6黄褐色 外：2.5YR6/6黄褐色	同転ナブ	(口)同転ナブ(底)ヘラ切り		
746	北郷08	電区	土師 小皿	(口)7.3 (口)10.9	38	石灰・中黒・長石大・中少	内：10YR7/0に赤い黄褐色 外：10YR7/0に赤い黄褐色	同転ナブ	(口)同転ナブ(底)ヘラ切り後ナ		
747	北郷08	電区	七郎 小皿	(口)8.9 (口)10.9	38	石灰・長石大・中黒	内：10YR7/0に赤い黄褐色 外：10YR7/0に赤い黄褐色	同転ナブ	(口)同転ナブ(底)ヘラ切り後ナ		
748	北郷08	電区	七郎 小皿	(口)9.1 (口)11.3	28	石灰・中黒・小少・長石大・小 黒・赤色粒中粒	内：10YR6/2灰白 外：N5灰	同転ナブ	(口)同転ナブ(底)ヘラ切り後ナ		
749	北郷08	電区	瓦器 小皿	(口)8.7 (口)11.6	17線部1/8	石灰・中黒・長石中粒	内：N5灰 外：N7灰白	ヨココナブナブ	(口)ヨココナブ(底)オサエ後ナ		
750	北郷08	電区	瓦器 小皿	(口)8.9 (口)11.6	17線部2/8	長石中粒	内：N5灰 外：N7灰白	マメツ	(口)ヨココナブ(底)オサエ後ナ		外形調整後
751	北郷08	電区	瓦器 小皿	(口)8.4	17線部2/8	石灰・中黒・長石中少	内：2.5YR7/1黒	同転ナブ			
752	北郷08	電区	土師 小皿	(口)14.1 (口)14.5	78	石灰・長石大・小少・赤色 長石大・小少	内：10YR6/2灰白 外：N6灰	同転ナブ			
753	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)13.9	17線部1/8	石灰・中黒・長石中少・赤 色長石大・小少	内：10YR6/2灰白 外：N6灰	同転ナブ			
754	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)14.4	17線部1/8	石灰・中黒・小少・長石大・小 少・赤色粒中・小少	内：N6灰 外：10YR6/2灰白	同転ナブ			
755	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)14.8	17線部1/8	金雲中黒・石灰中・小黒 長石大・小少	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y2/1黒	同転ナブ			
756	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)7.6 (口)10.5	底部3/8	変態中黒・長石大・中 少・赤色長石中少	内：N30灰 外：2.5Y2/1灰白 外：10YR6/2灰白	同転ナブ			
757	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)7.4 (口)10.7)	底部2/8	石灰・中黒・長石中少・赤 色長石中・小少	内：N30灰 外：2.5Y2/1灰白 外：10YR6/2灰白	同転ナブ			
758	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)6.4 (口)10.9)	底部3/8	石灰・中黒・長石大・小 少・赤色粒中・小少	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y2/1黒	同転ナブ			
759	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)6.6 (口)10.7)	底部2/8	石灰・中黒・小少・長石中・小 少・赤色長石中・小少	内：N6灰 外：10YR6/2灰白	同転ナブ			
760	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)7.4 (口)10.7)	底部2/8	石灰・中黒・小少・長石中・小 少・赤色長石中・小少	内：N6灰 外：10YR6/2灰白	同転ナブ			
761	北郷08	電区	黒色A 柄	(口)7.0 (口)10.5)	底部2/8	石灰・中黒・小少・長石中・小 少・赤色長石中・小少	内：2.5Y2/1灰白 外：2.5Y2/1灰白	同転ナブ			
762	北郷08	電区	黒色B 柄	(口)14.7	17線部1/8	石灰・長石中少	内：2.5Y2/1灰白 外：2.5Y2/1灰白	同転ナブ			
763	北郷08	電区	黒色B 柄	(口)15.3	17線部2/8	石灰・中・小少・長石中少	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y2/1黒	同転ナブ			
764	北郷08	電区	黒色B 柄	(口)15.6	17線部2/8	石灰・中・小少・長石中少 赤色長石中・小少	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y2/1黒	同転ナブ			
765	北郷08	電区	黒色B 柄	(口)16.0	17線部2/8	石灰・中・小少・長石中・小 少・赤色長石中・小少	内：2.5Y2/1黒 外：2.5Y2/1黒	同転ナブ			
766	北郷08	電区	山紫 柄	(口)16.0	17線部2/8	石灰・中・小少・長石中・小 少・赤色長石中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			
767	北郷08	電区	丸器 柄	(口)16.0	17線部2/8	石灰・中・小少・長石中・小 少・赤色長石中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			
768	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)18.4	17線部1/8	石灰・中・小少・長石中・小 少・赤色長石中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			
769	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)17.4	17線部1/8	石灰・中・小少・長石中・小 少・赤色長石中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			
770	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)14.8	小片	石灰・中・小少	内：N5灰 外：N4灰	同転ナブ			
771	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)15.1	17線部1/8	石灰・中・小少	内：5Y7/0灰白 外：5Y7/0灰白	同転ナブ			
772	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)15.1	17線部1/8	石灰・中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			
773	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)15.1	17線部1/8	石灰・中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			
774	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)15.1	17線部1/8	石灰・中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			
775	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)15.1	17線部1/8	石灰・中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			
776	北郷08	電区	瓦器 柄	(口)15.1	17線部1/8	石灰・中・小少	内：N5灰 外：N5灰	同転ナブ			



調査番号	調査名	調査区	調査区	出土状況	器種	粘土	色調	内面調整	外面調整	備考
777	北照路05 Ⅲ区	瓦器 鉢	(口)27.1 (高)4.7 (底)1.8	石英・長石大~小量、赤色	内外: NS/灰		(口)ヨコナナ(赤)ナ字後ヘラミ	ナ字後ヘラミ	(口)ヨコナナ(赤)ナ字後ヘラミ	ナ字後ヘラミ
778	北照路05 Ⅲ区	瓦器 鉢	(底)55.2 (高)10.6 (底)10.6	石英大~小量、長石大~小量	内外: NS/灰		ヘラミナ字	ヘラミナ字	(口)ヨコナナ(赤)ナ字後ヘラミ	ナ字後ヘラミ
779	北照路05 Ⅲ区	瓦器 鉢	(高)51.1 (高)10.6	長石中~小量、長石中少	内外: NS/灰		ヘラミナ字	ヘラミナ字	ヨコナナ、ナ字	ナ字
780	北照路05 Ⅲ区	瓦器 鉢	(高)28	長石中~小量、長石中少	内外: NS/灰		ヘラミナ字	ヘラミナ字	ヨコナナ、ナ字	ナ字
781	北照路05 Ⅲ区	瓦器 鉢	(高)16.6 (高)10.5	長石中少	内外: NS/灰		ヘラミナ字	ヘラミナ字	ヨコナナ、ナ字	ナ字
782	北照路05 Ⅲ区	白磁 碗	小片	長石小量	内外: NS/灰		ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾
783	北照路05 Ⅲ区	白磁 鉢	(口)17.2	長石小量	内外: NS/灰		ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾
784	北照路05 Ⅲ区	白磁 鉢	(高)6.4 (高)10.4	長石中少	内外: NS/灰		ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾
785	北照路05 Ⅲ区	須恵 壺	(口)24.0	石英大~中量、長石中~小量	内外: NS/灰		ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾	ヨコナナ後縁飾
786	北照路05 Ⅲ区	須恵 壺	(口)21.2(復甦)	石英中~小量、長石中~小量	内外: NS/灰		ナ字	ナ字	ナ字	ナ字
787	北照路05 Ⅲ区	土師 壺	(口)21.2(復甦)	石英中~小量、長石中~小量	内外: NS/灰		ナ字	ナ字	ナ字	ナ字
788	北照路05 Ⅲ区	須恵 鉢	(口)24.8	石英大~中量、長石中~小量	内外: NS/灰		ナ字	ナ字	ナ字	ナ字
789	北照路05 Ⅲ区	須恵 鉢	(口)24.8	石英大~中量、長石中~小量	内外: NS/灰		ナ字	ナ字	ナ字	ナ字

第14表 寺田・産宮遺跡出土瓦観察表

調査番号	調査区	調査区	出土状況	器種	粘土	色調	内面調整	外面調整	備考
369	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②-①層	瓦	石英・長石大・中量	凹: 1NYR/70に多い黄斑 凸: 2.5YR6/6黄斑	ナ字	ナ字	タタキ
383	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②層	瓦	石英大・中少、長石大~小量	凹: 1NYR/70に多い黄斑 凸: 2.5YR6/6黄斑	ナ字	ナ字	タタキ
431	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	瓦	石英大・中少、長石大~小少、赤色粒石大・中少	凹: 1NYR/70に多い黄斑 凸: 2.5YR6/6黄斑	布目、ハケ	ナ字	ナ字
432	第2低地帯	Ⅲ区	土器溜まり	瓦	金華母、石英中量、長石大・中少	凹: 2.5Y7/70灰白・2.5Y7/10灰白	ママツ	ママツ	ママツ
529	第2低地帯	Ⅲ区	須恵質瓦	須恵質瓦	石英大~小少、長石大~小量	凹凸: 2.5Y7/70灰白・5YR7/4に多い黄斑	布目	ママツ	ママツ
616	第3低地帯北照路04	Ⅲ区	須恵質瓦	須恵質瓦	石英・長石中・小少	凹凸: 5Y6/1灰	布目	ママツ	ママツ
710	第3低地帯北照路06	Ⅲ区	須恵質瓦	須恵質瓦	石英・長石大~小量	凹: NS/灰 凸: 5Y8/1灰白	布目	ママツ	ママツ
711	第3低地帯北照路06	Ⅲ区	須恵質瓦	須恵質瓦	石英大~小少、長石中・小量、赤色粒石大~小少	凹: NS/灰 凸: N7/1灰白	布目	ママツ	ママツ
790	第3低地帯北照路08	Ⅲ区	須恵質瓦	須恵質瓦	石英大・中量、長石大・中多	凹凸: 2.5Y4/10黄斑	布目	ママツ	ママツ
791	第3低地帯北照路08	Ⅲ区	須恵質瓦	須恵質瓦	石英大~小少、長石大~小量	凹: 5Y6/1灰 凸: NS/灰	布目	ママツ	ママツ

第15表 寺田・産宮遺跡出土木製品調査表

遺物番号	報告遺物名	調査区	出土状況	種類	木取り	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	備考
312	SE01	Ⅳ区		木札	板目材	6.9	3.9	0.4		
313	SE01	Ⅳ区		桃核		1.9	2.7	1.5		重量 2.12 g
314	SE01	Ⅳ区		桃核		1.8	2.7	1.5		重量 2.17 g
530	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	鉄未製品	榎目材	24.1	17.1	5.2		樹皮が残っている
531	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	鉄未製品	板目材	35.0	21.2	4.9		樹皮が散漫に残っている
532	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	鉄	榎目材	13.8	7.9	3.7		舟形隆起片
533	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ⑥層	板材	榎目材	23.0	11.6	1.4		
534	第2低地帯	Ⅲ区	Ⅱ②~④層	板材	榎目材	16.0	5.2	3.2		
617	流路04	Ⅳ区	下層	不明	榎目材	40.7	16.2	1.5		
618	流路04	Ⅳ区	下層	不明	榎目材	25.1	12.6	2.5		
619	流路04	Ⅳ区	下層	不明	榎目材	6.7	8.3	1.3		
620	流路04	Ⅳ区	木製品集積遺構02	鉄未製品	榎目材	30.3	21.5	4.3		
621	流路04	Ⅳ区	木製品集積遺構02	鉄未製品	榎目材	34.8	21.7	4.7		
622	流路04	Ⅳ区	木製品集積遺構02	匙	芯持ち材	29.0	9.1	2.5		芯が通っている
623	流路04	Ⅳ区	木製品集積遺構02	匙	芯持ち材	35.2	6.5	1.9		芯が通っている
624	流路04	Ⅳ区	木製品集積遺構02	匙	芯持ち材	32.6	9.0	3.6		芯が通っている
625	流路04	Ⅳ区	下層	杵?	芯持ち材	31.0	7.9	7.2		
626	流路05	Ⅳ区		杭	芯持ち材	24.8	6.8	5.6		
627	流路05	Ⅳ区		杭	芯持ち材	52.5	5.3	4.8		樹皮が散漫に残っている
628	流路05	Ⅳ区		杭	芯持ち材	55.5	4.5	2.7		
629	流路04	Ⅳ区	下層	板状木製品	榎目材	37.7	11.0	3.8		
630	流路04	Ⅳ区	下層	板状木製品	榎目材	50.5	6.9	3.3		一部炭化
631	流路04	Ⅳ区	下層	板状木製品	榎目材	62.4	8.0	1.3		
632	流路04	Ⅳ区	下層	板状木製品	榎目材	29.7	5.7	1.2		
633	流路04	Ⅳ区	下層	板状木製品	榎目材	148.0	10.2	4.5		ミカン樹材

第16表 寺田・産宮通遺出土石器類表

遺物番号	報告書番号	調査区	出土状況	器種	石材	幅(mm)	長さ(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	備考
17	SH02	I区	Ⅰ区	石鏃	サヌカイト	33.0	12.0	4.0	1.82		
18	SH02	I区	Ⅰ区	楔形石器	サヌカイト	42.0	28.5	13.0	16.99		
19	SH02	I区	Ⅰ区	石包丁 彫用楔形石器	サヌカイト	34.0	18.5	7.5	4.97		
20	SH02	I区	Ⅰ区	楔形石器の素材	ハリ質安山岩	28.0	25.5	10.5	7.22		
21	SH02	I区	SP67	削器	サヌカイト	58.5	30.0	7.0	10.71		
22	SH02	I区	Ⅰ区	削器	サヌカイト	28.0	43.5	6.0	8.77		
24	SH03	Ⅱ区	Ⅱ区	石包丁	サヌカイト	51.5	32.0	6.0	12.33	1/2	
83	SH06	Ⅱ区	Ⅱ区	石鏃	サヌカイト	24.0	13.0	4.0	1.18		
107	SP66	I区	Ⅰ区	楔形石器	サヌカイト	36.5	23.5	6.0	6.55		
188	SK01	I区	Ⅰ区	石鏃	サヌカイト	19.5	13.5	2.5	0.50		
125	SP03	Ⅱ区	SP52	槍先形石器	サヌカイト	20.0	26.5	7.0	4.28		
136	SP03	I区	SP50	石小刀	サヌカイト	30.5	21.0	8.0	4.56		
167	SD02	I区	Ⅰ区	石包丁	サヌカイト	43.5	49.5	8.0	21.12		
222	包含層	Ⅱ区	Ⅱ③層	石鏃	サヌカイト	38.5	14.5	3.5	1.58		
223	第1低地帯	I区	Ⅱ③-④層	石鏃	サヌカイト	34.0	14.5	4.5	2.44		
224	第1低地帯	I区	Ⅱ③-④層	石鏃	サヌカイト	22.5	16.5	3.5	1.80		
225	第1低地帯	Ⅱ区	Ⅱ③-④層	楔形石器	サヌカイト	35.0	21.5	8.5	6.26		
226	第1低地帯	I区	Ⅱ③-④層	楔形石器	サヌカイト	29.0	25.5	10.5	7.63		
227	第1低地帯	I区	Ⅱ③-④層	楔形石器削片	サヌカイト	26.5	14.0	8.5	2.83		
228	第1低地帯	I区	Ⅱ③-④層	楔形石器削片	サヌカイト	37.0	11.0	7.0	2.71		
229	包含層	Ⅱ区	Ⅱ③-④層	錠状の削片	サヌカイト	56.5	22.0	7.5	9.69		
230	第1低地帯	I区	Ⅱ③-④層	調整削片	サヌカイト	29.0	24.5	9.0	6.29		
231	包含層	I区	Ⅱ③-④層	削器	サヌカイト	42.0	43.5	10.0	20.48		
232	第1低地帯	I区	Ⅱ③-④層	石鏃	サヌカイト	25.0	20.5	13.0	5.65		
233	第1低地帯	Ⅱ区	Ⅱ③-④層	柱状片刃石斧	結晶片石	151.5	35.5	19.0	228.46		
234	第1低地帯	I区	Ⅱ③-④層	石鏃紡織車未製品	流紋岩	63.0	59.0	11.5	64.48		
269	SP96	Ⅱ区	Ⅱ区	砥石	安山岩	205.0	96.0	41.0	1046.39		
311	SE01	Ⅱ区	下層	凹石	安山岩	75.5	80.0	29.0	216.13		
344	SE02	Ⅱ区	Ⅱ区	石鏃	サヌカイト	20.0	12.0	2.5	0.78		
345	SE02	Ⅱ区	Ⅱ区	楔形石器	サヌカイト	45.0	49.0	16.0	49.91		
346	SE02	Ⅱ区	Ⅱ区	太型給刃石斧	凝灰岩	50.0	47.5	32.0	68.98		
349	SK06	Ⅱ区	Ⅱ区	楔形石器の削片	サヌカイト	30.0	12.0	6.0	2.34		
535	第2低地帯	Ⅱ区	Ⅱ⑤層	石鏃	サヌカイト	17.5	13.5	1.5	0.39		
536	第2低地帯	Ⅱ区	Ⅱ⑥層	太型給刃石斧	安山岩	93.5	66.5	57.0	439.46		
557	第2低地帯	Ⅱ区	Ⅱ⑦層	磨石	半滑成岩	66.5	50.5	46.0	217.24		
558	第2低地帯	Ⅱ区	Ⅱ④層	砥石	砂岩	140.0	108.5	41.0	855.72		
539	第2低地帯	Ⅱ区	Ⅱ④-⑩層	破き石	砂岩	177.5	120.5	9.0	3258.00		
634	第3低地帯流路04	Ⅱ区	Ⅱ④層	石鏃	サヌカイト	34.0	12.0	2.5	1.35		
635	包含層	Ⅱ区	Ⅱ区	石鏃	サヌカイト	23.5	18.0	4.5	1.01		

通物番号	報告通称名	調査区	出土状況	器種	石材	幅(㎜)	長さ(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	残存度	備考
636	包舎層	Ⅴ区		石塊	サヌカイト	26.0	19.0	5.5	2.24		
637	第3低地帯遊路04	Ⅴ区	上層	削器	サヌカイト	36.5	44.5	9.0	13.60		
638	包舎層	Ⅴ区		削器	サヌカイト	77.0	33.0	11.0	24.42		
639	第3低地帯遊路04	Ⅴ区	下層	石漣	サヌカイト	31.5	65.0	6.0	14.83		
640	第3低地帯遊路04	Ⅴ区	上層	模形石器	サヌカイト	28.0	26.0	6.0	4.57		
641	第3低地帯遊路04	Ⅴ区	上層	模形石器の素材	サヌカイト	29.5	24.0	4.5	4.65		
642	第3低地帯遊路04	Ⅴ区	上層	打製石器	安山岩	84.0	63.5	13.0	98.14		
643	包舎層	Ⅳ区		石包丁未製品	結晶片石	46.5	59.0	6.5	32.57		
644	第3低地帯遊路04	Ⅴ区		石製紡錘車未製品	流紋岩	54.5	53.0	11.0	40.27		
645	第3低地帯遊路04	Ⅴ区		巖き石	半深成岩	101.5	79.5	4.0	488.29		
646	第3低地帯遊路04	Ⅴ区		巖き石	閃輝岩	141.0	42.0	22.0	286.24		
647	包舎層	Ⅴ区		巖き石	安山岩	63.0	28.0	18.5	56.37		
679	第3低地帯遊路05	Ⅴ区		削器	サヌカイト	59.0	39.5	7.5	21.87		

県道高松長尾大内線道路改良事業に伴う

# 埋蔵文化財発掘調査報告

## 南天枝遺跡

2003. 3

香 川 県 教 育 委 員 会  
(財)香川県埋蔵文化財調査センター

# 第I章 調査の経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

主要地方道高松長尾大内線（県道10号線）は、高松市から木田郡三木町、旧大川郡長尾町・寒川町・大川町を経て大内町で国道11号に合流する全長28kmの東讃地域の主要幹線道路である。しかし、近年の産業・経済の発展ならびに沿線における住宅地開発の急速な進展に伴い、交通量の増加は著しく、各所で交通渋滞が頻繁に起こるようになった。このため、土木部道路建設課（当時は道路課）は、本路線のバイパス（約22km）を現道の南約500mに建設する事になり、昭和48年度より寒川工区、昭和54年度より高松工区等より順次工事を開始した。

香川県教育委員会と土木部道路建設課は、路線上の埋蔵文化財の取り扱いについて、各工区単位で同路線のバイパス計画に関する事前協議を継続して行い、路線周辺に多数の遺跡が所在していることから、工事を実施する際には、十分な保護処置が必要であることの合意がなされ、昭和51年の布勢遺跡の調査を始点として、平成4年の長尾町尾崎西遺跡、平成6年の高松市十川東・平田遺跡、平成8・9年の三木町尾端遺跡等の諸遺跡の調査を実施した。

三木工区の西端の吉田川から高松市までの区間では平成6年度に至り用地買収が進んできたことから、同年11月に試掘調査を実施する事になった。その結果、対象地の東半部の微高地上から7～8世紀のピット群及び溝等を確認し、保護措置が必要と判断され「南天枝遺跡」と呼称する事になった。保護措置の必要な範囲は約3,800㎡を測る。なお、本調査は香川県土木部から依頼を受け、平成8年に香川県教育委員会が調査主体となり（財）香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当者として調査を実施した。

## 第2節 調査の経過

調査期間は平成8年4月1日から平成8年11月31日までの8ヶ月間で実施した。調査対象面積は3,800㎡を測る。調査に先だって、対象地の調査区を東端より西端へ向けてⅠ～Ⅲ区に区分し、残土の仮置き場等の作業ヤードの問題より、東端のⅠ区－西端のⅢ区－中央のⅡ区の順で調査を進めた。なお、調査は機械掘削・人力掘削等を土木業者に請け負わせる工事請負方式で実施し、遺構の測量は調査員による手描と航空測量を併用した。対象地は当初より複数遺構面を想定していたが、調査開始後広範囲に複数遺構面が広がっていることが明らかになり、延べ調査面積も5,000㎡を超えた。遺構の密度も当初予想よりはるかに高いものになった。なお、詳細な調査工程は第17表のとおりである。

第17表 調査工程表

調査区	面積 (㎡)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
Ⅰ区	1,488	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅱ区	947	■	■	■	■	■	■	■	■
Ⅲ区	1,365	■	■	■	■	■	■	■	■
合計	3,800	■	■	■	■	■	■	■	■

■ 準備・片付  
□ 調査

次に整理作業は、調査終了後5年を経た平成13年12月1日から開始し、平成14年3月31日に終了した。  
平成8年度の発掘調査及び平成13年度の整理作業の体制は、以下のとおりである。

(平成8年度)

文化行政課

総括 課 長 藤原章夫  
課長補佐 高木一義  
課長補佐 北原和利  
副 主 幹 渡部明夫  
総務 係 長 山崎 隆  
主 査 星加宏明  
主 事 國方秀子 (6.1 転出)  
主 事 打越和美  
埋蔵文化財 文化財専門員 木下晴一  
技 師 塩崎誠司  
文化財専門員 植松邦浩

(財) 香川県埋蔵文化財調査センター

総括 所 長 大森忠彦  
次 長 小野善範  
総務 参 事 別枝義昭  
係 長 前田和也  
主 査 西村厚二 (6.1 転出)  
主 査 水卜照代  
主任主事 西川 大  
主 事 佐々木隆司 (6.1 転入)  
調査 参 事 近藤和史  
主任文化財専門員 廣瀬常雄  
主任文化財専門員 大山真充  
係 長 藤好史郎  
文化財専門員 西村尋文  
文化財専門員 山下浩行  
調査技術員 松尾 歩  
調査補助員 溝口幸一

(平成13年度)

文化行政課

総括 課 長 北原和利  
課長補佐 小国史郎  
副 主 幹 大山真充  
総務 副 主 幹 中村慎伸  
主 査 須崎陽子  
主 事 亀田幸一  
埋蔵文化財 係長 西岡達哉  
文化財専門員 古野徳久  
文化財専門員 宮崎哲治

(財) 香川県埋蔵文化財調査センター

総括 所 長 小原克己  
次 長 川原裕章  
総務 参 事 河野浩征  
副 主 幹 大西誠治  
係 長 多田敏弘  
主 査 山本和代  
主任主事 高木康晴  
調査 参 事 梅木正信  
主任文化財専門員 廣瀬常雄  
主任文化財専門員 真鍋昌宏  
文化財専門員 西村尋文

(整理作業参加者)

東條俊子、三谷和子、松尾優子、徳永貴美、田村里美、門脇範子、松崎千春、香川洋子、白川智子

(編集・校正作業参加者)

葛西 薫、溝渕さや香、角田三保

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

南天枝遺跡が所在する三木町は、香川県東部の木田郡の南に位置する。西は高松市、東は旧大川郡長尾町、北は立石山山系を挟んで牟礼町及び旧大川郡志度町、南は塩江町と徳島県との県境に接する。三木町は、南北を山塊に囲まれ、中央は高松市から続く平野部が広がる。南方の阿讃山脈からはこの平野部に向かって多くの低丘陵が北に細長く延びる。この低丘陵間を吉田川・新川・春日川等の小河川が北流し、高松市域で瀬戸内海に注ぐ。なお、吉田川は高松市東辺の高松市前田町周辺で新川に合流する。南天枝遺跡は、高松市と三木町の境界より東へ延長800m、町道田中水上線の北約20mの、木田郡三木町田中南天枝に所在する。



第118図 南天枝遺跡位置図

地形的には、遺跡の西に所在する蓮池の東岸を形成する低位段丘面先端の微高地上に位置する。また、遺跡の西側には、旧河道1が南北に延びる。旧河道1は、蓮池の東・西岸を構成する段丘間の谷筋の東縁辺部より、吉田川に向けて南北に延びている旧河道である。この谷筋の西の縁辺部には、小規模な旧河道2が南北に延びる。なお、蓮池の西岸に南北に派生する段丘上には、古墳時代後期末頃の集落跡である尾端遺跡、また、尾端遺跡より旧河道3を隔てた西方の微高地上には、弥生時代後期、鎌倉時代の集落跡である十川東・平田遺跡が所在する。南天枝遺跡が所在する微高地上の調査区は、現地表を観察する限り平坦で目立った特徴は見あたらないが、調査により、幅広で浅い谷が3条確認された。これらの浅谷は、北に向かって「ハ」の字状に開く浅い谷で、蓮池の東岸を形成する低位段丘の東縁辺部より調査地へ派生しているものと考えられる。その中で、浅谷3は調査区より北西方向に延びて、旧河道1と合流する。遺跡は浅谷間の微高地上に広がるが、浅谷の区域では谷の上面及び河床面上とで、複数の遺構面を確認した。

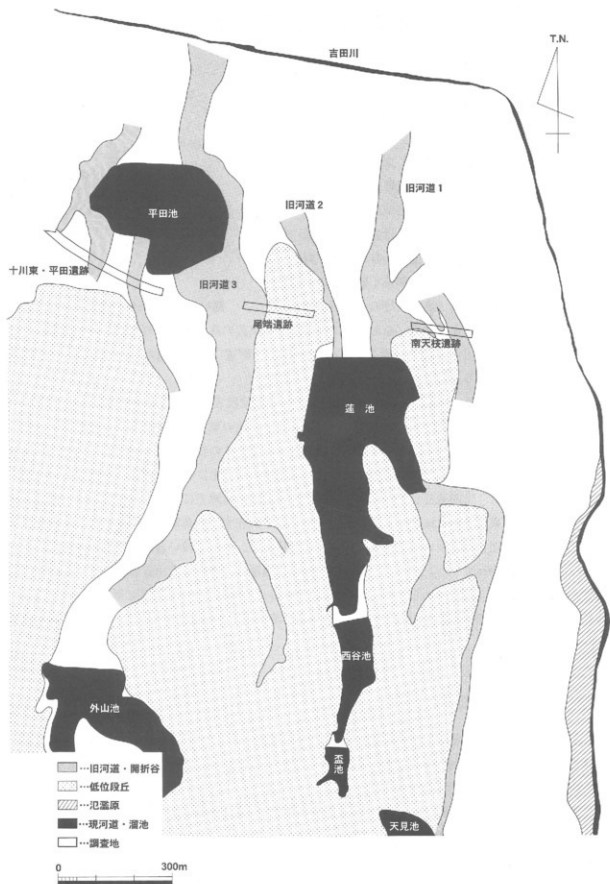
### 第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する三木町は、弥生時代前期より古墳時代をへて古代～中世にいたるまで著名な遺跡が多数位置している。特に、近年の大規模開発に伴う発掘調査の成果により実態が明らかになりつつある。次に時代順に周辺の遺跡を概観する。

三木町内の旧石器時代の資料は皆無である。縄文時代も同様に皆無に近いが、隣接する高松市十川町の十川東・平田遺跡からは縄文草創期の有舌尖頭器が出土している。また、縄文時代の遺構ははっきりしないが、尾端遺跡、西浦谷遺跡から落とし穴状の遺構が数基検出している。

弥生時代になれば遺跡数も増えてくる。弥生時代前期では農学部遺跡、福万遺跡、鹿伏・中所遺跡等で前期の新段階の土器が多量に出土している。また、農学部遺跡では敷地の南半部に同時期の集落が発





第119図 微地形分類図



- |               |              |                   |
|---------------|--------------|-------------------|
| 1. 南天杖遺跡      | 16. 白山1遺跡    | 31. 出之山南古墳        |
| 2. 前田城        | 17. 白山2遺跡    | 32. 四十塚古墳         |
| 3. 平尾1~3号墳    | 18. 白山3遺跡    | 33. 上田中城跡         |
| 4. 平尾小1~11号墳  | 19. 串田城      | 34. 雷塚古墳          |
| 5. 塚谷古墳       | 20. 農學部遺跡    | 35. 公湖池1号窯        |
| 6. 小谷塚跡       | 21. 砂入遺跡     | 36. 公湖池2号窯        |
| 7. 西浦谷遺跡      | 22. 西尾天神社古墳  | 37. 公湖池3号窯        |
| 8. 音連寺        | 23. 懸宇神社経塚   | 38. 中坪塚跡          |
| 9. 始末寺跡       | 24. 西尾遺跡     | 39. 尊壽寺跡          |
| 10. 権八原古墳群    | 25. 十川塚・平田遺跡 | 40. 丘長塚寺跡         |
| 11. 池戸八幡神社1号墳 | 26. 尾塚遺跡     | 41. 上高岡廃寺         |
| 12. 高岡城       | 27. 福万遺跡     | 42. 山大寺池西丘上古墳1~3号 |
| 13. 鹿伏・中所遺跡   | 28. 十河城跡     | 43. 西土居遺跡群        |
| 14. 鹿伏・中所遺跡   | 29. 鷺池南古墳    | 44. 西土居古墳群        |
| 15. 天神山古墳群    | 30. 出之山北塚    |                   |

第120図 遺跡分布図 (1/40,000)



第121图 南天枝遺跡周辺条里型地割復元図

開している可能性が指摘されている。弥生時代中期では、北方丘陵地域の西浦谷遺跡、白山2・3遺跡で中期後半の数棟の竪穴住居跡、平野部で鹿伏・中所遺跡の中期後半の数棟の竪穴住居跡などの集落跡が明らかになってきている。また、白山1遺跡では扁平紐式の銅鐸が出土しているのは著名である。なお、南方丘陵地域の西土居遺跡では同時期の多量の土器が出土している。弥生時代後期になると調査例も急増する。西浦谷遺跡、池戸銅沢遺跡、砂入遺跡、西土居遺跡、鹿伏・中所遺跡等である。中でも鹿伏・中所遺跡は中期中葉～古墳時代前期までの竪穴住居跡が約70棟、掘立柱建物跡が約20棟検出されており、当時の拠点的な集落跡と考えられる。弥生時代後期～終末の墳墓の調査例では、北部丘陵部で石蓋土坑の検出された西尾遺跡、配石土墳墓が確認された白山3遺、多くの土壌墓群からなる天神山古墳群、方形台状墓で土壌を主体部とする山大寺池西丘上1号墳等調査例は増加している。

古墳時代前期～中期前半の古墳の実態は不明瞭な点が多いが、唯一前期初頭に位置付けられる池戸八幡神社1号墳がある。古墳時代中期後半では権八原古墳群の古式の群集墳の調査例がある。古墳時代後期になると丘陵部に古墳群が各地築造される。主要な分布地域では、①白山一帯 ②鍛冶池一帯 ③諏訪山・カンカン山一帯 ④田中地区の蛇の角古墳群 ⑤田中の雷八幡神社一帯 ⑥朝倉の中谷古墳群 ⑦四十塚古墳群等に分類されるが未調査の古墳がほとんどで、その実態を明らかにするのはまだ先の話である。

古代の遺跡は白鳳期から奈良時代にかけて建立されたと考えられる始覚寺、香華寺、上高岡庵寺、長楽寺などの古代寺院がある。集落跡の調査も最近増加している。主なものでは本遺跡の調査例を含め、本遺跡に隣接する尾端遺跡などの7世紀頃の集落である。特に、本遺跡と尾端遺跡は長楽寺と同様に吉田川水系の遺跡であり今後その関係は注目される。また、北丘陵地域では7世紀を中心に操業した須恵器窯の小谷窯跡が最近調査されている。三木町の平野部は比較的条里型地割が明瞭に残っている地域である。本遺跡の西方では蓮池から延びる旧河道により条里の及んでいない地域もあるが、調査区の西端に南北方向と、調査区の南約20mの地点で東西方向の里境線が延びていて、本遺跡は里境線に隣接した遺跡といえる。そのため、条里型地割と集落の関係は、本遺跡を検討する上で重要な視点になってくる。

中世の三木町は守護の細川氏のもと、東讃の守護代に任じられた安富氏の領地となる。その後、三木町は長宗我部が讃岐に侵攻するまでの長期的間、安富氏の統治下におかれる。天正年間の長宗我部氏の侵攻にさいしては安富氏は、高松市十河城に拠点を置く十河氏を中心とした反長宗我部勢力に組する。そして、長宗我部の十河城攻めでは三木町は主戦場と化す。そのため、三木町周辺には当時の城館跡が多数存在する。主なものでは、高松市の十河城、前田城、神内城、由良山城、三谷城、三木町内では高岡城、平木城、大畠城、串田城等であるが、何れも調査例が乏しく内容は不明な点が多く、文献の中で語られているだけである。今後の調査例の増加に期待したい。また、城館同様に集落跡の調査例も少ない。本遺跡の中世集落、本遺跡に隣接する高松市十川東・平田遺跡の調査例が知られている程度であり今後の資料増加に期待がかかるところである。

#### (参考文献)

三木町 1978 「三木町史」

三木町教育委員会 1998 「西浦谷遺跡」『三木町内遺跡発掘調査報告書』

三木町教育委員会 1999 「西土居遺跡群」『西土居工業団地用地造成に伴う埋蔵文化財調査概報』

香川県 1988 「第1巻通史編 原始・古代」『香川県史』四国新聞社

- 香川県 1988 「第2巻通史編 中世」『香川県史』四国新聞社
- 香川県教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1997 「南天枝遺跡・尾端遺跡」『平成8年度県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』
- 香川県教育委員会、(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998 「尾端遺跡」『平成9年度県道関係埋蔵文化財発掘調査概報』

## 第三章 調査の成果

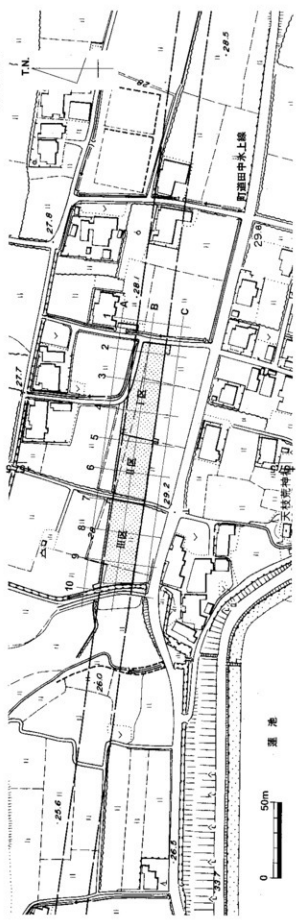
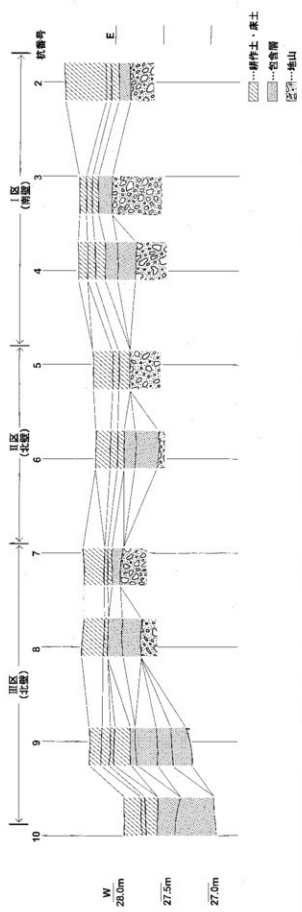
### 第1節 調査区

南天枝遺跡は、高松市と三木町の境界より東へ延長800m、町道田中水上線の北約20mの木田郡三木町田中南天枝に所在する。調査区は東西に長く、幅約22m、延長170mを測る。その区間を西端より東端にかけて、Ⅰ区～Ⅲ区までの3区分して調査を実施した。Ⅰ区は東端部に位置し面積1,488㎡、Ⅱ区は中央の調査区で面積947㎡を測る。Ⅲ区は西端部に位置し面積1,365㎡を測る。また、調査着手後に計画が具体化した、周辺の水田に取り付く斜道部分については、本線部分より短く突出する形で調査区を設定し、調査を実施した。調査用のグリッドは、道路センターを基にグリッドを設定した。グリッドは20m方画で南北にアルファベット、東西に数字を付して、北東隅の杭名をグリッドの名称とした。

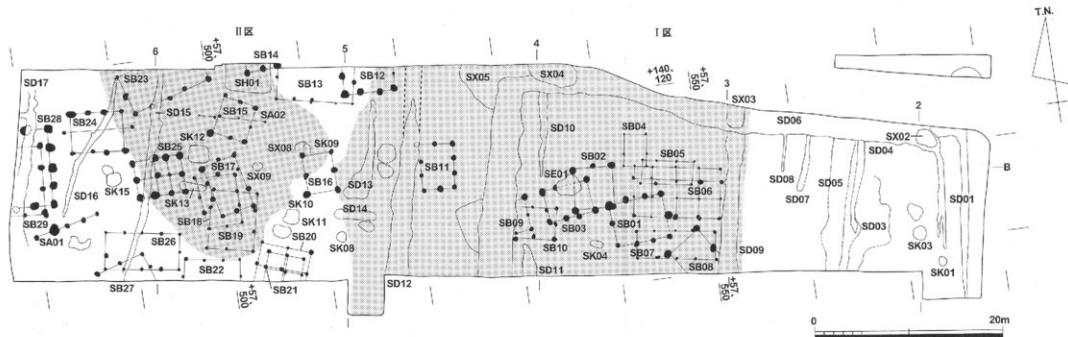
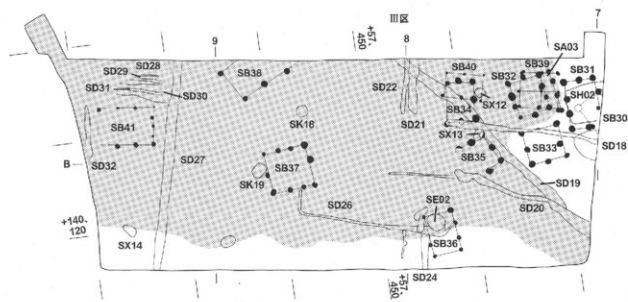
### 第2節 基本層位

遺跡が所在する微高地上は、現地表を観察する限り平坦で、目立った特徴は見あたらないが、大まかな傾向として、微高地西側に展開する、旧河道1の方向に向けて緩やかに傾斜する。微高地上には現地地形から分からない小規模な浅い谷状の地形が3地点で確認された。これら3つの浅谷は、北ないし北西方向に向かって「ハ」の字状に開き、同方向へ傾斜している。そして、結果的に微高地を3分している。西から東に向け浅谷1～3と呼称する事にする。先述したように、これらの浅谷は蓮池の東岸を形成する低位段丘の東縁部より調査地へ派生しているものと考えられる。その内、浅谷3は調査区より北西方向に延びて、旧河道1と合流する。

微高地の上層は削平を顕著に受けており、耕作土直下のTP27.8m程の高さで遺構面を検出した。微高地上からは ①古墳時代前期 ②古墳時代後期末～奈良時代初頭 ③鎌倉時代～室町時代前半 ④室町時代後半～江戸時代前半の集落を検出した。浅谷1～3では上層と下層とで2面の遺構面を確認した。上層では鎌倉～江戸時代前半の遺構、下層では主に古墳時代後期末～奈良時代初頭頃の遺構を検出した。浅谷の堆積層は、黒色・暗灰色系の粘土ないしシルト層より構成され、深さは地点により異なるが約0.3～0.7m程を測る。最終遺構面を構成するベース層は、浅谷1・2が砂層ないし砂質土で構成されているのを除けば、黄褐色の粘土ないしシルトによりなる。



第122図 調査区配置、基本層位柱状図



第123図 南天枝遺跡遺構概略図



### 第3節 遺構・遺物

#### 1. 概要

前節で触れたように南天枝遺跡の所在する微高地には小規模な浅い谷状の地形が3地点で確認された。これら3つの浅谷は、北に向かって「ハ」の字状に開き、結果的に微高地を3分している。西から東に向け浅谷1～3と呼称する。微高地上からは ①古墳時代前期 ②古墳時代後期末～奈良時代初頭 ③鎌倉時代～室町時代前半 ④室町時代後半～江戸時代前半の遺構を検出した。浅谷1～3では上層と下層とで2面の遺構面を確認した。上層では鎌倉時代～江戸時代前半の遺構、下層では古墳時代後期末～奈良時代初頭頃の遺構を検出した。なお、遺構の中で柱穴の占める割合はかなり高いものがある。特に浅谷1・2地域の遺構面上での柱穴の密度は蜂の巣状を呈し、これらの柱穴より整合性をもつ建物を抽出するには、現地作業から整理作業の段階まで試行錯誤を重ねた。その結果合計で41棟の建物を復元したが、まだ本来の数には至っていないものと考えられる。

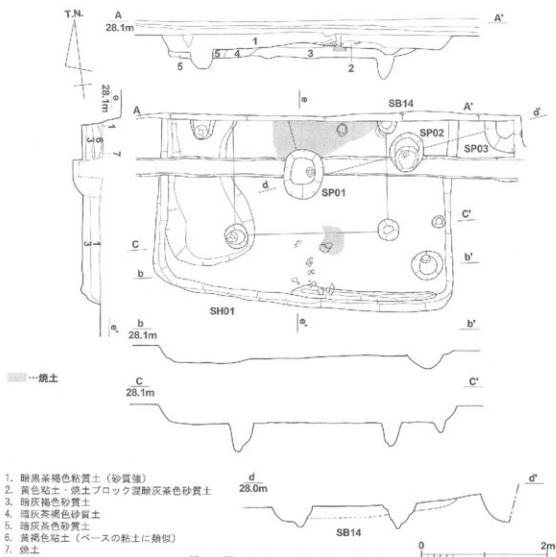
古墳時代前期の遺構は、少数ながら掘立柱建物・柱穴・溝等の諸遺構がⅠ・Ⅲ区で確認された。古墳時代後期末～奈良時代初頭の集落跡は主にⅠ区西半部～Ⅲ区東半部に展開している。集落を構成する主な遺構は竪穴住居跡・掘立柱建物・土坑・溝等であるが、主体を占めるのは掘立柱建物である。掘立柱建物は合計で20棟を検出した。鎌倉時代～室町時代前半の集落は主にⅠ区中央部、Ⅲ区に展開している。主な遺構は掘立柱建物・井戸・土坑・溝等である。掘立柱建物は合計で6棟検出した。室町時代後半～江戸時代前半の集落は、ほぼ調査区全域で検出した。遺構・遺物とも最も多い時期である。主な遺構は掘立柱建物・井戸・土坑・溝・不整形遺構等である。掘立柱建物は合計で12棟検出した。なお、Ⅰ区では、扇状の溝に区画された屋敷地を検出した。また、Ⅲ区東半部でも、区画溝で画された敷地に2棟の建物を配した小規模な屋敷地を検出した。

遺構に対して出土遺物の量は少ない。コンテナにして約45箱を数える程度である。主な遺物を時代的な点で分ければ、①弥生時代後期 ②古墳時代前期 ③古墳時代後期～奈良時代前半 ④平安時代⑤鎌倉時代～室町時代前半 ⑦室町時代後半～江戸時代前半等に分けられるが、弥生時代・平安時代のものは遺物だけであり、調査地周辺にこの時代の遺跡が展開する可能性が指摘できる。

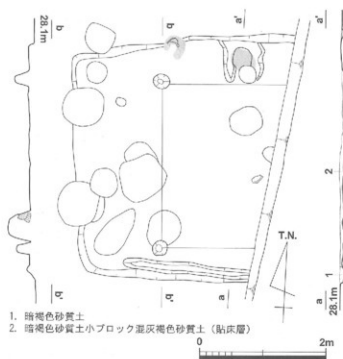
#### 2. 竪穴住居跡

SH01 (第124・126図, 図版59・71)

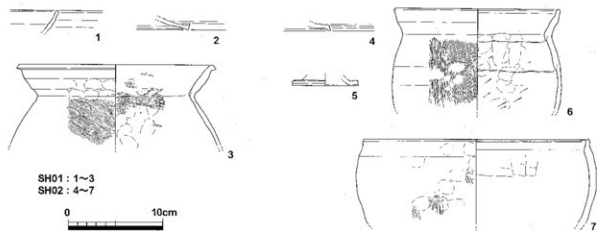
Ⅱ区中央の北壁際のA5区で検出した方形の竪穴住居跡である。住居跡の北辺は対象地より外れるため、全体の3/4を検出した。径約4.8m、深さ約0.4m、面積は推定で約21.4㎡、主軸方位はN6°Eを測る。住居の床面は2面検出でき、2次期の建て替えが考えられる。下層の一次床面では、推定4主柱穴のうち3主柱穴を確認した。径約0.4m、深さ約0.4mを測る。また、南辺には幅の狭い壁溝が部分的に配されている。上層の二次床面では、推定4主柱穴のうち南辺と北辺で各1基計2主柱穴を確認した。径約0.3m、深さ約0.2mを測る。床面中央には炭・焼土が0.7m×1.6mの範囲で広がっていて、おそらく竈の残骸と考えられる。また、床面西辺部では長径2.2m×短径1.2m×深さ0.1mを測る浅い落ち込みを検出した。出土遺物としては、土師器壺・甕、須恵器杯・高杯・甕等が少量出土している(第126図1～3)。(1～3)は上位の1次床面より出土した遺物である。(1)は須恵器の杯口縁部(2)は須恵器高杯の脚部である。(3)は土師器の甕上半部である。体部は丸味をもち、口縁部は外上方に延



第124図 SH01・SB14平・断面図



第125図 SH02平・断面図



第126図 SH01・02出土遺物

び肩部は平坦に肥厚する。体部外面は斜め方向のハケ、内面はオサエ及びハケを施している。出土遺物よりSH01は7世紀前半頃の時期が考えられる。

SH02 (第125・126図, 図版65・66)

Ⅲ区の東壁際のA7区で検出した方形の竪穴住居跡である。住居跡の東辺は対象地より外れるため、全体の1/2を検出した。長径約4.0m×短径約3.8m、深さ約0.1m、面積は推定で約27.5㎡、主軸方位はN2.5°Wを測る。北辺に残りの悪い造り付けの竈を備えている。主柱穴は推定4主柱穴のうち2主柱穴を確認した。径0.2m、深さ0.2mを測る。南辺には幅の狭い壁溝が部分的に配している。出土遺物としては、床面直上より土師器甕・鉢、須恵器杯・高杯・甕等が少量出土している(第126図4~7)。(4・5)は須恵器高杯の脚部片である。(6)は土師器甕の上半部である。体部は球体化し口縁部は外上方に延び端部は丸く収まる。体部外面は縦ハケ、内面は上半部オサエ、下半部ヘラケズリを施している。(7)は鉄鉢形の土師器の上半部である。出土遺物よりSH02はSH01同様7世紀前半頃の時期が考えられる。

### 3. 掘立柱建物跡

SB01 (第130図, 図版48)

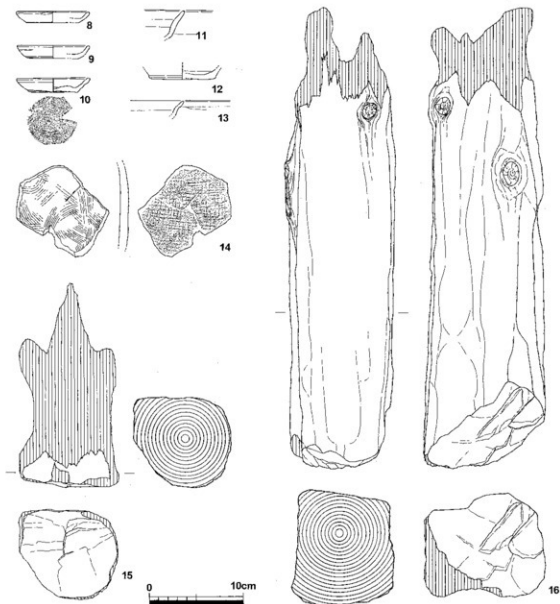
I区中央のB3区の下層遺構面上で検出した、東西棟の掘立柱建物である。隣接するSB02により北西隅の柱穴が切り込まれている。2間(4.5m)×3間(5.6m)、面積25.2㎡以上、主軸方位はN87°Eを測る。柱間は梁間2.0~2.5m、桁行1.9~2.0mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.4m~0.8m、深さ0.2~0.4mを測る。2柱穴で柱痕を確認した。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯、瓦器片等が少量出土していて、12世紀末~13世紀初頭頃の時期が考えられる。

SB02 (第130図, 図版50)

I区中央のB3区の下層遺構面上で検出した、南北棟の掘立柱建物である。隣接するSE01により、西側柱列が大きく切り込まれている。また、SB03の柱穴により南の棟持柱を切り込まれている。そのため、時期的な点ではSE01、SB03に先行する時期が考えられる。2間(4.0m)×1間(4.3m)、面積17.2㎡以上、主軸方位はN0°を測る。柱間は梁間3.3m、桁行1.3~1.9mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.5m~0.8m、深さ0.2~0.3mを測る。3柱穴で柱痕を確認した。出土遺物としては、土師器甕、須恵器甕片等が少量出土している。

SB03 (第131図, 図版50)

I区中央のB3区の下層遺構面上で検出した、東西棟の掘立柱建物である。隣接するSE01により、北側柱列が大きく切り込まれている。また、SB02の南の棟持柱を切り込んでいる。そのため、時期的な点ではSE01に先行し、SB02より後出する。2間(3.3m)×3間(4.9m)、面積16.2㎡以上、主軸方位はN83°Eを測る。柱間は梁間1.4m~2.0m、桁行1.4m~1.9mを測る。柱穴掘形は不整形円形を呈し、径0.5m~0.9m、深さ0.2m~0.4mを測る。2柱穴で柱痕を確認した。出土遺物としては、土師器杯・甕、須恵器甕片等が少量出土している。



第127図 掘立柱建物出土遺物(1)

SB04 (第131図, 図版48)

I区中央のA・B3区の上層遺構面上で検出した、南東隅でSB05と重複するが、柱穴が切り合わないため前後関係は検出時では確認できなかった。南北棟の掘立柱建物で、2間(2.5m)×2間(3.3m)以上、面積8.1㎡以上、主軸方位はN9°Eを測る。柱間は梁間1.2m~1.3m、桁行1.2m~2.1mを測る。柱穴堀形は円形を呈しかなり小型で、径0.2m、深さ0.1~0.4mを測る。

SB05 (第131図, 図版48)

I区中央のA・B3区の上層遺構面上で検出した、東西棟の掘立柱建物である。SB04・SB06と重複するが柱穴が切り合わないため前後関係は検出時では確認できなかった。1間(2.6m)×3間(5.0m)、面積12.8㎡以上、主軸方位はN80°Wを測る。柱間は梁間2.4m~2.5m、桁行1.4m~2.0mを測る。柱穴堀形は円形を呈しかなり小型で、径0.2m~0.4m、深さ0.1~0.2mを測る。

SB06 (第127・132図, 図版48・71・78)

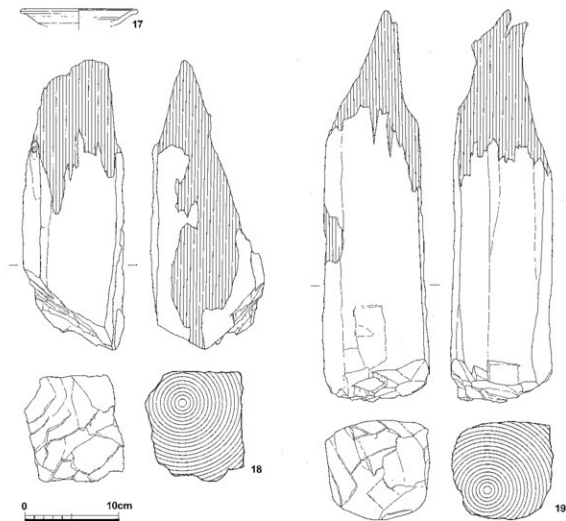
I区中央のB3区の上層遺構面上で検出した東西棟、北辺に庇を備えた大型の総柱の掘立柱建物である。2間(4.0m)×4間(9.3m)以上、面積37.2㎡以上、主軸方位はN80°Wを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.0m~2.5mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.2m~0.6m、深さ0.2m~0.8mを測る。2柱穴で柱痕の柱材を確認した。柱穴埋土は淡灰色系の砂質土である。庇は身舎の北辺より1.0m離れ4間分続く。出土遺物としては、土師器小皿・杯、須恵器甕、陶器片、柱材等が出土している(第127図8~16)。(8~10)は土師器の小皿である。(10)の底部には糸切り痕が顕著に残る。(11・12)は土師器の杯片である。(13)は青磁の皿口縁部である。横田・森田分類のI1b類にあたる。(14)は十瓶産の甕体部片である。(15)は柱穴から出土した柱材である。残りがかなり悪く、底部の外面の調整のみ観察できる。(16)は同じく柱穴から出土した柱材である。全体を角柱状に整形し、底部は斜め方向より切り離している。これらの出土遺物よりSB06は13世紀頃の時期が考えられる。

SB07 (第128・133図, 図版48・49)

I区中央のB3区の南壁際の上層遺構面上で検出した、東西棟の掘立柱建物である。隣接するSB08により柱穴が切り込まれている。2間(2.9m)×4間(8.3m)、面積24.1㎡以上、主軸方位はN81°Wを測る。柱間は梁間1.2m~1.5m、桁行1.8m~2.4mを測る。柱穴堀形は円形を呈しかなり小型で、径0.2m~0.4m、深さ0.2m~0.6mを測る。2柱穴で柱痕の柱材を確認した。出土遺物としては、土師器杯・椀・甕、須恵器杯・甕、唐津皿、柱材等が少量出土している(第128図17~19)。(17)は肥前系陶器の溝縁皿である。(18)は柱穴から出土した柱材である。角柱状に整形し底部は2方向より切り離している。(19)は同じく柱穴から出土した柱材である。断面隅丸方形状に整形し、底部は多方向からの調整により切り離している。これらの出土遺物よりSB07は、SD06とほぼ同時期の17世紀頃の時期が考えられる。

SB08 (第129・133図, 図版49・71)

I区中央のB3区の南壁際の上層遺構面上で検出した、掘立柱建物である。南半部は対象地より外れるため、1/2程度を検出した。なお、この建物は北半部でSB07の柱穴を切り込んでいる。1間(2.6m)以上×1間(3.4m)以上、面積8.8㎡以上、主軸方位はN34°Wを測る。柱間は梁間2.6m、桁行3.4mを測る。柱穴堀形は円形を呈しかなり大型で、径0.4m~0.5m、深さ0.2mを測る。2柱穴で柱痕を確認した。柱穴埋土は2~3層に分かれる。出土遺物としては、土師器小皿・杯・土釜・鍋、十瓶産の甕、青磁碗等が少量出土している(第129図20~28)。(20・21)は土師器の小皿である。(22・23)は土師器の杯である。(22)の底部外面には静止糸切り痕を顕著に残す。(24)は7世紀初頭頃の須恵器の杯蓋で



第128図 掘立柱建物出土遺物（2）

混入品である。(25・26)は龍泉窯系の青磁碗の体部片である。(25)は横田・森田分類のI 5 a類(26)は横田・森田分類のI 5 b類にあたる。(26)外面には蓮弁文が認められる。(27)は13世紀中葉頃の十瓶産の小型の壺上半部である。体部外面に格子タタキ、口縁端部は平坦に仕上げている。(28)は土釜の脚部である。SB08は出土遺物では13世紀頃の時期が考えられるが、切り合いから見ればSB07より後出するため、17世紀以降の時期が考えられる。

SB09 (第134図)

I区の中央B 3・4区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。西半部はSD06により切られているため、1/2程度を検出した。2間(3.4m)×2間(1.7m)以上、面積5.8㎡以上、主軸方位はN81°Eを測る。柱間は梁間1.4m~2.0m、桁行1.7mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.3m~0.6m、深さ約0.2mを測る。

SB10 (第134図)

I区の中央B 4区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。西半部はSD06により切られているため、1/2程度を検出した。2間(3.4m)×1間(2.5m)以上、面積8.6㎡以上、主軸方位はN78°Wを測る。柱間は梁間1.5m~1.9m、桁行2.2m~2.5mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.3m~0.8m、深さ

約0.2mを測る。

**SB11** (第135図, 図版50)

I区西端のA・B4区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。この建物の西側柱列は、かなり内側に内傾しており、北の梁間に比べ南の梁間が狭い。2間(3.7m)×4間(6.1m)、面積22.6㎡以上、主軸方位はN5°Eを測る。柱間は梁間1.8m、桁行1.5mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.4m~0.6m、深さ0.3m~0.4mを測る。柱穴埋土は2~3層に分かれる。

**SB12** (第135図, 図版59)

I・II区との境界A4区で検出した、SB13と重複している東西棟の掘立柱建物である。北半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。なお、SB13との前後関係は柱穴が切り合わないため検出時では確認できなかった。1間(2.0m)×2間(5.4m)、面積10.8㎡以上、主軸方位はN90°Eを測る。柱間は梁間2.0m、桁行1.5m~2.0mを測る。柱穴堀形は隅丸方形ないし円形を呈し、径0.6m~1.0m、深さ0.2m~0.6mを測る。この建物からは遺物は出土しなかった。なお、この建物跡の北半部は、平成8年度に当調査区の北側を、三木町教育委員会が調査を実施した際に、連続する柱穴を確認している。

**SB13** (第134図, 図版59)

II区中央の北端A4・5区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。北半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。1間(2.3m)以上×4間(8.0m)、面積18.4㎡以上、主軸方位はN78°Wを測る。柱間は梁間2.3m、桁行1.9m~2.5mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.2m~0.5m、深さ約0.4mを測る。出土遺物としては、土師器片等が少量出土している。なお、この建物の北半部は、平成8年度に当調査区の北側を三木町教育委員会が調査を実施した際に、連続する柱穴を確認している。

**SB14** (第124図)

II区中央のA5区で検出した、SH01を切り込む南北棟の掘立柱建物である。1間(?)m以上×2間(3.3m)以上、主軸方位はN88°Eを測る。柱間は1.6m~1.8mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.5m~0.8m、深さ約0.3mを測る。なお、この建物跡の北半部は、平成8年度に当調査区の北側を三木町教育委員会が調査を実施した際に、連続する柱穴を確認している。

**SB15** (第136図)

II区中央のA5区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。2間(3.6m)×2間(4.1m)、面積14.8㎡、主軸方位はN27°Eを測る。柱間は梁間1.5m~2.1m、桁行1.7m~2.2mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整形円形を呈し、大きさ的にはかなりバラツキがある。径約0.5m~0.9m、深さ約0.3mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が数点出土している。

**SB16** (第136図)

II区中央の東端A・B5区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。1間(3.3m)×2間(4.1m)、面積13.5㎡、主軸方位はN0°Wを測る。柱間は梁間3.3m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は不整形円形を呈し、径0.5m~0.8m、深さ0.2m~0.7mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が少量出土している。

**SB17** (第137図, 図版60)

II区中央の北端A・B5区で検出した、SB18・19と重複する南北棟の掘立柱建物である。2間(3.5m)×3間(5.6m)、面積19.6㎡以上、主軸方位はN15°Wを測る。柱間は梁間1.6m~1.9m、桁行1.5m~2.5mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整形円形を呈し、径0.2m~0.6m、深さ0.2m~0.5mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が少量出土している。

**SB18** (第129・137図, 図版60)

Ⅱ区の中央B5区で検出した、SB17・19と重複している南北棟の掘立柱建物である。この建物の西側柱列は、かなり内側に内傾しており、北の梁間に比べ南の梁間が狭い。SB17・19とは柱穴が切り合わない為その前後関係は検出時では確認できなかった。2間(4.4m)×3間(5.1m)、面積22.4㎡以上、主軸方位はN0°Eを測る。柱間は梁間1.7m~2.7m、桁行1.6m~2.1mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径0.2m~0.4m、深さ0.1m~0.2mを測る。出土遺物としては、土師器鍋、須恵器杯、磁器椀片等が少量出土している(第129図29・30)。(29)は肥前系の青磁碗の口縁部である。(30)は土師器の把手付鍋である。

**SB19** (第129・138図, 図版60)

Ⅱ区の中央B5区で検出した、SB17・18と重複している南北棟の掘立柱建物である。SB17・18とは柱穴が切り合わないため、SB19との前後関係は検出時では確認できなかった。2間(4.8m)×3間(6.1m)、面積29.3㎡以上、主軸方位はN12.5°Eを測る。柱間は梁間2.0m~2.8m、桁行1.6m~2.4mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径約0.3m、深さ0.4m~0.6mを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器高杯・甕片等が少量出土している。(第129図31)は須恵器高杯の脚部である。

**SB20** (第129・139図, 図版61)

Ⅱ区の東端B5区で検出した、SB21と重複している南北棟の総柱の掘立柱建物である。南半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。SB21とはほぼ中央で重複するため、SB21とは建て替え関係にあるものと考えられる。なお、SB21との前後関係は柱穴が切り合わないため、検出時では確認できなかった。1間(2.5m)以上×2間(5.3m)、面積13.3㎡以上、主軸方位はN20.5°Eを測る。柱間は梁間2.3m~2.5m、桁行2.5m~2.8mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径約0.2m~0.4m、深さ約0.4mを測る。出土遺物としては、土師器杯片等が少量出土している。(第129図32)は土師器杯の口縁部片である。口縁は外上方へ外反し、端部を丸く仕上げている。

**SB21** (第139図, 図版61)

Ⅱ区の東端B5区で検出した、SB20と重複している南北棟の総柱の掘立柱建物である。南半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。SB20とはほぼ中央で重複するため、SB20とは建て替え関係にあるものと考えられる。なお、SB20との前後関係は柱穴が切り合わないため、検出時では確認できなかった。1間(1.6m)以上×2間(3.8m)、面積6.1㎡以上、主軸方位はN20°Eを測る。柱間は梁間1.8m~2.0m、桁行1.6mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径約0.4m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が少量出土している。

**SB22** (第138図)

Ⅱ区中央の南端B5区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。南半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。1間(1.8m)以上×3間(5.6m)、面積10.0㎡以上、主軸方位はN81°Wを測る。柱間は梁間1.8m、桁行1.9mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径約0.2m~0.4m、深さ約0.6mを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯・甕片等が少量出土している。

**SB23** (第139図, 図版61)

Ⅱ区中央の北端A5・6区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。北半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。2間(4.2m)×4間(8.6m)、面積36.1㎡以上、主軸方位はN71°Wを測る。柱間は梁間2.1m、桁行1.9~2.8mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整形円形を呈し、径0.6m~0.8m、深さ約0.4mを測る。出土遺物としては、土師器片等が少量出土している。なお、この建物跡は平成8年度



に当調査区の北側を、三木町教育委員会が調査を実施した際に、連続する柱穴を確認している。

**SB24** (第129・140図)

Ⅱ区西端A 6区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。建物の主軸方向に棟持柱をもつ。1間(4.1m)×3間(5.6m)、面積23.0㎡、主軸方位はN85°Wを測る。柱間は梁間4.1m、桁行1.5~2.2mを測る。柱穴堀形は楕円ないし円形を呈し、径0.4m~1.0m、深さ約0.4mを測る。出土遺物としては、土師器壺、須恵器杯・壺片等が少量出土している(第129図33・34)。(33)は須恵器の杯口縁部片である。(34)は須恵器の提瓶ないし平瓶の口縁部である。少ない資料であるが、これらの出土遺物よりSB24は7世紀前半頃の時期が考えられる。

**SB25** (第129・141図, 図版62)

Ⅱ区中央の北端A・B 5・6区で検出した、東西棟の総柱の掘立柱建物である。2間(4.0m)×3間(5.1m)、面積20.4㎡以上、主軸方位はN88°Wを測る。柱間は梁間2.0m、桁行1.5~2.4mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整形円形を呈し、径0.3m~1.0m、深さ0.3~0.6mを測る。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器杯・高杯・甕等が少量出土している(第129図35・36)。(35)は須恵器杯蓋の口縁部で、内面にかえりを残す7世紀第二四半期頃の杯である。(36)は須恵器の甕口縁部である。なお、これらの資料は混入品で、中世の土釜などを見る限りSB25は16世紀頃の時期が考えられる。

**SB26** (第129・140図, 図版62)

Ⅱ区の西半部B 6区で検出した、SB27と重複している東西棟の掘立柱建物である。SB27とは柱穴が切り合わないため、その前後関係は検出時では確認できなかった。2間(3.8m)×4間(7.8m)、面積29.4㎡以上、主軸方位はN80°Wを測る。柱間は梁間1.5m~2.0m、桁行1.8m~2.0mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径約0.3m、深さ0.2m~0.6mを測る。出土遺物としては、土師器片・須恵器片・瓦器片・陶器片等が少量出土している(第129図37・38)。(37)は大谷焼きの陶器鉢(38)は天目茶碗の口縁部である。

**SB27** (第141図, 図版62)

Ⅱ区の西半部B 6区で検出した、SB26と重複している東西棟の掘立柱建物である。SB26とは柱穴が切り合わないため、その前後関係は検出時では確認できなかった。1間(1.6m)以上×2間(5.2m)、面積8.3㎡以上、主軸方位はN73°Eを測る。柱間は梁間1.6m、桁行2.6mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径0.4m、深さ0.2m~0.6mを測る。出土遺物としては、土師器片が少量出土している。

**SB28** (第129・142図, 図版63)

Ⅱ区の西端A・B 6区で検出した、SB29と重複している南北棟の掘立柱建物である。西半部は調査地外に延びるため、約2/3を検出した。また、西半部ではSD03により大きく削り込まれているため、残りが悪い。切り合いよりSB29同様、SD17より先行することだけは確かである。2間(2.0m)以上×4間(8.0m)、面積32.0㎡以上、主軸方位はN4°Eを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は隅丸方形ないし不整形円形を呈し、径0.6m~1.0m、深さ0.4m~0.8mを測る。出土遺物としては、土師器皿・甕、須恵器杯・甕等が少量出土している(第129図39~42)。(39~41)は7世紀第二四半期頃の須恵器の杯である。(42)は土師器甕の把手部である。少ない資料であるが、これらの出土遺物よりSB28は7世紀中葉頃の時期が考えられる。

**SB29** (第129・142図, 図版63)

Ⅱ区の西端A・B 6区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。西半部は調査地外に延びるため、約1/2を検出した。また、西半部ではSD17により大きく削り込まれているため残りが悪い。なお、こ

の建物はSB28と重複しているが、柱穴の切りあいが認められないため前後関係は確認できなかったが、SD17より先行することだけは確かである。1間(2.7m)以上×3間(7.4m)以上、面積20.0㎡以上、主軸方位はN4°Eを測る。柱間は梁間2.7m、桁行2.7mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.3m~0.6m、深さ0.2m~0.4mを測る。出土遺物としては、土師器甕、須恵器高杯・盃等が少量出土している。(第129図43)は須恵器の甕である。

SB30 (第129・143図, 図版66・67・71)

Ⅲ区北東端のA7区の東壁際で検出した掘立柱建物である。大部分が対象地より外れるため、約1/3を検出した。なお、この建物はSH02、SB31に切られている。1間(1.9m)以上×1間(2.5m)以上、面積4.7㎡、主軸方位はN80°Wを測る。柱間は梁間1.9m、桁行2.5mを測る。柱穴堀形は円形ないし隅丸方形を呈し、径0.4m~0.8m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器甕が少量出土している。なお、混入遺物として須恵器細片が1点出土している。(第129図44)はSP01から出土した、古墳時代前期頃の土師器の甕である。体部は長胴気味ながら球体化し、底部との境は鈍い稜を持つ。口縁部は外上方にラッパ状に開き端部平坦に仕上げている。外面は緻密なハケ、内面はオサエ後にヘラ削りを施している。時期的には「川入・大溝上層」頃の時期であろう。

SB31 (第129・143図, 図版66・67)

Ⅲ区北東端のA7区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。この建物はSH02、SB30を切り込んである。2間(3.1m)×3間(5.1m)、面積15.8㎡、主軸方位はN3°Wを測る。柱間は梁間1.5~1.6m、桁行1.8mを測る。柱穴堀形は円形ないし隅丸方形を呈し、径0.6m~0.8m、深さ約0.3mを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯片等が少量ながら出土している(第129図45・46)。(45)は須恵器杯、(46)はサヌカイト製の凹基式の石甕で混入品である。

SB32 (第129・143図, 図版67)

Ⅲ区北東端のA7区で検出した南北棟の掘立柱建物である。この建物はSB38と重複するが、層位的な点でSB38より先行する。2間(3.4m)×3間(3.8m)、面積は12.9㎡、主軸方位はN80°Eを測る。柱間は梁間1.7m、桁行1.3mを測る。柱穴堀形は円形ないし不整形円形を呈し、径約0.4m~1.2m、深さ約0.2m~0.4mを測る。なお、この建物は南に隣接するSB33と配置・方向等で共通する点が多く、同一グループと考えられる。出土遺物としては、土師器高杯・甕、須恵器片等が少量ながら出土している(第129図47・48)。(47)は7世紀頃の土師器の杯片である。内面の細いヘラ磨きが顕著に認められる。(48)は縄文土器の鉢片で混入品である。

SB33 (第129・144図, 図版67)

Ⅲ区北東端のA7区で検出した東西棟の掘立柱建物である。2間(3.3m)×2間(4.0m)、面積13.2㎡、主軸方位はN9°Wを測る。柱間は梁間1.4m~2.2m、桁行1.8m~2.2mを測る。柱穴堀形は不整形円形を呈し、径約0.5m~0.8m、深さ約0.3mを測る。なお、この建物は北に隣接するSB32と配置・方向等で共通する点が多く、同一グループと考えられる。出土遺物としては(第129図49)の須恵器の甕の口縁部がある。

SB34 (第144図, 図版67)

Ⅲ区北東部のA7区で検出した南北棟の掘立柱建物である。2間(2.9m)×2間(4.2m)、面積12.1㎡、主軸方位はN30°Eを測る。柱間は梁間1.4m~1.6m、桁行2.0m~2.2mを測る。柱穴堀形は不整形円形を呈し、径0.6m~0.8m、深さ約0.2mを測る。出土遺物は抽出できなかった。

SB35 (第144図)

Ⅲ区北東部のA・B7区で検出した掘立柱建物である。中央部に東西方向に擾乱坑が所在するため、約1/2検出した。2間(3.0m)×2間(3.3m)以上、面積9.9㎡以上、主軸方位はN26°Wを測る。柱間は梁間1.5m、桁行1.7mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.6m~0.9m、深さ約0.4mを測る。出土遺物は須恵器片が微量出土した。

SB36 (第145図, 図版68)

Ⅲ区東半部のB7区で検出した、南北棟の掘立柱建物である。建物北半部はSE02により切り込まれている。1間(2.9m)×3間(4.3m)、面積12.5㎡、主軸方位はN6°Wを測る。柱間は梁間2.9m、桁行1.3m~1.6mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.4m~0.5m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯片等が少量ながら出土している。

SB37 (第145図, 図版68)

Ⅲ区中央のA・B8区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。この建物の北側柱列はかなり内側に内傾しており、東の梁間に比べ西の梁間が狭い。2間(4.3m)×3間(4.5m)、面積19.3㎡、主軸方位はN7°Wを測る。柱間は梁間1.7m~2.5m、桁行1.5mを測る。柱穴堀形は不整形円形を呈し、径0.4m~0.8m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器片等が微量ながら出土している。

SB38 (第146図)

Ⅲ区中央のA8区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。調査区の関係で、約1/2のみ検出した。1間(3.1m)×2間(6.2m)以上、面積19.2㎡以上、主軸方位はN70°Eを測る。柱間は梁間3.1m、桁行2.8m~3.4mを測る。柱穴堀形は大型で円形を呈し、径約0.7m、深さ約0.4mを測る。

SB39 (第146図, 図版69)

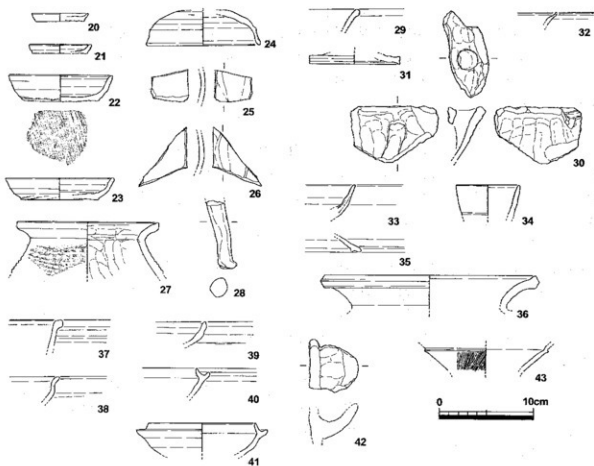
Ⅲ区の北東端A7区で検出した、SB32と重複する東西棟の総柱の掘立柱建物である。この建物とSB32と前後関係は層位的な点で、SB32が先行する。2間(4.0m)×2間(4.0m)、面積16.0㎡、主軸方位はN11°Eを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.2m~0.5m、深さ0.2m~0.4mを測る。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯・甕、陶器片等が少量出土している。なお、この建物は隣接するSB40と共に、南北方向に直線状に延びるSD21・22と東西方向に直線状に延びるSD18により、周囲を囲まれた範囲内に所在する。建物方向と溝の方向はほぼ同一であり、これらの遺構はほぼ同時期の屋敷地を構成する遺構群と考えられる。

SB40 (第129・147図, 図版69・80)

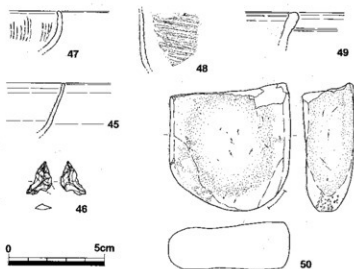
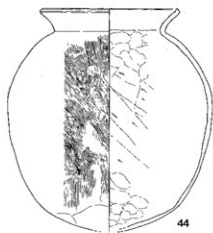
Ⅲ区の北東端A7区で検出した、SB34と重複する東西棟の掘立柱建物である。この建物とSB34と前後関係は層位的な点で、SB34が先行する。1間(2.6m)×2間(4.0m)、面積は10.4㎡、主軸方位はN12°Eを測る。柱間は梁間2.6m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は小型の円形を呈し、径0.2m~0.4m、深さ約0.5mを測る。なお、この建物は隣接するSB39、SD18・21・22等件に、ほぼ同時期の屋敷地を構成する遺構群と考えられる。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器片等が少量出土している。(第129図50)は柱穴から出土した砥石である。

SB41 (第147図, 図版69)

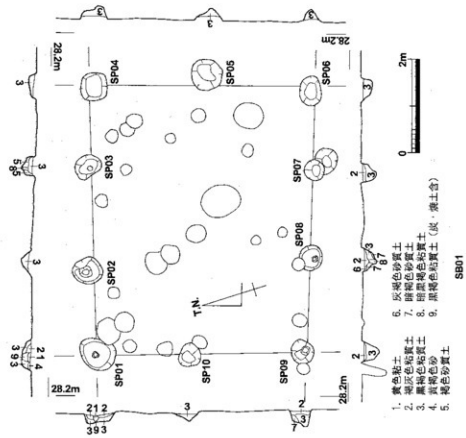
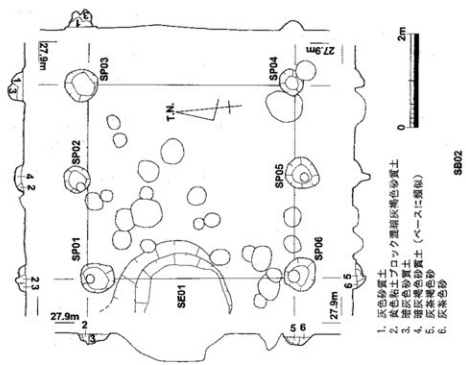
Ⅲ区西端A9区で検出した、東西棟の掘立柱建物である。隣接するSD32はこの建物の雨落ち溝と考えられる。2間(4.0m)×3間(6.0m)、面積は24.0㎡、主軸方位はN79°Wを測る。柱間は梁間2.0m、桁行2.0mを測る。柱穴堀形は円形を呈し、径0.2m~0.5m、深さ0.3m~0.8mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が微量ながら出土している。



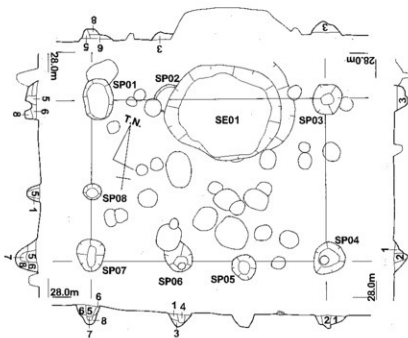
- |              |              |           |
|--------------|--------------|-----------|
| SB08 : 20~28 | SB26 : 37・38 | SB33 : 49 |
| SB18 : 29・30 | SB28 : 39~42 | SB40 : 50 |
| SB19 : 31    | SB29 : 43    |           |
| SB20 : 32    | SB30 : 44    |           |
| SB24 : 33・34 | SB31 : 45・46 |           |
| SB25 : 35・36 | SB32 : 47・48 |           |



第129図 掘立柱建物出土遺物(3)

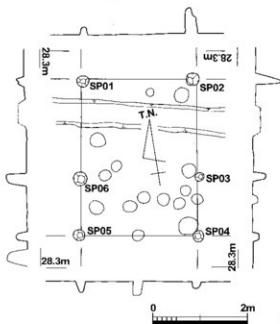


第130図 掘立柱建物平・断面図(1)

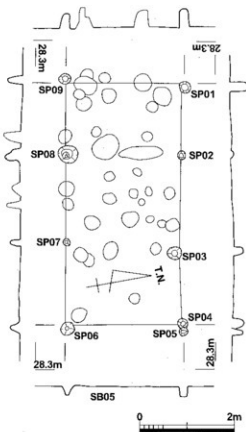


1. 灰褐色砂質土 (Mn多)
2. 黄色粘土ブロック混灰褐色砂質土 (Mn多)
3. 灰黄色砂
4. 灰色砂質土
5. 黒褐色砂質土
6. 黒褐色粘質土
7. 暗灰褐色砂質土
8. 淡黒褐色砂質土

SB03

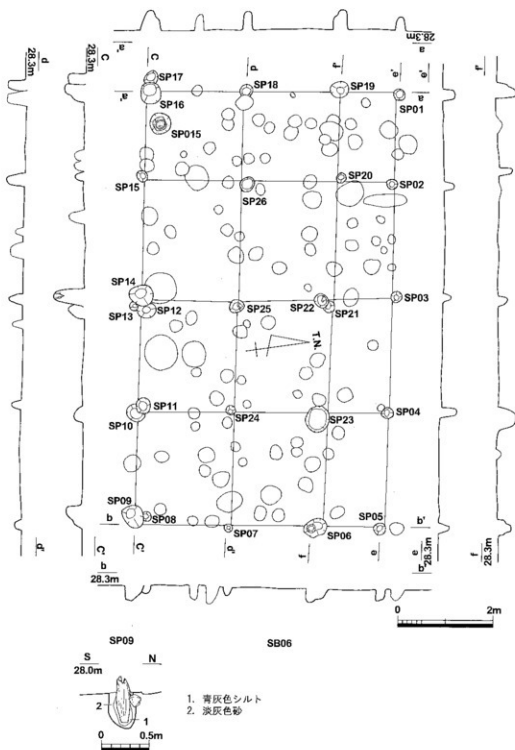


SB04

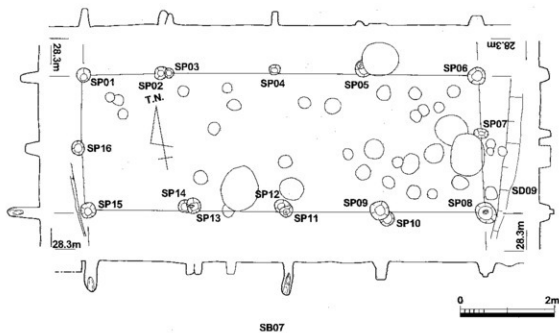
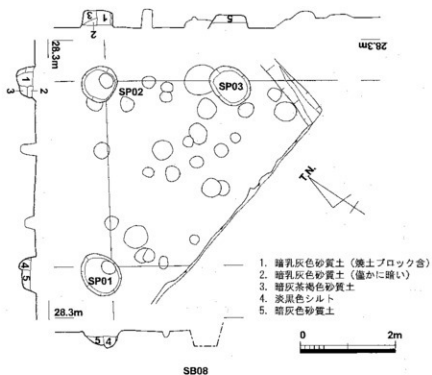


SB05

第131図 掘立柱建物平・断面図(2)

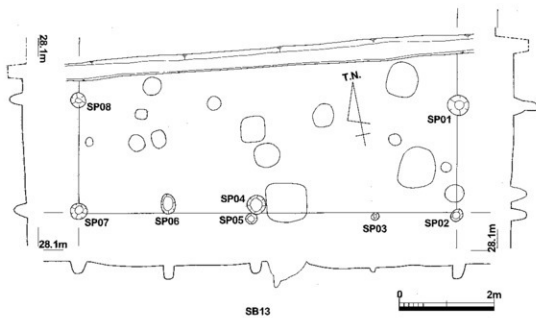
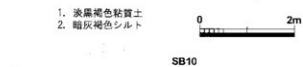
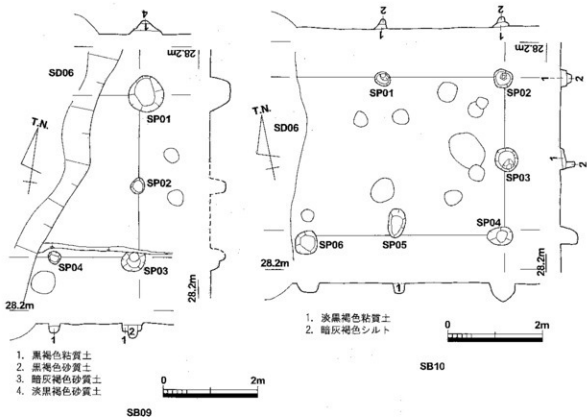


第132図 掘立柱建物平・断面図(3)

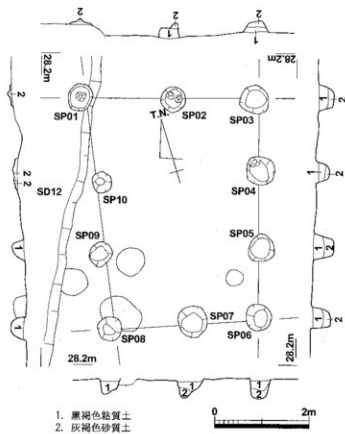


第133図 掘立柱建物平・断面図(4)

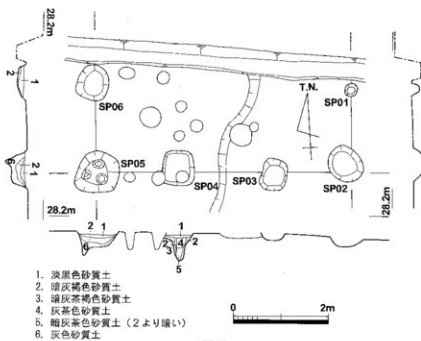




第134図 掘立柱建物平・断面図(5)

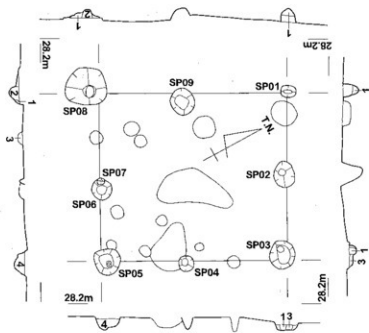


SB11



SB12

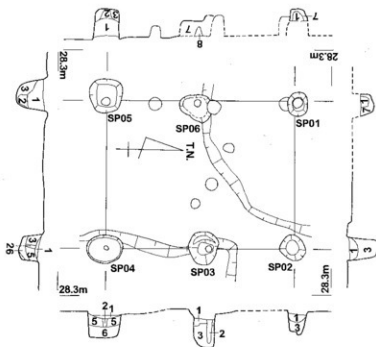
第135図 掘立柱建物平・断面図(6)



1. 淡灰褐色砂質土
2. 淡黒色・暗灰茶色砂質土混淡灰褐色砂質土
3. 灰茶色砂質土
4. 淡黒色砂質土混暗灰茶色砂質土



SB15

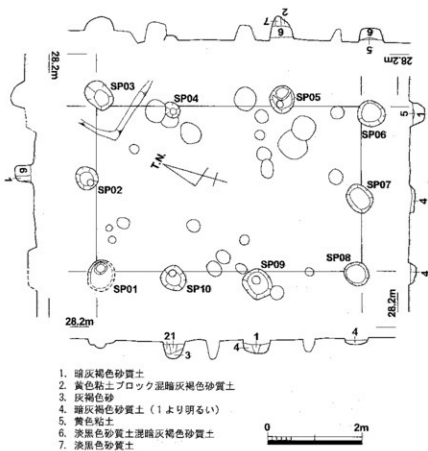
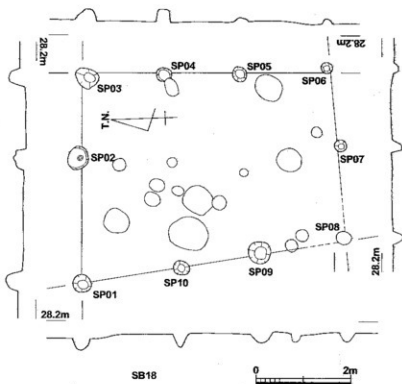


1. 淡黒褐色砂質土
2. 暗灰茶色砂質土
3. 灰緑色砂質土
4. 暗黄色シルト混淡黒色砂質土（ブロック多）
5. 暗灰茶色砂質土（粗砂多）
6. 淡黒色粗砂
7. 暗灰色砂質土
8. 暗灰茶色砂質土



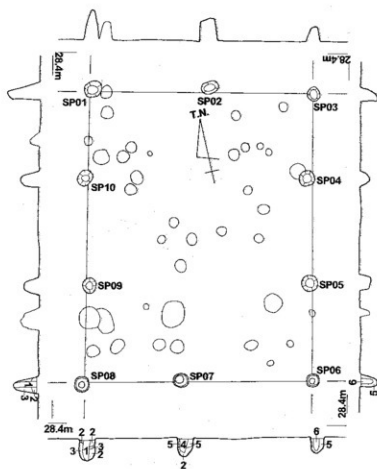
SB16

第136図 掘立柱建物平・断面図（7）



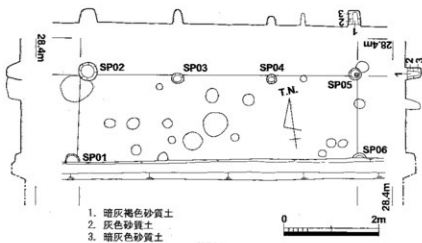
1. 暗灰褐色砂質土
2. 黄色粘土ブロック混雑灰褐色砂質土
3. 灰褐色砂
4. 暗灰褐色砂質土（1より明るい）
5. 黄色粘土
6. 淡黒色砂質土混雑灰褐色砂質土
7. 淡黒色砂質土

第137図 掘立柱建物平・断面図（8）



1. 淡灰褐色砂質土 (黄色粘土小ブロック含)
2. 暗灰褐色砂質土
3. 2の小ブロック混淡灰褐色砂質土
4. 灰茶色砂質土 (黄色粘土小ブロック含)
5. 灰茶色砂質土 (4より明るい)
6. 灰茶色砂質土 (焼土・炭小ブロック含)

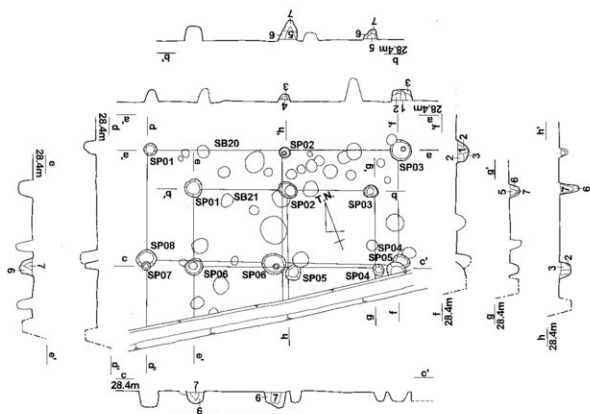
SB19



1. 暗灰褐色砂質土
2. 灰色砂質土
3. 暗灰褐色砂質土

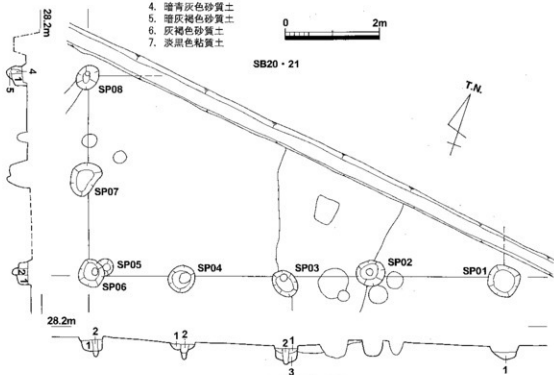
SB22

第138図 掘立柱建物平・断面図 (9)



1. 淡灰茶色砂質土
2. 灰茶色砂質土
3. 暗灰茶色砂質土
4. 暗青灰色砂質土
5. 暗灰褐色砂質土
6. 灰褐色砂質土
7. 淡黒色粘質土

SB20・21

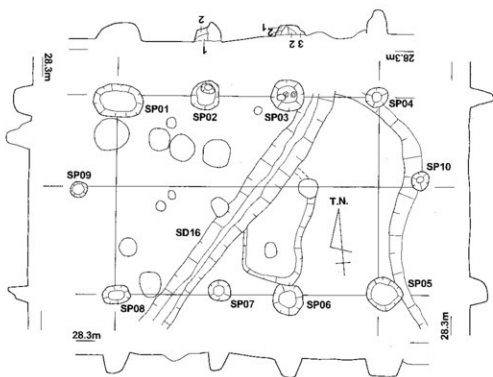


1. 淡黒褐色砂質土
2. 暗灰茶色砂質土
3. 暗灰茶色砂質土 (僅かに明るい)
4. 灰茶色砂質土
5. 暗灰褐色砂質土

SB23



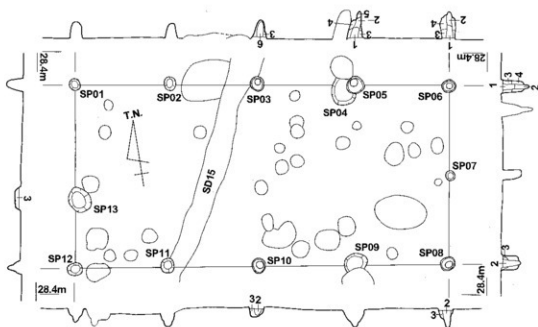
第139図 掘立柱建物平・断面図 (10)



28.3m

1. 黄灰色粘土
2. 黄灰色粘土混暗灰褐色砂質土
3. 暗灰褐色砂質土

SB24

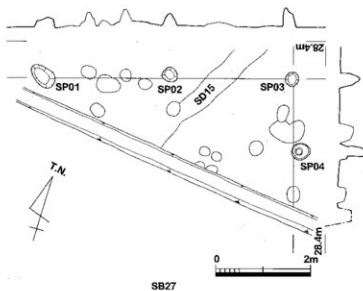


1. 黄色粘土小ブロック混淡灰褐色粘質土
2. 黄色粘土小ブロック混暗灰茶褐色粘質土
3. 暗灰褐色粘土小ブロック混淡灰色砂質土
4. 暗灰褐色粘土小ブロック混暗灰色砂質土
5. 暗灰褐色砂質土
6. 茶褐色粘土小ブロック混淡灰色砂質土

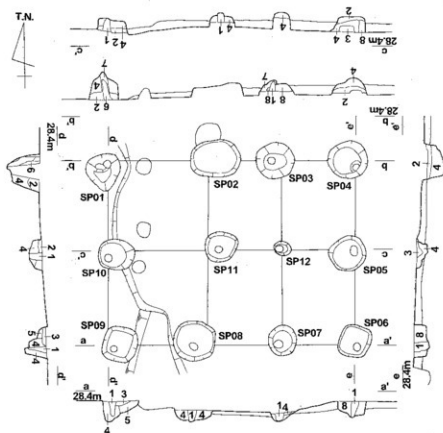
SB26



第140図 掘立柱建物平・断面図 (11)



SB27

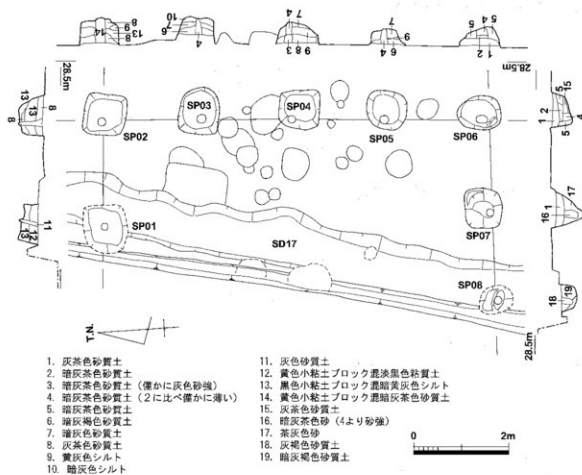
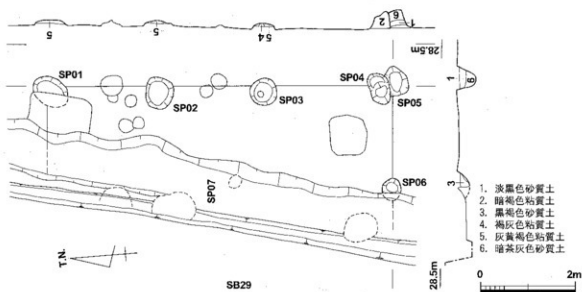


1. 黄灰色粘土・淡黒色粘土小ブロック混灰色シルト
2. 黄灰色粘土・淡黒色粘土小ブロック混暗灰色砂質土
3. 灰褐色砂質土
4. 淡黒色粘土小ブロック混暗灰色砂質土
5. 淡茶色砂質土
6. 黄灰色粘土（多）灰茶色砂質土（少）ブロック構成層
7. 灰褐色砂質土
8. 黄灰色粘土小ブロック混暗灰茶褐色砂質土
9. 暗灰色砂質土

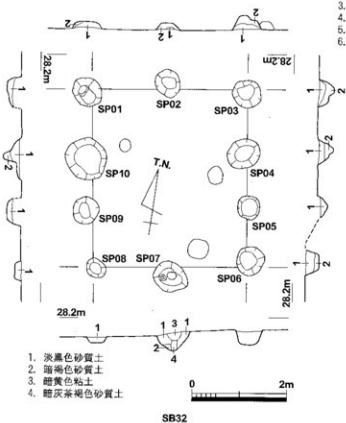
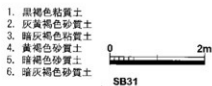
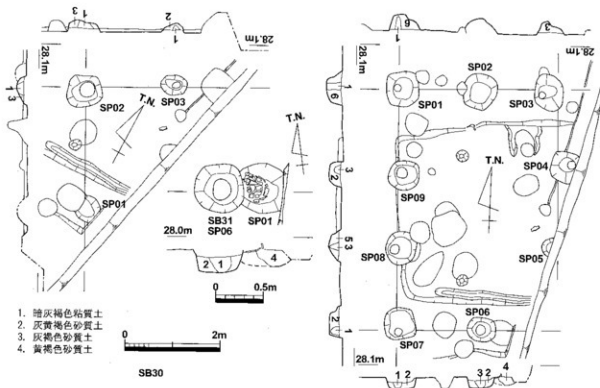
SB25

第141図 掘立柱建物平・断面図 (12)

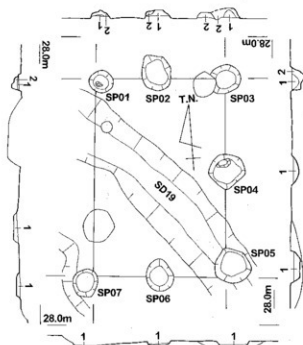




第142図 掘立柱建物平・断面図 (13)

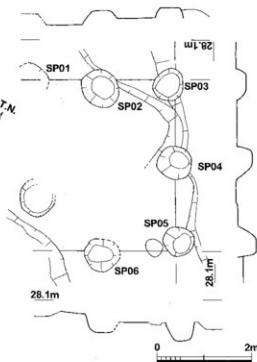


第143圖 掘立柱建物平・断面圖 (14)

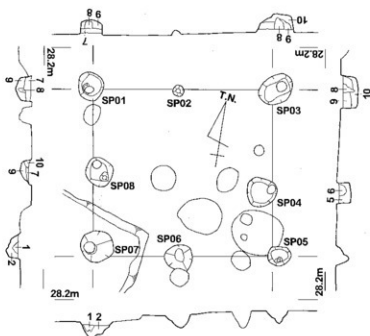


1. 淡黒色砂質土
2. 灰褐色砂質土

SB34



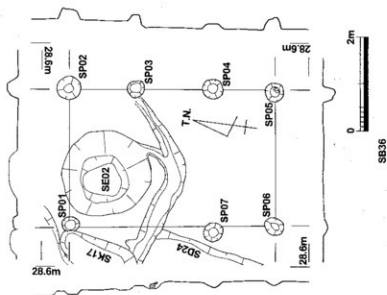
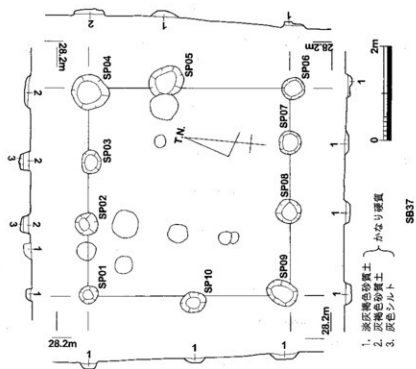
SB35



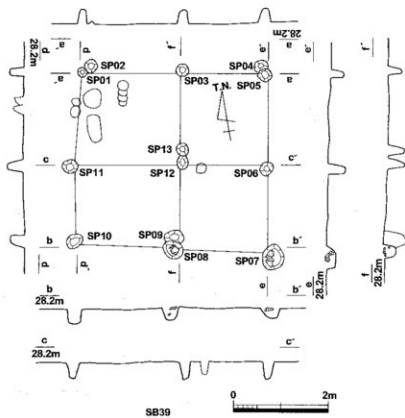
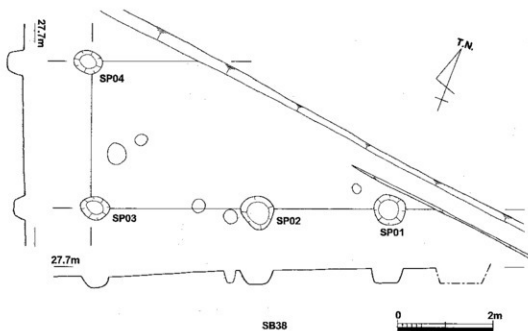
- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. 暗褐色粘土混砂質土 | 8. 暗灰色砂質土 (9より暗) |
| 2. 暗褐色砂質土    | 9. 暗灰色砂質土        |
| 3. 暗黄色粘土     | 10. 暗黄褐色砂質土      |
| 4. 灰色砂       |                  |
| 5. 暗灰褐色砂質土   |                  |
| 6. 黄土混暗灰褐色砂  |                  |
| 7. 淡黒褐色砂質土   |                  |

SB33

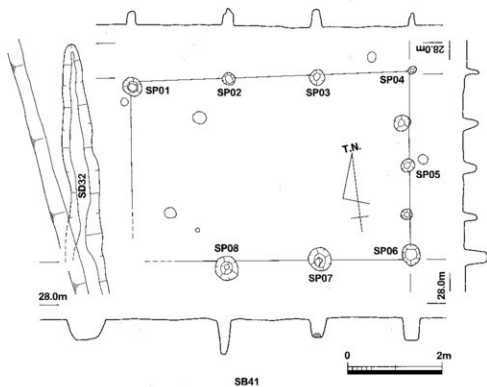
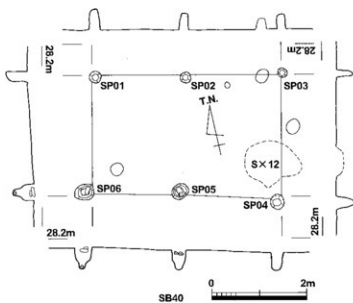
第144図 掘立柱建物平・断面図 (15)



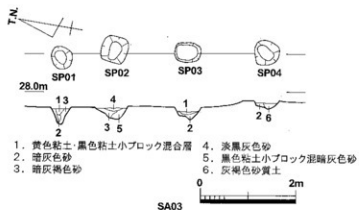
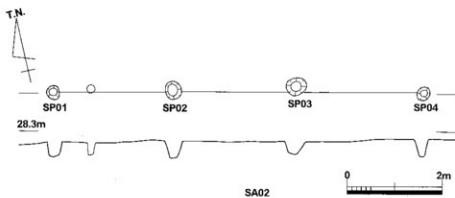
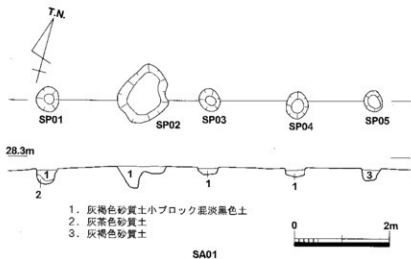
第145図 掘立柱建物平・断面図(16)



第146图 掘立柱建物平・断面图 (17)



第147図 掘立柱建物平・断面図 (18)



第148図 柵列平・断面図

#### 4. 柵列

##### SA01 (第148図)

Ⅱ区南西部のB 6区で検出した東西方向の柵列である。柵列は4間(7.0m)、主軸方位はN75° Eを測る。柱間は約1.8mを測る。柱穴は5基確認され、そのうちSP02は掘形がかなり不整形であり、抜き取りによるものと考えられる。柱穴掘形は円形ないし不整形円形を呈し、径0.4m~1.3m、深さ0.2m~0.4mを測る。遺物は出土しなかった。

##### SA02 (第148図)

Ⅱ区北半部中央のA 6区で検出した東西方向の柵列である。柵列は3間(8.0m)、主軸方位はN75° Wを測る。柱間は約2.5mを測る。柱穴は4基確認され、掘形は円形を呈し、径0.2m~0.4m、深さ約0.3mを測る。遺物は出土しなかった。

##### SA03 (第148図)

Ⅲ区北東端部のA 7区で検出した南北方向の柵列である。柵列は3間(4.6m)、主軸方位はN10° Wを測る。柱間は1.2m~1.8mを測る。柱穴は4基確認され、掘形は円形ないし隅丸方形を呈し、径約0.4m、深さ約0.3mを測る。遺物は出土しなかった。

#### 5. 柱穴

検出した遺構の中で柱穴の占める割合はかなり高いものがある。特に浅谷1・2地域の遺構面上での柱穴の密度は高く、蜂の巣状を呈している。これらの柱穴より合計で41棟の建物跡を復元したが、まだ本来の数には至っていないものと考えられる。次に報告するのは、建物跡を構成する柱穴以外の柱穴の中で、比較的遺物が豊富に出土したものである。そのため、以下の柱穴は、未確認の建物跡を構成する柱穴を含んでいる可能性の高い柱穴である。

第18表 柱穴一覧表

調査区	グリット	報告名	法量 (cm)		埋土	出土遺物	遺物番号	備考
			径	深さ				
Ⅰ区	A2	SP001	22	30	A			
Ⅰ区	A2	SP002	20	12	B	土師器、須恵器	51	
Ⅰ区	B2	SP003	42	20	C	土師器、瓦器	52	
Ⅰ区	A3	SP004	25	27	A	土師器	53	
Ⅰ区	A3	SP005	21	24	A	土師器、須恵器	54	
Ⅰ区	B3	SP006	40~55	18	B	土師器、須恵器	55	
Ⅰ区	B3	SP007	27	22	D	瓦器	56	
Ⅰ区	B3	SP008	65	23		土師器、瓦器、須恵器、磁器	57・58	
Ⅰ区	B3	SP009	48~60	23	D	土師器、瓦器	59	
Ⅰ区	B3	SP010	26	32	A	須恵器	60	
Ⅰ区	B3	SP011	40~60	37	C	土師器	61	
Ⅰ区	B3	SP012	29	19	D	土師器	62	
Ⅰ区	B3	SP013	34	36	A	土師器	63~65	
Ⅰ区	B3	SP014	7	9	D	土師器	66	
Ⅰ区	B3	SP015	42	53		石臼、土師器、須恵器、磁器	89	
Ⅰ区	B3	SP016	22	26	A	土師器、瓦器	67・68	
Ⅰ区	B3	SP017	28	28	D	土師器	69	下層
Ⅰ区	B3	SP018	26	12	G	弥生	70	下層



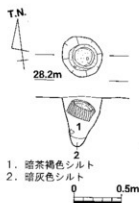
調査区	グリット	報告名	法量 (cm)		埋土	出土遺物	遺物番号	備考
			径	深さ				
I 区	B3	SP019	36	40	D	土師器、黒色A	71	
I 区	B3	SP020	27	20	G	銭	72	
I 区	B3	SP021	32	20	K	柱材、瓦器		下層
I 区	B3	SP022	25	46	J	土師器、須恵器	73	下層
I 区	B3	SP023	38	19	A	土師器	74	
I 区	B3	SP024	34	29	E	土師器、須恵器	75~77	
I 区	B3	SP025	32	14	H	土師器	78	下層
I 区	B3	SP026	40	38	F	土師器、須恵器	79	
I 区	B3	SP027	70~90	37	A	土師器、須恵器、瓦器	80	
I 区	A4	SP028	80	20	L	土師器、須恵器	81	下層
I 区	A4	SP029	70	22	L	土師器	82	下層
I 区	B4	SP030	18	7	H	土師器	83	下層
II 区	B5	SP031	20	17	M	土師器、瓦	85	
II 区	B5	SP032	25	30	M	土師器	86	
II 区	B5	SP033	40	30	D	土師器、その他(土釜)		
III 区	A7	SP034	32	39	N	石製品	90	
III 区	A7	SP035	38	28	D	土師器	91	下層
III 区	B7	SP036	65	27	P	土師器、黒色土器	92	下層
III 区	B7	SP037	23	13	D	土師器、須恵器	93	
III 区	B9	SP038	43	6	D	須恵器	94	
I 区	B3	SP039	15	10	D	土師器	84	下層

埋土 A 暗灰褐色砂質土  
 B 灰褐色砂質土  
 C 淡灰色砂質土  
 D 淡黒色粘質土  
 E 暗灰色砂  
 F 暗茶灰色砂質土  
 G 暗灰褐色粘質土  
 H 暗茶褐色粘質土

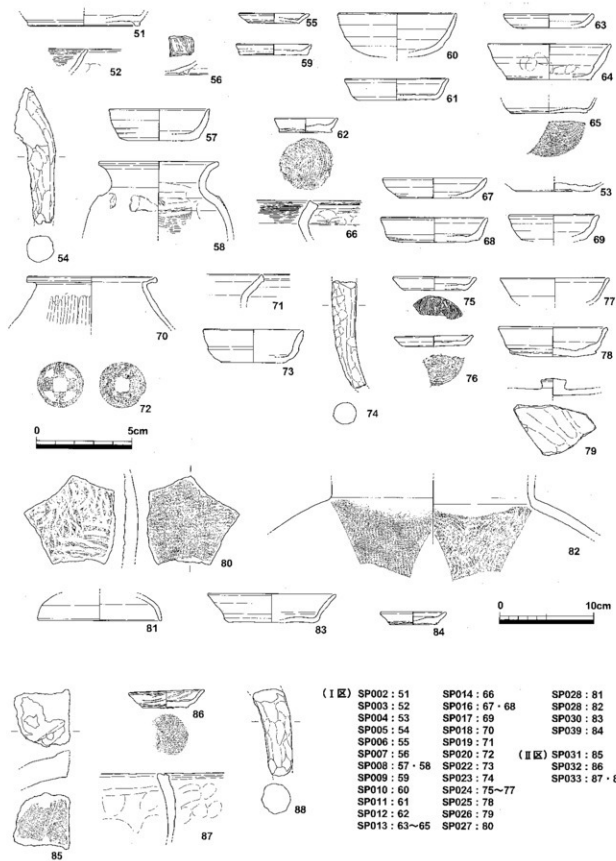
J 暗灰褐色砂質土  
 K 暗灰色粘質土  
 L 黄色粘土ブロック混淡黒褐色砂  
 M 灰褐色砂質土  
 N 灰茶褐色砂質土+黄色粘土  
 P 黄色粘土ブロック混暗褐色砂質土  
 (ベースになるII①層に類似)

上記 第18表の柱穴から出土した遺物は、第150・151図に図化した。

(51)はSP002出土の8世紀頃の須恵器杯底部 (52)はSP003出土の瓦器椀口縁部片で、形状より楠葉型の可能性が高い。(53)はSP004出土の土師器杯の底部 (54)はSP005出土の土釜の脚部 (55)はSP006出土の土師器小皿 (56)はSP007出土の瓦器椀の底部片、形状より13世紀頃の時期が考えられる。(57・58)はSP008出土の土師器杯、須恵器壺である。(58)は残り悪く不明瞭な点があるが、形状より三耳壺と考えられる。(59)はSP009出土の土師器小皿 (60)はSP010出土の須恵器杯 (61)はSP011出土の土師器杯 (62)はSP012出土の土師器小皿 (63~65)はSP013出土の土師器の小皿・杯である。(66)はSP014出土の土師器壺口縁部 (67・68)はSP016出土の土師器杯で、13世紀頃の時期が考えられる。(69)はSP017出土の土師器杯 (70)はSP018出土の弥生後期の壺上半部で、混入の可能性が高い。(71)はSP019出土の土師器壺の口縁部である。(72)はSP020出土の銭貨「皇業通宝」である。おそらく地鎮祭りに伴う遺物と考えられる。(73)はSP020出土の土師器

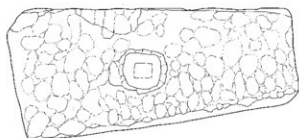


第149図 SP15平・断面図

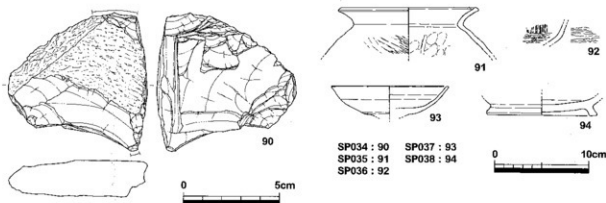


- |                 |                 |                  |
|-----------------|-----------------|------------------|
| (I区) SP002 : 51 | SP014 : 66      | SP028 : 81       |
| SP003 : 52      | SP016 : 67 · 68 | SP028 : 82       |
| SP004 : 53      | SP017 : 69      | SP030 : 83       |
| SP005 : 54      | SP018 : 70      | SP039 : 84       |
| SP006 : 55      | SP019 : 71      |                  |
| SP007 : 56      | SP020 : 72      | (II区) SP031 : 85 |
| SP008 : 57 · 58 | SP022 : 73      | SP032 : 86       |
| SP009 : 59      | SP023 : 74      | SP033 : 87 · 88  |
| SP010 : 60      | SP024 : 75~77   |                  |
| SP011 : 61      | SP025 : 78      |                  |
| SP012 : 62      | SP026 : 79      |                  |
| SP013 : 63~65   | SP027 : 80      |                  |

第150图 柱穴出土遺物(1)



第151圖 柱穴出土遺物(2)



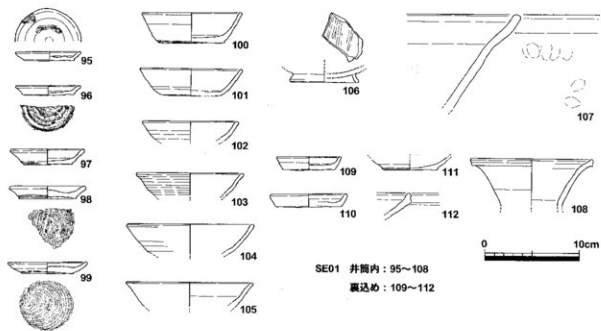
第152図 柱穴出土遺物（3）

杯（74）はSP023出土の土師器土釜の脚部片（75～77）はSP024出土の土師器小皿・杯（78）はSP025出土の土師器杯で、13世紀頃の時期が考えられる。（79）はSP026出土の8世紀頃の須恵器杯蓋であるが、内面に縦方向の摩滅痕が認められ、杯を硯に転用した可能性が高い。（80）はSP027出土の須恵器甕体部片（81）はSP028出土の7世紀前半頃須恵器杯蓋（82）はSP029出土の須恵器甕の肩部（83）はSP030出土の土師器杯（84）はSP039出土の土師器小皿（85）はSP031出土の須恵質の瓦片（86）はSP032出土の土師器小皿（87・88）はSP033出土の土師器土釜片である。（89）はSP015の上位で出土した石臼である。その出土状況より、柱を抜き取った後柱穴を塞ぐ用材としたものと考えられる。（90）はSP034出土の弥生時代頃の、サヌカイト製楔形石器の素材である。（91）はSP035出土の土師器甕上半部（92）はSP036出土の土師器杯片、内外面伴にヘラミガキが顕著で、内面には渦巻き状の暗文が認められる。（93）はSP037出土の須恵器高杯（94）はSP038出土の7～8世紀頃の須恵器壺底部である。

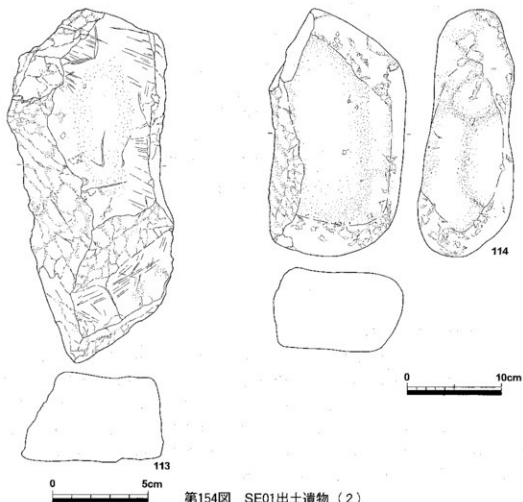
## 6. 井戸

SE01（第153～155図，図版51・73・80）

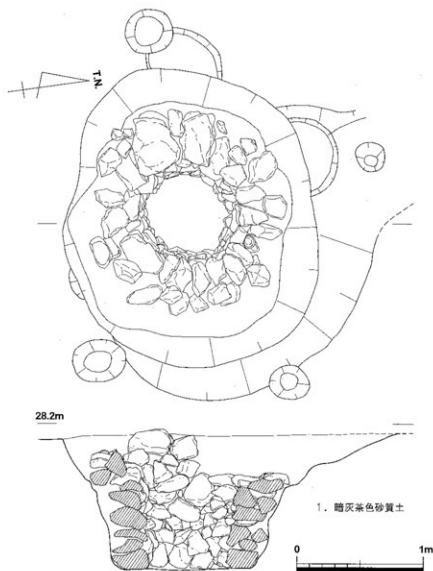
I区中央のB3区で検出した石組の井戸である。周囲にはSB02・03等が展開しているが、それらを切り込んでいる。平面は楕円形状を呈し、断面は上端がラッパ状に開く逆台形状を呈している。長径2.8m×短径2.5m、深さ2.1mを測る。石組みは安山岩・凝灰岩等の木口面を内側に向け、6～7段積みで円形に積み上げている。井筒の内径は1.2mを測る。埋土を大別すれば上・下層に分けられる。上層は暗茶褐色系の粘質土、下層は暗灰褐色系の粘質土である。出土遺物としては、土師器小皿・杯・鉢、黒色土器、瓦器、須恵器壺・鉢、砥石等がコンテナ2箱程出土している（第154図95～114）。（95～108）は井筒内より出土した土器である。（95～99）は土師器の小皿である。（95）には灯油の燃焼痕、（99）の底部外面には糸切り痕が顕著に残る。（100～105）は土師器の杯で、（104）は早島焼きの可能性が高い。（106）は黒色土器Aの碗底部である。（108）は須恵器の壺の口縁部である。（109～112）は裏込め内より出土した土器である。（109・110）は土師器の小皿、（111）は土師器の杯底部である。（112）は須恵器の鉢の口縁部で、形状より東播系の鉢と考えられる。（113・114）は砥石である。石組みの中から出土しており、古墳時代頃の砥石を転用した可能性が高い。これらの出土遺物よりSE01は、13世紀頃の時期が考えられる。



第153図 SE01出土遺物（1）



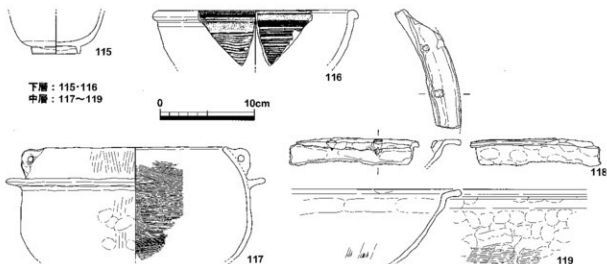
第154図 SE01出土遺物（2）



第155図 SE01平・断面図

SE02 (第156・157図, 図版68・73)

Ⅲ区の南半部B7区で検出した素堀の井戸である。隣接するSB36を切り込んでいる。平面は整円形状を呈し、断面は上位がラッパ状に開いた逆台形状を呈している。なお、SE02の上端部では排水のためか、SD26と交わっている。径1.9m、深さ2.9mを測る。埋土は大別して上層は灰茶色系の粘土であり、下層は淡黒色・灰色の粘質土ないしへドロ状の埋土である。出土遺物としては、土師器鍋、染付椀、金属製の鍋等が少量出土している(第156図115~119)。(115)は肥前系の呉器手椀、(116)は肥前系の刷毛目鉢、(117)は瓦質の土釜、(118・119)は瓦質の焙烙である。



下層：115・116  
中層：117～119

第156図 SE02出土遺物

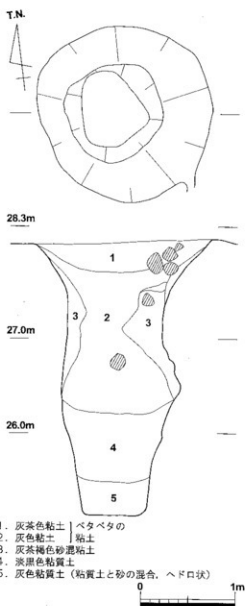
## 7. 土坑

### SK01 (第158・160図, 図版52・73)

I区の東端B1区で検出した土坑である。平面は不整形円形を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。長径2.0m×短径1.7m、深さ0.4mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器杯、備前焼きの大甕約1/4個体分等が出土している。土坑の形状等から推定して、備前の大甕を据えるための土坑と考えられる。(第160図120)は備前焼の大甕である。口縁部及び底部を主体として約1/4程が残存していた。器高は推定で77cm程を測る。底部は平底で径32cmを測る。体部は長胴で上半部に最大径が位置する。口頸部は短く、口縁端部は丸く折り曲げられ玉縁状を呈する。外面はヘラ状工具、内面は板状工具により、丁寧に掻き取りながら表面の調整を行っている。この甕はその形状より備前焼IV期の前半頃(14世紀末～15世紀前半)にあたる土器と考えられる。

### SK03 (第158図)

I区の東端B2区で検出した土坑である。平面は円形を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。径1.5m、深さ約0.2mを測る。埋土は2層に分かれる。出土遺物としては、土師器片、須恵器の杯等が少量出土している。



1. 灰茶色粘土 | ベタベタの
2. 灰色粘土 | 粘土
3. 灰茶褐色砂混粘土
4. 濃褐色粘質土
5. 灰色粘質土 (粘質土と砂の混合、ヘッド状)

第157図 SE02平・断面図

SK04 (第158図)

I区の中央B3区で検出した土坑である。平面は長楕円形状を呈し、断面は浅いレンズ状を呈する。長径1.4m×短径0.7m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗灰褐色粘質土を呈する。遺物は出土しなかった。

SK08 (第158図)

II区の中央B5区で検出した土坑である。平面は円形を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径1.1m×短径1.0m、深さ約0.4mを測る。埋土は上下2層に分かれる。遺物は出土しなかった。

SK09 (第169図, 図版63)

II区の東半部A5区で検出した土坑である。西半部でSK08を切り込み、南半部は攪乱により壊されているため、全体の約1/2を検出した。平面は長楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径0.9m×短径0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗茶灰褐色砂質土を呈する。遺物は出土しなかった。

SK10 (第158・160図)

II区の中央B5区のSK11の北に隣接して検出した土坑である。平面は不整長方形形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径1.7m×短径1.6m、深さ約0.7mを測る。埋土は3層に分かれる。出土遺物としては、土師器小皿、椀、瓦器椀、須恵器杯片等が少量出土している(第160図121~124)。(121)は土師器の小皿(122)は土師器の椀、(123・124)は和泉型の瓦器椀の上半部である。

SK11 (第158図)

II区の中央B5区のSK10の南に隣接して検出した土坑である。平面は長楕円形状を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。長径2.0m×短径0.8m、深さ約0.25mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜片、瓦器椀、須恵器片等が微量出土している。

SK12 (第158図)

II区の中央A5区で検出した土坑である。平面は隅丸方形形状を呈し、断面は浅い逆台形状を呈する。長径2.1m×短径1.8m、深さ約0.2mを測る。埋土は単層である。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯、十瓶の甕片等が少量出土している。

SK13 (第159図, 図版64)

II区の中央A5区で検出した土坑である。平面は長楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径2.8m×短径0.8m、深さ約0.2mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器片、瓦器椀、須恵器片等が少量出土している。なお、SK13はその形状より墓の可能性がある。

SK15 (第159図)

II区の西半部B6区で検出した土坑である。平面は不整円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈するが、底部は一部凹凸がある。長径1.6m×短径1.4m、深さ約0.4mを測る。埋土は3層に分かれる。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯片等が少量出土している。

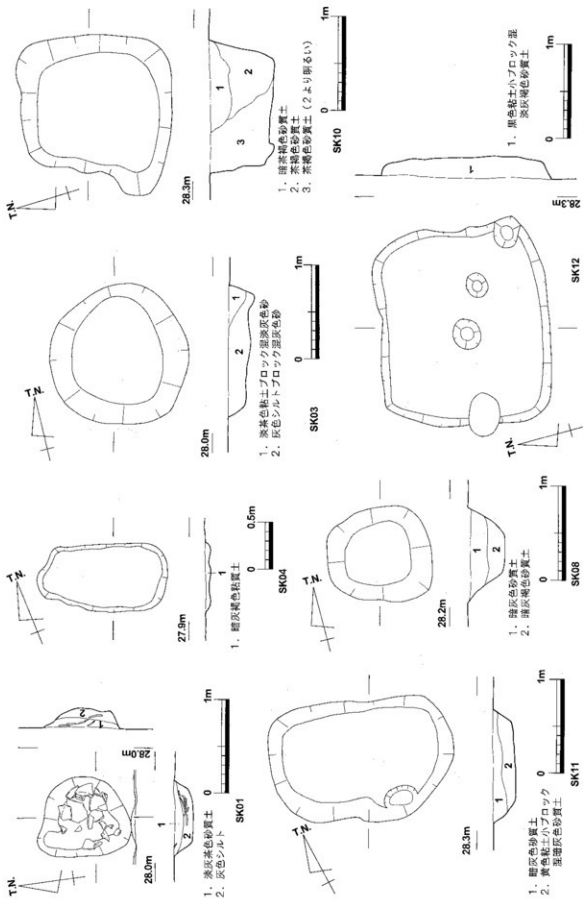
SK18 (第159図)

III区の中央A8区で検出した土坑である。平面は不整円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径1.2m×短径1.1m、深さ約0.3mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器片、須恵器片等が極少量出土している。

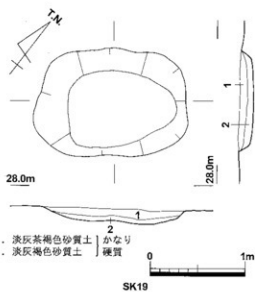
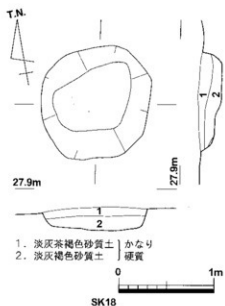
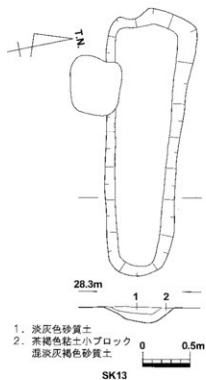
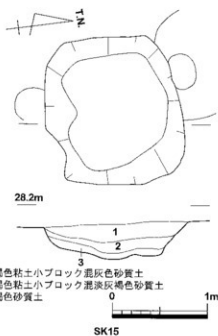
SK19 (第159図)

III区の中央B8区でSB37に隣接して検出した土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は浅いレンズ状を呈する。長径1.7m×短径1.2m、深さ約0.2mを測る。埋土は上下2層に分かれ、遺物は出土しなかった。

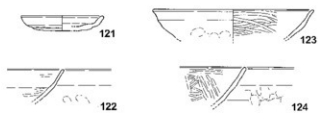
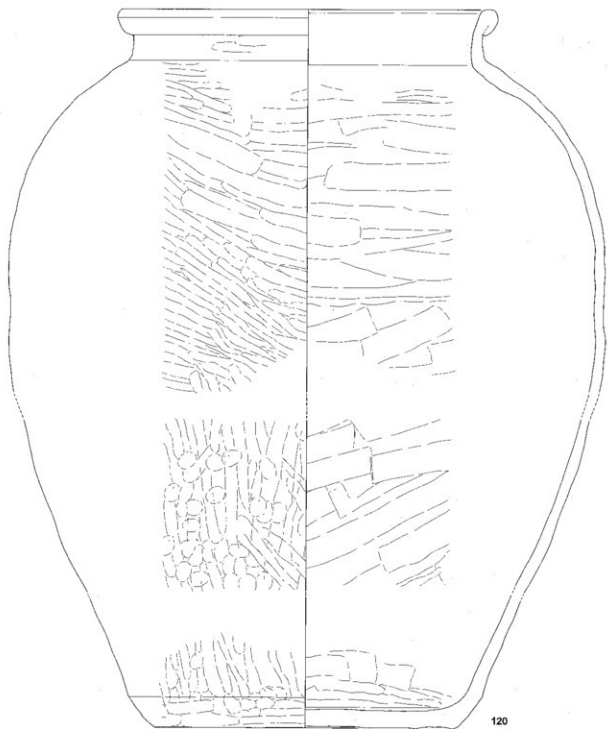




第158図 土坑平・断面図(1)



第159図 土坑平・断面図(2)



SK01:120  
SK10:121~124

0 20cm

第160図 土坑出土遺物

## 8. 溝状遺構

### SD01 (第161・164図, 図版53)

I区の東端部、A・B1区で検出した区画溝である。後述したようにSD01は本来SD06の東辺を区画していた、一時期古い段階のSD06の東辺溝と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長25.0m、検出幅1.1m、深さ0.3m、主軸方位はN8°Eを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器壺等が少量出土している。(第164図151)は土師器の土釜の底部片である。

### SD04 (図版52)

I区の東半部、A・B2区で検出した南北溝である。北端部ではSD06により切られている。断面は浅いU字状を呈し、検出長9.5m、検出幅0.9m、深さ0.2mを測る。遺物は出土しなかった。なお、SD06周辺には、配置・規模等で類似したSD07・08等の小規模な南北溝が存在する。性格的に類似するものと考えたい。

### SD05 (第161・165図, 図版52・74)

I区の東半部、A・B2区で検出した南北方向の溝である。北辺はSD06に切れ、東側にはSD04が隣接する。断面は浅いU字状を呈し、検出長13.5m、検出幅1.5~2.4m、深さ約0.4m、主軸方位はN15°Eを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯・壺・甕等が少量出土している(第165図152~155)。(152・153)は須恵器杯、(154)は須恵器の有蓋の短頸壺(155)は須恵器の短頸壺(156)小型の須恵器甕の口縁部である。外面には鉄影の記号が認められる。(157)は須恵器の鉄鉢である。体部は丸味をもち口縁部は平坦に仕上げている。出土遺物よりSD05は7世紀中葉頃の時期が考えられる。

### SD06 (第161・164図, 図版53・54・74・79)

I区のはほぼ全域、A・B1~4区に所在する、屋敷地の外周を区画する堀状の溝である。溝は周辺の地割方向に主軸を描え、北辺・東辺・西辺を区画する各々の溝からなる。北辺の溝は調査区の中に所在する現在の東西方向の里道に沿い、わずかに南に湾曲して東西方向に延びる。東辺の溝は南北方向に延び、A1区で北辺の東西溝と交わる。西辺の溝も南北方向に延び、A4区で北辺の東西溝と交わる。3辺の溝とも切り合いは認められず、全体の形状は南に空いた「コ」の字状の配置を呈している。そのため、方形に巡る区画溝のおおよそ北半分を検出した状態と考えられる。なお、東辺の溝の東に隣接して南北方向に延びるSD01は埋土・配置等SD06の東辺の溝にかなり類似している。切り合いよりSD01が先行するため、SD01は本来SD06の東辺を区画していた古い段階の東辺溝と考えられる。また、SD06の区画内に所在する、SD04・07~09等の南北溝は、区画内を更に小区画するための溝と考えられる。

北辺の東西溝は、検出長43.0m、幅約2.0m、深さ約0.5mを測る。なお、北辺溝の北肩部は調査区の間係で検出できなかった。東辺の南北溝は、検出長10.0m、幅約0.7m、深さ約0.1mを測る。西辺の南北溝は、検出長20.0m、幅2.5~3.6m、深さ約0.4mを測る。方位は南北溝でN13°Eを測る。断面形は地点により変化はするが、概ね幅広なU字状を呈する。埋土は地点により微妙に異なるが、概ね上層が灰茶褐色系の砂質土で、下層が灰色系のシルトないしは砂質土を呈している。なお、北辺溝と東辺・西辺溝との合流地点及び区画溝SD09との合流地点にはSX02~04等の不整形な落ち込みが溝の底を掘り込んでいる。これら3辺の溝に区画された約680㎡範囲内には、溝とはほぼ同一時期と考えられる柱穴を、数百基検出した。これらの中より整合性をもつ建物を抽出するにはかなりむずかしいが、数基の建物跡を抽出した。

SD06からの出土遺物としては、土師器小皿・杯・椀・播鉢・土鍋・土釜、瓦器椀、須恵器杯・壺・甕、唐津皿、肥前系染付け椀、備前甕等がコンテナ1箱出土した(第164図125~150)。(125)は同安窩

系の青磁の皿である。(126~127)は肥前系陶器の皿、(128)は肥前系陶器の溝縁皿である。3点とも内面に砂目積が認められる。(129~131)は土師器の杯(132~136)は須恵器の杯である。(132~133)は7世紀前半頃(135・136)は10世紀頃の遺物で混入品である。(137)は7世紀頃の土師器杯で混入品である。(138・139)は肥前系の染付けの椀である。(140)は瓦質の鍋の口縁部である。形状より亀山焼きの可能性がある。(141・142)は在地の土師器摺鉢である。(141)底部は平底で体部は外上方へ直線状に延び、口縁部付近で屈曲し口縁部に至る。口縁部は斜方向に平坦に仕上げ、端部は丸く納めている。内外面共に比較的調整は粗い。(143・144)は羽釜及び土釜の口縁部、(145~148)は土釜の脚部である。(149)は備前焼の壺口縁部で、口縁端部は丸く折り曲げられ玉縁状を呈する。(150)はサスカイト製の槍先形石器の基部片である。稜線及び器面上には、装着によるものか使用痕が認められる。弥生時代の遺物と考えられ混入品である。SD06の所属時期を決めるには、混入品を多量に含んでいるため困難な点があるが、少なくとも17世紀中葉頃には埋没しているものと考えられる。

#### SD07

I区の東半部、A・B2区で検出した南北溝である。SD05の西に位置し、北端部ではSD06により切られている。断面は浅いU字状を呈し、検出長5.5m、検出幅0.6m、深さ0.2mを測る。出土遺物としては、須恵器杯、陶器の椀等が少量出土している。

#### SD08

I区の東半部、A・B2区で検出した南北溝である。SD07の西に位置し、北端部ではSD06と合流する。断面は浅いU字状を呈し、検出長4.0m、検出幅0.3m、深さ0.1mを測る。遺物は出土しなかった。

#### SD09 (第162・165図, 図版55)

I区の中央、A・B2・3区で検出した南北方向の区画溝である。先述したようにSD09は、SD06が区画する敷地内を、東西に更に分割する区画溝と考えられる。区画された西区画と東区画は柱穴の密度が異なり、西区画の密度がかなり高い。そのためSD09は居住域の東辺を画する溝と考えられる。断面は低部がかなり凹凸が認められる不整形な形状を呈し、検出長14.0m、検出幅1.8m、深さ0.2m、主軸方位はN12°Eを測る。埋土は灰褐色砂質土の単層である。出土遺物としては、土師小皿・杯・鍋、陶磁器片等が少量出土している(第165図158~160)。(158・159)は肥前系陶器の溝縁皿である。(160)は土師器土鍋の口縁部である。これらの出土遺物よりSD05は、17世紀中葉頃の時期が考えられる。

#### SD10 (第162図)

I区の西半部、A3区で検出した南北方向の溝である。SD06の西辺溝より東約2m隔て、西辺溝と向きを揃え南北方向に延びるが、削平によるものかA3区の南端部で途絶える。断面は浅い逆台形状を呈し、検出長8.5m、検出幅1.5m~2.4m、深さ約0.4m、主軸方位はN10°Eを測る。埋土は灰褐色砂質土の単層である。出土遺物としては、土師器、須恵器片等が少量出土している。

#### SD11 (第162図)

I区の西半部、B4区で検出した南北方向の幅広で短い溝である。断面は浅い逆台形状を呈し、検出長3.1m、検出幅約1.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は灰褐色砂質土の単層である。遺物は出土しなかった。

#### SD12 (第162・165図, 図版55)

I区の西半部、A・B4区で検出した南北方向の幅広な溝である。SD06の西辺溝より西約8m隔て、西辺溝と向きを揃え南北方向に延びるが、削平によるものかA4区の北端部で途絶える。規模・配置等SD06の西辺溝に類似する事より、SD12は、SD01同様にSD06に先行する区画溝の可能性が有る。断面

は浅いU字状を呈し、検出長13.5m、検出幅1.5m～2.4m、深さ約0.4m、主軸方位はN15° Eを測る。埋土は10層に細分される。出土遺物としては、土師器杯・碗・鉢、陶磁器片、キセル等が少量出土している(第165図161～164)。(161)(162)は肥前系の青磁碗の高台部である。(163)は備前の播鉢の口縁部である。

#### SD13

Ⅱ区の東端部、A・B4区で検出した、南北方向に短く延びる不整形な溝である。断面は浅い皿状を呈し、検出長11.0m、検出幅約0.8～2.8m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器甕片等が少量出土しており、16世紀頃の時期が考えられる。

#### SD14 (第162図)

Ⅱ区の東端部、B4・5区で検出した、東西方向に短く延びる溝である。断面は不整形なU字状を呈し、検出長4.5m、検出幅約1.0m、深さ約0.3mを測る。埋土は上下で2層に分かれる。出土遺物としては、土師器甕片等が少量出土している。

#### SD15 (第162・165図)

Ⅱ区の中央、A・B6区で検出した南北方向の細長い溝である。断面は地点により異なるが、おおまかに見て浅い逆台形状を呈する。検出長22.5m、検出幅約0.4m～1.0m、深さ約0.2m、主軸方位はN15.5° Eを測る。埋土は淡灰褐色砂質土の単層である。出土遺物としては、土師器鍋、須恵器杯、陶器皿等が少量出土している(第165図165～169)。(165)は肥前系陶器の溝縁皿(166)は須恵器杯の口縁部で混入品である。(167)(168)は土師器の土鍋片(169)は土師器甕の把手部で混入品である。これらの出土遺物よりSD15は、17世紀中葉頃の時期が考えられる。

#### SD16 (第162図)

Ⅱ区の西半部、A・B6区で検出した北東方向に延びる細長い溝である。断面は地点により異なるが、おおまかに見て浅い不整形なU字状を呈する。検出長15.0m、検出幅約0.5m、深さ約0.1m～0.3mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器・須恵器片が少量出土している。

#### SD17 (第162・165図, 図版64)

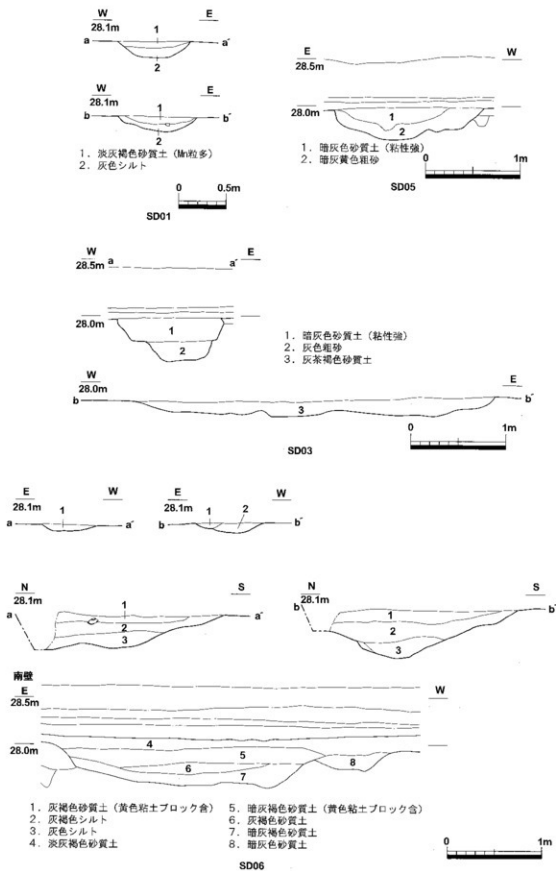
Ⅱ区の西端部、A・B6区で検出した、対象地内に残る南北の里道沿いに延びる溝である。調査区の関係で一部西肩部が未検出のところがある。SB28・29等の柱穴を切り込んでいる。また、この溝は、複数時期に分かれるものと考えられ、断面も不整形で、埋土も複雑に5層に分かれる。検出長15.5m、検出幅約1.0m、深さ約0.2mを測る。主軸方位はN14° Eを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器甕、陶器片等が少量出土している。(第165図170)は形状より堺産の備前焼播鉢の口縁部である。

#### SD18 (第165図, 図版69)

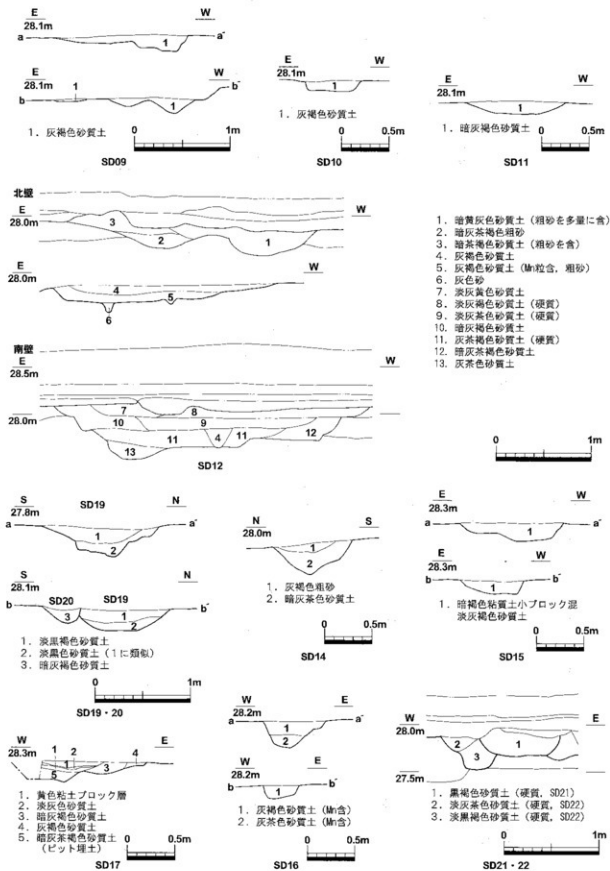
Ⅲ区の東半部、A7区で検出した、東西方向に延びる溝である。この溝の西約3.0mの地点には、SD18に直交する方向で南北溝のSD21・22が所在する。これらの溝に区画された空間には、溝方向に向きを揃えたSB39・40が所在する。そのため、これらの遺構はほぼ同時期の屋敷地を構成する遺構群と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長16.5m、検出幅約0.7m、深さ約0.2m、主軸方位はN76° Wを測る。出土遺物としては、土師器杯片が1点出土している。(第165図171)は7世紀頃の土師器の杯で、混入品である。

#### SD19・20 (第162図)

Ⅲ区の南東端部B7区よりA8区に向けて北西方向に向けて浅谷3が延びる。SD19・20はその谷底の最深部を北西方向に延びる。この2条の溝は微高地上の水を集積し、調査地西方の南北に延びる旧河

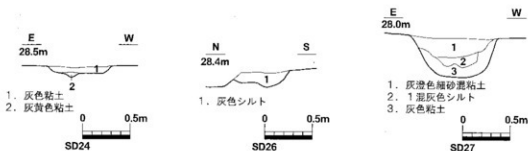


第161図 溝状遺構断面図 (1)



第162図 溝状遺構断面図(2)





第163図 溝状遺構断面図(3)

道1に排水するための排水路と考えられる。二つの溝はB7区で切り合い「Y」字型に分離し北西方向に延びる。切り合い関係ではSD19が先行し、SD20が後出する。SD19の断面は不整形な逆台形状を呈し、検出長約23.0m、検出幅約1.0m、深さ約0.3mを測る。埋土は上下2層に分かれる。SD20の断面は浅いU字状を呈し、検出長約16.0m、検出幅0.5m~1.2m、深さ約0.2mを測る。埋土は単層である。なお、この二つの溝からは遺物は出土しなかった。

SD21・22 (第162・165図, 図版69)

Ⅲ区の東半部、A7・8区で検出した、南北方向に延びる溝である。両者は肩部で僅かに切りあい、その切り合いより、SD22が21より先行する。SD21・22は先述したように、SD18との関係で、SB39・40の建物群からなる屋敷地を画した区画溝と考えられる。SD21の断面は、浅いU字状を呈し、検出長5.5m、検出幅約0.8m、深さ約0.2m、主軸方位はN12° Eを測る。出土遺物としては、土師器片が2点出土している。SD22の断面は、浅いU字状を呈し、検出長5.5m、検出幅約0.8m、深さ約0.2m、主軸方位はN13° Eを測る。出土遺物としては、土師器片、須恵器高杯片等が少量出土している。(第165図172)はSD22から出土した土師器の片である。7世紀頃の甕で混入品と考えられる。

SD24 (第163図, 図版68)

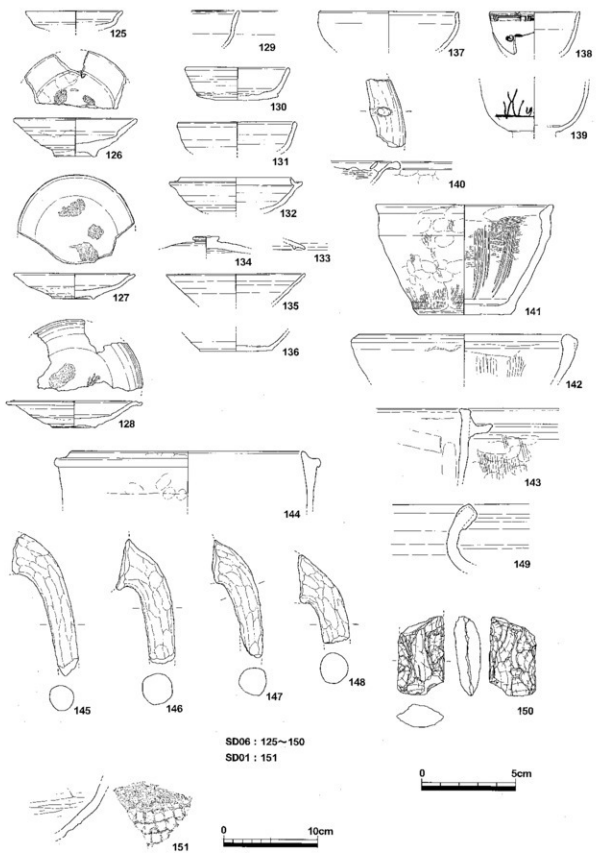
Ⅲ区の中央B7区で検出した、南北方向に延びる溝である。SE02に隣接し、北端ではSD26に切られている。断面は浅いU字状を呈し、検出長3.5m、検出幅約0.7m、深さ約0.2mを測る。出土遺物としては、土師器・須恵器片等が少量出土している。

SD26 (第163・165図)

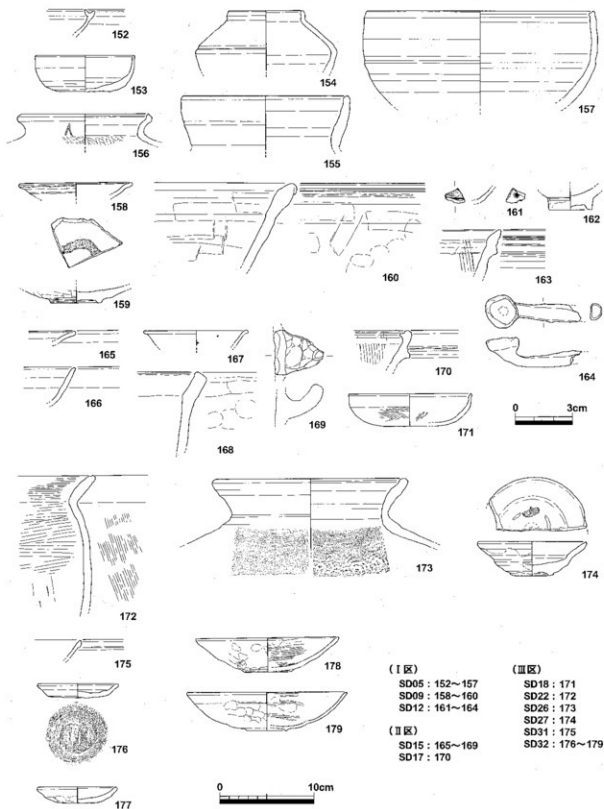
Ⅲ区の中央、A・B7・8区で検出した、東西方向に延びる溝である。東端ではSE02の上端部に繋がっているため、性格的にはSE02の排水路と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長16.5m、検出幅0.3m~0.7m、深さ約0.2m、主軸方位はN74° Wを測る。出土遺物としては、土師器鍋、須恵器杯・壺・甕等が少量出土している。(第165図173)は7世紀頃の須恵器甕の上半部で、混入品である。

SD27 (第163・165図, 図版74)

Ⅲ区の西半部A・B9区で検出した南北方向に延びる溝である。西側にはSB41、SD28~31等が隣接している。断面はU字状を呈し、検出長22.0m、検出幅約1.2m、深さ約0.4m、主軸方位はN14° Eを測る。埋土は3層に分層できる。なお、堆積状況を観察する限り最低1回の溝の改修が確認できる。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器杯、陶器皿等が少量出土している。(第165図174)は肥前系陶器の皿である。出土遺物よりSD27は、17世紀前半頃の時期が考えられる。



第164図 溝状遺構出土遺物(1)



第165图 满状遗物出土遺物 (2)

#### SD28～31 (第165図, 図版69)

Ⅲ区の西端部A9区で検出した、東西方向に延びる4条の溝群である。南にSB41、東にSD27が隣接している。小規模な4条の溝が約0.3mの間をあけて平行に配されている。そのため、これらの溝は畑作に伴う畝溝群と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長7.5m～8.5m、検出幅約0.3m～0.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は単層である。出土遺物としては、土師器片、須恵器杯・甕、磁器碗片等が少量出土している。(第165図175)はSD31より出土した、白磁の碗口縁部である。横田・森田分類のⅡ1類にあたる。

#### SD32 (第147・165図, 図版70・74)

Ⅲ区の西端部A9区で検出した、東西方向に延びる溝である。約0.6m東にはSB41が隣接する。また、SB41の梁間方向とSD32の主軸が概ね同方向を向くことより、SD32はSB41の雨落ち溝と考えられる。断面は浅いU字状を呈し、検出長約5.5m、検出幅約0.5m、深さ約0.2m、主軸方位は4.5°Eを測る。埋土は2層に分かれる。出土遺物としては、土師器小皿・碗、瓦器碗、須恵器杯片等が少量出土している(第165図176～179)。(176)は土師器小皿、(177)は瓦器小皿である。(178・179)は和泉型の瓦器碗である。高台部は小さく断面三角状を呈する。体部の器高は低く口縁端部は丸く納めている。外面下半部にはオサエ痕が顕著で、内面にはヘラミガキが認められる。出土遺物よりSD32は、13世紀前半頃の時期が考えられる。

### 9. 不整形遺構

#### SX02 (第166図, 図版53・56)

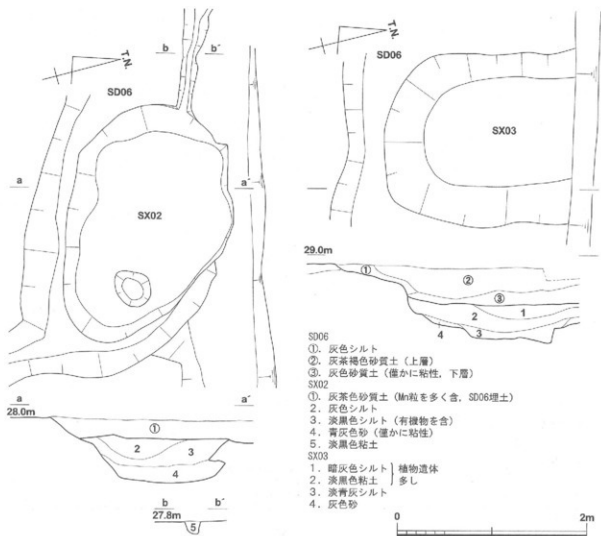
I区の東端A1区SD06の北辺溝と東辺溝の合流地点の、SD06の底で検出した落ち込みである。この遺構はSX03同様に、2条の溝の合流地点に所在する事より、SD06東辺溝に関連した遺構と考えられる。平面は不整形円形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径2.6m×短径1.7m、深さ約0.5mを測る。埋土は3層に分かれる。出土遺物としては、土師器片が少量出土している。

#### SX03 (第166・167図, 図版56・75)

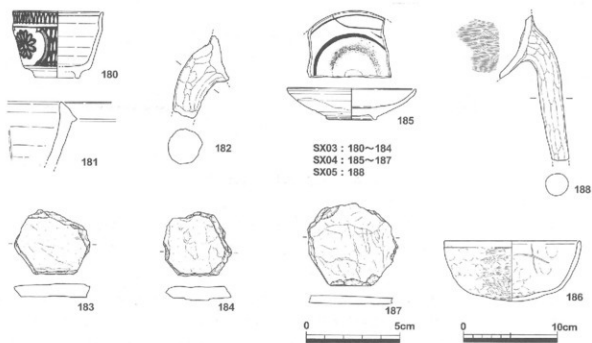
I区の中央A2区SD06の底で検出した落ち込みである。北半部は対象地内に所在する里道の下に延びるため南半部のみ検出した。この遺構の南方0.5mには、SD06に区画された屋敷地内を東西に小区画する南北溝SD09が所在する。SX03は、南北溝SD09がSD06に合流する地点に位置していて、それらの状況とSX03の規模等よりSX03は、SD09に関連した遺構と考えられる。平面は楕円形状を呈し、断面は浅いU字状を呈する。長径2.0m以上×短径1.8m、深さ約0.4mを測る。埋土は6層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜、須恵器片、磁器碗、備前鉢等が少量出土している(第167図180～184)。(180)は肥前系の染付け碗、時期は17世紀中葉頃で、所謂初期伊万里碗にあたる。(181)は備前焼の播鉢片(182)は土釜の脚部である。(183・184)は石製紡錘車の未製品である。出土遺物よりSX03は、17世紀中葉頃の時期が考えられる。

#### SX04 (第167・168図, 図版57・75)

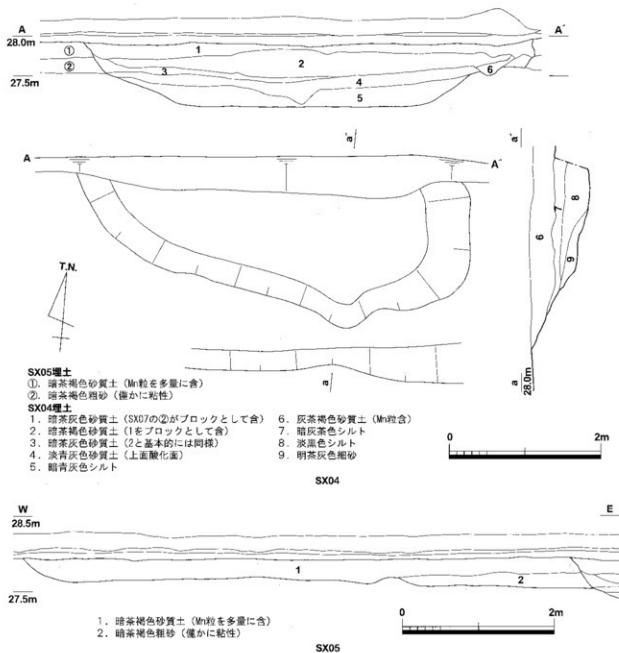
I区の中央A3区でSD06、SX05を切り込む形で検出した大型の落ち込みである。北半部は対象地外に延びるため南半部のみ検出した。平面は楕円形状を呈し、断面は鈍い逆台形状を呈する。長径5.0m×短径1.8m以上、深さ約0.8mを測る。埋土は9層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜・播鉢、須恵器甕、陶器皿・甕等が少量出土している(第167図185～187)。(185)は肥前系陶器の皿で、所謂給



第166図 不整形遺構平・断面図 (1)



第167図 SX03・04出土遺物



第168図 不整形遺構平・断面図(2)

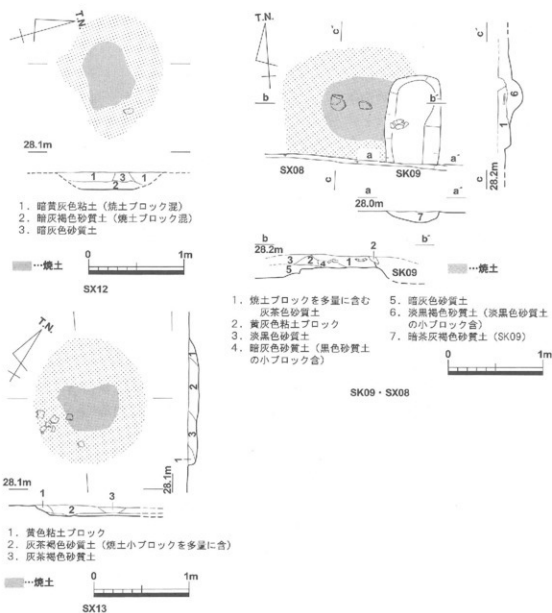
唐津の皿である。(186)は土師器椀で、内面に「×」の記号が施されている。状況より混入品と考えられる。(187)は石製紡錘車の未製品である。出土遺物よりSX04は、17世紀前半頃の時期が考えられる。

SX05 (第167・168図)

I区の西半部A4区でSD06、SX04に切られる形で検出した浅い落ち込みである。北半部は対象地外に延びるため南半部のみ検出した。SX07は北に向かい僅かに傾斜し、深さも増す。長径7.0m×短径5.5m以上、深さ約0.4mを測る。埋土は上下2層に分かれる。出土遺物としては、土師器土釜片が少量出土している。

SX08 (第169・170図, 図版63・75)

Ⅱ区の東半部A5区で検出した、焼土・炭化物等が広がる性格不明の遺構である。南半部は試掘トレンチにより切り込まれているため、約1/2を検出した。また、東端部はSK09により切り込まれている。平面は端部が不明瞭なため定かではないが、おそらく不整形円形を呈するものと考えられる。断面は不整形に凹凸がある。長径1.5m以上×短径1.2m以上、深さ約0.1mを測る。埋土は6層に分かれる。性格については不明な点が多いが、同種の遺構はⅡ区 SX09、Ⅲ区 SX12・13等 2～3例みられ、状況より鍛冶に係わる遺構の可能性が考えられる。出土遺物としては、土師器甕、須恵器杯・甕片が少量出土している(第170図189・190)。(189)は7世紀第1四半期頃の須恵器杯身である。(190)は土師器の甕である。底部は丸味を持った平底で、体部は丸味を持ち口縁部は外上方へ直線気味に延び、端部は



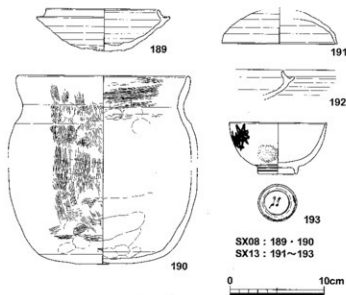
丸く収まる。内外面に細かなハケ調整が顕著に認められる。出土遺物よりSX08は7世紀初頭頃の時期が考えられる。

#### SX12 (第147・169図)

Ⅲ区の東半部A7区で検出した、焼土・炭化物等が広がる性格不明の遺構である。なお、この遺構はⅡ区SX08に類似する。平面は端部が不明瞭なため定かではないが、おそらく不整楕円形状を呈するものと考えられる。断面は不整形な皿状を呈する。長径 1.2m以上×短径1.0m以上、深さ約0.2mを測る。埋土は3層に分かれる。なお、1・2層間には焼土塊が面的広がっている。出土遺物としては、土師器甕、須恵器甕片が少量出土している。

#### SX13 (第169・170図, 図版75)

Ⅲ区の東半部A7区で検出した、焼土・炭化物等が広がる性格不明の遺構である。なお、この遺構はⅡ区SX08に類似する。平面は端部が不明瞭なため定かではないが、おそらく不整円形状を呈するものと考えられる。断面は浅い皿状を呈する。長径1.3m以上×短径1.2m以上、深さ約0.1mを測る。埋土は3層に分かれる。出土遺物としては、土師器壺・甕、須恵器杯・壺片が少量出土している(第170図191~193)。(191・192)は7世紀前半頃の須恵器杯の蓋と身である。(193)は18世紀前半頃の肥前系の染付け椀で、高台部に「大明年製」の記載が認められる。なお、この土器は混入品である。出土遺物よりSX13は7世紀前半頃の時期が考えられる。



第170図 SX08・13出土遺物

なお、この土器は混入品である。出土遺物よりSX13は7世紀前半頃の時期が考えられる。

#### SX14

Ⅲ区の西端部B9区で検出した、不整形な落ち込みである。平面は不整楕円形状を呈するものと考えられる。断面は不整形な皿状を呈する。長径1.7m以上×短径1.0m以上、深さ約0.2mを測る。埋土は単層である。出土遺物としては、土師器片が少量出土している。

### 10. 浅谷

微高地上には現地地形から分らない、小規模な浅い谷が3地点で確認された。これら3つの浅谷は、北ないし北西方向に向かって「ハ」の字状に開き、結果的に微高地を3区分している。西から東に向け浅谷1~3と呼称する。浅谷1~3では上・下2面の遺構面を確認した。上位の遺構面で鎌倉~江戸時代の遺構、下位の遺構面で古墳時代末頃の遺構を検出した。

#### 浅谷1 (第171・172図, 図版76・77・79~81)

I区西半部よりⅡ区東端部に広がる浅谷である。北に向かい「ハ」の字状に開き、また、北に向かい緩く傾斜している。微高地から広がる遺構面は、浅谷1の区域では上位と下位で遺構面が2面に分かれ





る。上位の遺構面は鎌倉～江戸時代の掘立柱建物跡と柱穴を主体にした遺構群が展開する。主要な遺構ではSB04・08、SE02、SD06・09・12等の遺構群である。下位の遺構面からは古墳時代末頃の掘立柱建物跡、柱穴等を確認した。主要な遺構ではSB01～03等の建物群である。堆積層は概ね5層に分かれるが、調査区を広範囲に覆う主体となる堆積層は、上位の遺構面を被服するⅡ⑤層と、上位の遺構面のベースとなるⅡ①層である。なお、Ⅱ⑤層は浅谷1の北半部に広がっており、第171図の図面上には記載できていない点を断っておく。堆積層中からの出土遺物はコンテナ4箱程出土し、そのうち3箱はⅡ⑤層の遺物が占める。出土遺物の中には、上位から掘り込む柱穴等の掘り残しの関係か、上位遺構面の時代性と整合が図れない遺物が含まれている。

(第172図194～215)はⅡ⑤層からは出土した遺物である。出土した遺物は12～13世紀頃の遺物が中心であるが、少量7世紀頃の遺物を含んでいる。(194～198)は土師器小皿、(199～207)は土師器杯である。(208)は西村産の瓦質椀、(209～211)は青磁椀で(209)は横田・森田分類のⅠ5b類(210・211)は横田・森田分類のⅠ5a類にあたる。(212)は土師器の火鉢の口縁部で、外面には印花文を施している。(213)は7世紀頃の須恵器高杯の脚部である。(214・215)は7世紀頃の土師器甕である。体部はやや長胴気味で、口縁部は外上方へ「ハ」の字状に開き端部は丸く納めている。

(第172図216～220)はⅡ①層から出土した遺物である。(216)は瓦質の焙烙で混入品であろう。(217)は須恵質の丸瓦片、(218)は砥石、(219)は凹基式のサヌカイト製の石鏃である。(220)は打製石斧の破損品に、二次加工を加えたサヌカイト製の調整有る剥片である。打製石斧の段階の使用痕と考えられる摩滅痕が、外面に顕著に認められる。(221)は凝灰岩製の石臼である。

#### 浅谷2(第171・173図、図版79)

Ⅱ区東端部より西半部に広がる浅谷である。北に向かい「ハ」の字状に開き、また、北に向かい緩く傾斜している。浅谷に広がる遺構面の状況は浅谷1と同様で、上位の遺構面は鎌倉時代以降の掘立柱建物と柱穴を主体にした遺構群が展開する。主要な遺構ではSB13・18・19・22・26等の建物群である。下位の遺構面は古墳時代末頃の掘立柱建物跡、柱穴等が検出された。主要な遺構ではSB14・15・17・23等の建物群である。堆積層は概ね4層に分かれる。中心になるのは上位遺構面のベースとなるⅡ①層である。堆積層中からの出土遺物はコンテナ2箱出土している。

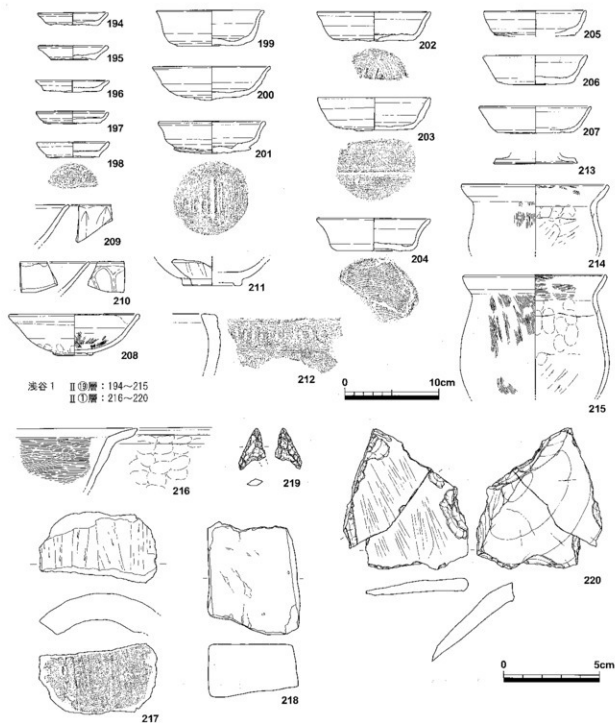
(第173図222～224)はⅡ①層から出土した遺物である。(222・223)は7世紀前半頃の須恵器杯、(224)はサヌカイト製で、打面調整痕・剥片剥離痕等が認められ、横長剥片石核の可能性がある。

#### 浅谷3(第171・173図、図版70・76・77・79)

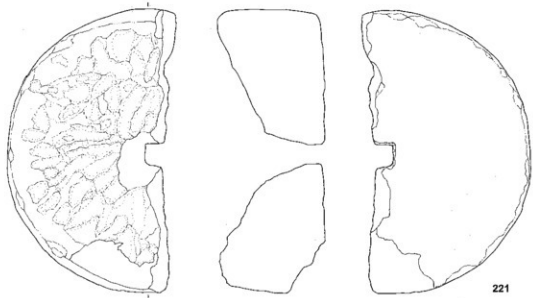
Ⅲ区東端部より北西方向の旧河道1の方向に向かい「ハ」の字状に開いて、緩く傾斜している浅谷である。浅谷に広がる遺構面の状況は浅谷1・2と同様で、上位の遺構面は鎌倉時代以降の掘立柱建物・柱穴・溝を主体にした遺構群が展開する。主要な遺構ではSB38・39・40・41、SD18・21・22等の遺構群である。下位の遺構面は古墳時代末頃の掘立柱建物跡、柱穴等が検出された。主要な遺構ではSH02・SB30～37等の建物群である。なお、下位の河床面上からは、谷の最深部を北西方向に延びるSD19・20等の2条の溝が検出された。この溝は微高地上の水を集積し、調査地西方の南北に延びる旧河道1に排水するための溝と考えられる。堆積層は概ね4層に分かれる。中心となる堆積層は上位の遺構面を被服するⅡ⑥層と、上位の遺構面のベースとなるⅡ⑦層である。堆積層中からはコンテナ4箱程の遺物が出土している。

(第173図225～234)はⅡ⑥層から出土した遺物である。(225)は7世紀頃の須恵器杯(226)は須

恵器の無頸壺の上半部(227)は須恵器甕の上半部、(228)は土師器小皿、(229)は瓦器小皿、(230)は土師器杯の底部(231)は和泉型の瓦器椀上半部である。(232)は土師器の土釜の上半部である。外面に格子タタキを顕著に残している。(233)は土師器甕の把手部である。(234)は突基式のサヌカイト製の石織である。

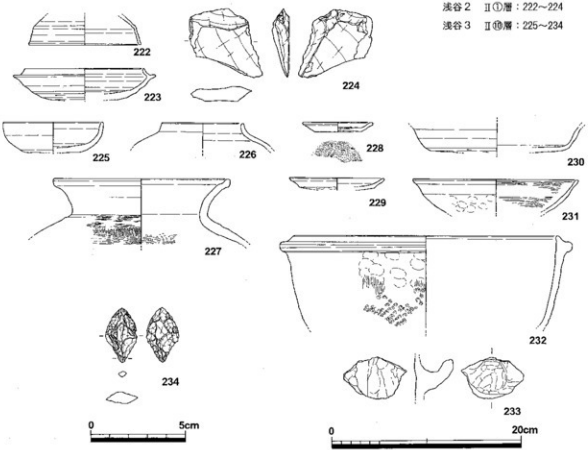


第172図 浅谷出土遺物(1)

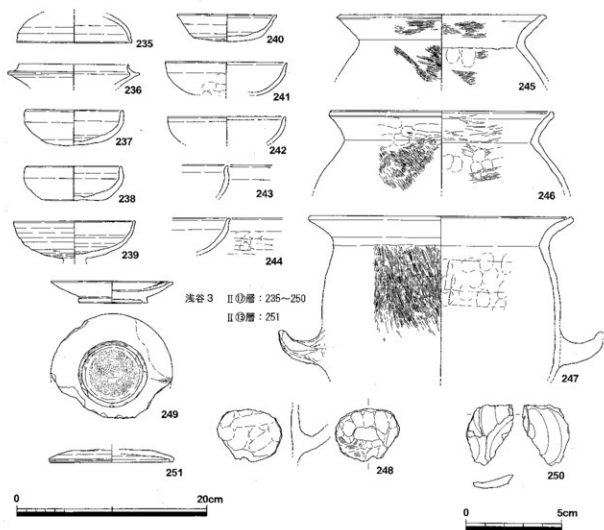


221

浅谷 1 II①層 : 221  
 浅谷 2 II①層 : 222~224  
 浅谷 3 II①層 : 225~234



第173図 浅谷出土遺物(2)



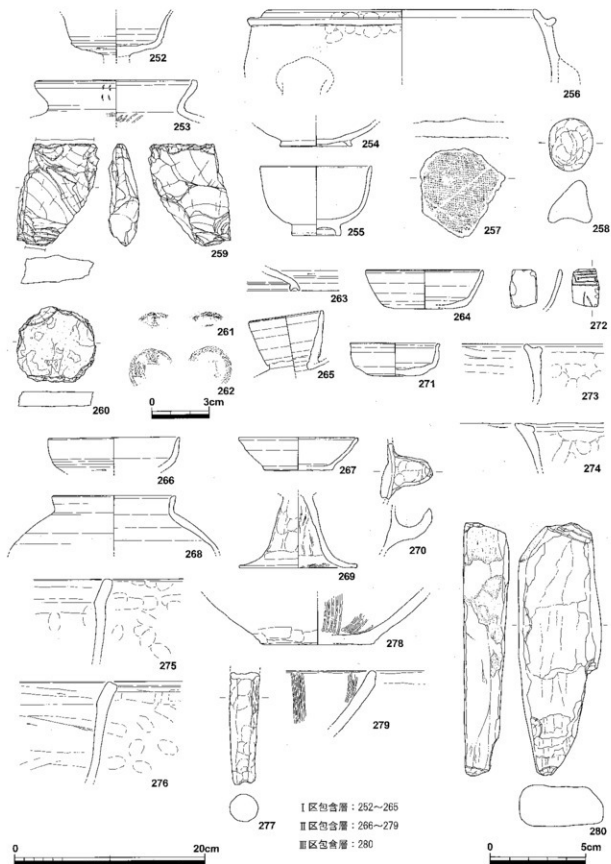
第174図 浅谷出土遺物（3）

（第174図235～250）はII ㊦層から出土した遺物である。（235～238）は7世紀前半頃の須恵器杯である。（239）は須恵器高杯の杯部、（241～244）は7世紀頃の土師器杯、（245～247）は土師器壺の上半部である。（247）の体部は長胴気味で下半部に把手がつく、口縁は外上方にラッパ状に開き端部は丸く収まる。外面は縦ハケ、内面は板ナアの痕跡を残す。（249）は10世紀頃の緑釉の皿である。高台は張付け高台で、底部は糸切りの痕跡が認められる。体部にはミガキが認められず、口縁部には亀裂があり、その亀裂を漆喰等で補修した痕跡が認められる。また、体部内面にはトチンの痕跡が認められる。（250）はサヌカイト製の剥片である。かなり風化が進んでいて、旧石器の可能性もある。（第174図251）はII ㊧層から出土した、7世紀末～8世紀初頭頃の須恵器杯蓋である。

#### 11. その他包含層出土遺物

（第175図252～280）の遺物はその他の包含層及び、発掘途中の段階で出土した、出土地点が不明瞭な遺物等の資料である。

（252～265）はI区から出土した遺物である。その内（252～254・256～262）は現在の耕作土及び床土より出土した遺物で、他はその他の包含層より出土した遺物である。時期的な点で大多数の遺物が、



第175图 包含層出土遺物

下位の遺構面上の遺構群と符号する事より、下位の遺構からの巻きあげられた遺物が、主体を占める資料と考えられる。(252)は6世紀後半頃の須恵器高杯の杯部(253)は須恵器甕の口縁部(254)は12世紀頃の土師器椀底部(255)は肥前系の呉器手碗(256)は15世紀頃の土釜口縁部(257)は土師質の平瓦片(259)弥生時代頃のサヌカイト製の楔形石器である。断面には上下二方向からの加撃による剥離痕が顕著に残っている。(261・262)は銭貨「寛永通宝」(264)は土師器杯、(263・265)は7世紀の須恵器杯蓋及び平瓶の口縁部である。(266~280)はⅡ区から出土した遺物である。その内(266~270)は現在の耕作土及び床土より出土した遺物で、他はその他の包含層より出土した遺物である。時期的な点ではⅠ区と同様に、下位の遺構面上の遺構群と符号する遺物が主体を占めている。(266・268)は7世紀頃の須恵器高杯及び短頸壺(267)は10世紀頃の土師器杯(269)は土師器高杯の脚部(270)は土師器甕の把手(271)は(266)同様7世紀の須恵器杯(272)は青磁碗、(273・274・277)は15世紀頃の土釜口縁部及び脚部、(275・276)は土師器土鍋、(278・279)は在地産の土師器播鉢である。(280)はⅢ区の包含層中から出土した柱状片刃石斧である。

(参考文献)

- 平安学園考古学クラブ 1966『陶邑古窯址群Ⅰ』真陽社  
奈良国立文化財研究所 1976『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ』  
奈良国立文化財研究所 1978『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』  
柳瀬 1977「川入・上東」『都市計画道路に伴う埋蔵文化財発掘調査』岡山県教育委員会  
横田堅次郎・森田 勉 1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』  
真壁忠彦 1991「備前焼」『考古学ライブラリー60』ニューサイエンス社  
片桐孝浩 1992「川津元結木遺跡」『中小河川大東川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』  
中世土器研究会 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

## 第四章 香川県、南天枝遺跡における樹種同定

株式会社 古環境研究所

### 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする本部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### 2. 試料

試料は、南天枝遺跡において出土した柱材4点である。

### 3. 方法

カミソリを用いて、試料の新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

### 4. 結果

結果は表19に示し、以下に同定の根拠となった特徴を記す。なお各断面の顕微鏡写真を示す。

ツガ *Tsuga sieboldii* Carr. マツ科

第176・177図

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、スギ型でややヒノキ型の傾向を示し、1分野に2～4個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在する。わずかではあるが、樹脂細胞が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、ツガに同定される。ツガは福島県以南の本州、四国、九州に分布する。常緑高木で通常高さ20～25m、径50～80cmである。材は腐朽、保存性中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

### 5. 所見

同定の結果、南天枝遺跡において出土した柱材はいずれもツガであった。ツガは、暖温帯から冷温帯にまたがる温帯の中間域のやや痩せた尾根上に生育する樹木である。柱材としてツガ材が選択的に用いられたと考えられる。



(参考文献)

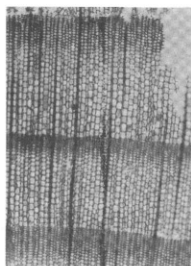
佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.

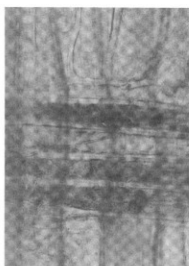
島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, 296p.

第19表 南天枝遺跡における樹種同定結果

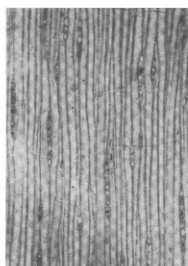
番号	調査区名	遺構名	器種	結果 (和名/学名)
W 1	I a区	SB06	柱材	ツガ Tsuga sieboldii Carr.
W 2	I a区	SB06	柱材	ツガ Tsuga sieboldii Carr.
W 3	I a区	SB07	柱材	ツガ Tsuga sieboldii Carr.
W 4	I a区	SB07	柱材	ツガ Tsuga sieboldii Carr.



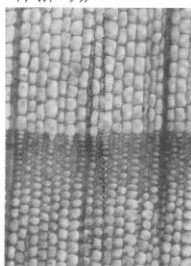
横断面 ————— : 0.5mm  
1. W1 ツガ



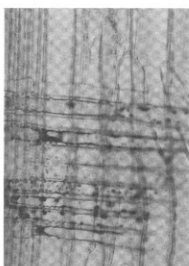
放射断面 ————— : 0.05mm



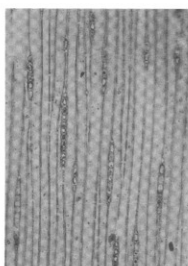
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.2mm  
2. W2 ツガ



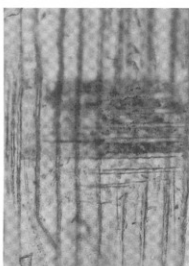
放射断面 ————— : 0.1mm



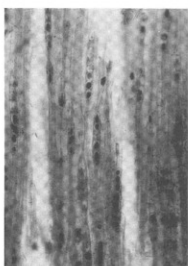
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm  
3. W3 ツガ

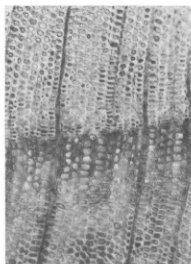


放射断面 ————— : 0.1mm

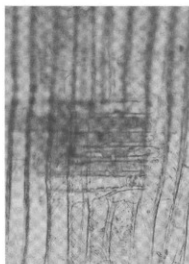


接線断面 ————— : 0.2mm

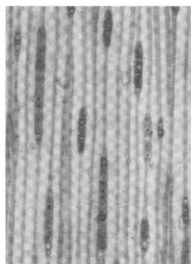
第176図 南天枝遺跡の木材 I



横断面 : 0.2mm  
4. W4 ツガ



放射断面 : 0.1mm



接線断面 : 0.2mm

第177図 南天枝遺跡の木材 II

## 第V章 集落の変遷

前章までの事実報告をもとに、大まかな時代単位に集落の変遷をまとめる。南天枝遺跡の遺構を時期区分すれば、大きく4期区分できる。Ⅰ期：古墳時代前期Ⅱ期：古墳時代後期末～奈良時代初頭Ⅲ期：鎌倉時代～室町時代前半Ⅳ期：室町時代後半～江戸時代前半までに区分できる。おもな報告遺構を各時期に分けたのが第20表である。なお、掘立柱建物は出土遺物が乏しく、時期区分をする上で困難を伴った。そのため、各期の鍵となる建物を最初に抽出し、その主軸方位・切り合い関係・建物配置等をもとに、他の類似する建物を類別し時期区分にあてた。

第20表 時期別遺構一覧

時期	住居跡	柱穴・欄列	井戸・土坑	溝・不整形遺構
Ⅰ期	SB30	SP035		SD19・20
Ⅱ期	SH01・02 SB02・11・12・14～17・20・21・ 23・24・28・29・31～38	SP002・010・026～029・036 ～038 SA01・03	SK04・09・ 18・19	SD03・05・11 SX08・09・12・13
Ⅲ期	SB01・03・06・09・10・18・41	SP003・004～009・011～014・ 016・017・019・020・022～0 25・030・031・039	SE01 SK01・03・ 10～13・15	SD32
Ⅳ期	SB04・05・07・08・13・18・25・ 19・22・26・39・40	SP001・015・021・032・033 SA02	SE02	SD01・06・09・10・12・ 14～18・21～23・26～27 SX02～04

### Ⅰ期

古墳時代前期（4世紀末頃）頃の遺構は、少数ながらⅠ・Ⅲ区で確認された。主要な遺構では、SB30、SP035、SD19・20等の遺構が該当する。この時期の遺物を含む遺構が抽出できなかったため確認できなかったが、先の遺構以外に、この時期に含まれる遺構の存在する可能性は高い。

SD19・20は出土遺物を伴わないため、詳細な時期は不明であるが、Ⅱ期に含まれるSB34・35等に切り込まれているためこの時期に含めた。この2条の溝は微高地上の水を集積し、調査地西方の南北に延びる旧河道1に排水するための排水路と考えられる。SB30は、浅谷2と浅谷3の間の微高地上に位置し、建物主軸はN80°Wを示し、他の建物群と主軸方位の上で明瞭に区分できる。時期的には「川入・大溝上層」頃の時期が考えられる建物であり、とりえずこの建物を1群とする。なお、弥生時代の遺物が少量出土している。そのため、周辺域に弥生期の集落が展開する可能性は高い。

### Ⅱ期

古墳時代後期末～奈良時代初頭（7～8世紀初頭）の遺構・遺物は豊富である。集落はⅡ～Ⅲ区の東半部を中心にして、ほぼ、調査区全域に展開している。主要な遺構ではSH01・02、SB02・11・12・14～17・20・21・23・24・28・29・31～38、SK04・09・18・19、SD03・05・11、SX08・09・12・13等の諸遺構があげられる。なお、この頃の浅谷1～3は埋没過程の初期の段階のため、集落範囲の中で平地の占める割合はかなり低く、集落を展開するには土地条件の悪い地域と考えられる。この時期、土地条件の悪い地域に集落が開始される事例は、県下でも増えている。南天枝遺跡のⅡ期集落もこの一例といえる。

集落の東端に所在するSD03・05は、周辺の条理型地割方向に規制を受けたように、南北方向に直線

的に延びる溝で、集落の東限を画した7世紀中葉頃の区画溝と考えられる。堅穴住居跡SH01・02は、出土遺物と当期の建物に切り込まれている点よりⅡ期の中でも初期の段階にあたる住居と考えられる。集落を構成する主要な遺構は掘立柱建物である。合計で20棟検出したが、柱穴出土の遺物が乏しくとりあえずこの時期に含めている建物も数棟ある。これらの建物を、配置及び主軸方位等で分類すれば、2群：SB17・23・35・38、3群：SB32・33・36・37、4群：SB24・28・29・31・34、5群：02・11・12・16、6群：20・21・15 計5群に分けられる。この分類が必ずしも時期差を表しているものとは言えないが、3～5期程度の時期差があるものと考えられる。

### Ⅲ期

奈良時代頃より長期間廃絶していた集落は、当該期に再開するが、Ⅱ期に比べ集落規模も小規模で、建物の分布状況より2単位程度の集団が移り住んだものと考えられる。鎌倉時代～室町時代前半頃(12～14世紀)の遺構は、①Ⅰ区の中央部 ②Ⅱ区の中央部 ③Ⅲ区の西端部の三地点に分かれて展開している。主要な遺構ではSB01・03・06・09・10・41、SE01、SK01・03・10～13・15、SD32等の諸遺構があげられる。なお、この頃の浅谷1・3は、埋没過程にあり大よそ13世紀の初頭頃には埋没し、その上面に13世紀以降の集落は展開してくるが、浅谷2の埋没状況は、浅谷上面に建物が展開しない点より、他の浅谷に比べ幾分遅れ気味のようなのである。

掘立柱建物はⅠ区の中央部とⅢ区の西端部の二地点に分かれ合計で6棟検出した。これらの建物をⅡ期同様に、配置及び主軸方位等で分類すれば、7群：SB01・03・09、8群：SB41、9群：SB06・10 計3群に分けられる。Ⅰ区中央の7群と9群は建物が重複し時期差が認められる。出土遺物等より7群が12世紀末～13世紀初頭頃で、9群が13世紀の後半以降の時期が考えられる。また、7群のSB03は13世紀頃のSE01に切られている点でも納得できる話である。なお、9群に隣接するSE01は9群の建物群に伴う井戸と考えられる。これらの建物の中で9群のSB06は庇を備え、面積37.2㎡を測る大型の建物で、13世紀集落の中心的な建物と考えられる。Ⅲ区西端の8群SB41は、周囲に同時期の遺構も少なく単独で所在する建物である。SB41の西に隣接するSD32はその配置状況よりSB41の雨落溝と考えられる。また、北に隣接するSD28～31は同時期の畝溝群であり、SB41の住人が耕作にあたった可能性は高い。SB41は雨落溝SD32出土の遺物より12世紀末～13世紀初頭頃の時期が考えられる。この時期の建物配置で注目できる点は、8・9群の建物群にみられるよう、周辺の条理型地割の方向に主軸を描いた建物が出現する点である。浅谷1・3がかなり埋没し集落範囲の中で平地の占める割合が高くなった結果と考えられる。

### Ⅳ期

室町時代後半～江戸時代後半頃(16～18世紀)の集落は遺構・遺物とも豊富である。浅谷がほぼ埋没し集落範囲の中で平地の占める割合が高くなり、当地の開発を本格的に開始した時期と考えられる。主要な遺構ではSB04・05・07・08・13・18・19・22・25・26・39・40、SP001・015・021・032・033、SA02、SE02、SD01・06・09・10・12・14～18・21～23・26～27、SX02～04等の諸遺構があげられる。これらの諸遺構を大まかに時期で分ければ以下に分類できる。

16世紀：SB18・25・39・40、SP032・033、SD01・12・13～18・21～23

17世紀：SB04・05・07・08・13・19・22・26、SP001・015・021、SA02、SD06・09・10・14～18・21～23・27、SX02～04

18世紀：SE02、SD26

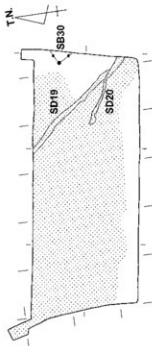
16世紀の集落はⅠ区～Ⅲ区東半部のほぼ全域に展開し、Ⅰ区とⅢ区で屋敷地を確認した。Ⅰ区では区画溝と考えられる、SD01・12等の南北溝を確認した。17世紀の屋敷地を巡る区画溝SD06等に類似しており、SD06が区画する前の屋敷地を巡る区画溝の一部である可能性が高く、SD01は屋敷地の東辺、SD12は西辺を画した区画溝と考えられる。区画溝の敷地内には当該期の建物は抽出できなかったが、多数の柱穴中には当期にあたる柱穴も多数存在するため、今後も検討する必要がある。なお、SD12は条里型地割の推定坪界線上に位置し、条里型地割をもとに施工されたものと考えられる。Ⅱ区では10群：SB18・25とSD13～17を検出した。10群の建物は、この時期にも係わらず、主軸方位を条里型地割の方向に向けていない。おそらく基盤となる浅谷2の埋没が完全でなく地形に影響を受けて不整方向に配したものであろう。Ⅲ区では11群：SB39・40とSD18・21～23・25を検出した。SD18・21・22は、条里型地割の方向に揃えた方形区画の西辺（SD21・22）及び南辺（SD18）を画した区画溝で、その敷地内に11群SB39・40が棟を揃えて配されており、これらの遺構は屋敷地を画する溝と建物の関係と考えられる。この屋敷地の北辺は調査地を外れるため定かでないが、東辺はⅡ区のSD17が区画しているものと考えられる。仮にこの屋敷地が正方形の敷地を呈するのであれば、1辺約27m四方で面積730㎡程の面積になる。

17世紀の集落は16世紀より継続する集落であり、Ⅳ期の中で最も遺構・遺物が豊富な時期である。Ⅰ区では、16世紀のSD01・12等の区画溝が画した敷地を、新たにSD04・06・07～10等の溝群を配し、区画しなおしている。幹線となるSD06は、屋敷地の外周を区画する堀割り状の溝で、周辺の地割方向に主軸を揃え、北辺、東・西辺、を画する各々の溝からなり、全体の形状は、南に空いた「コ」の字状の配置を呈している。方形に巡る区画溝のおおよそ北半分を検出した状態と考えられる。また、SD06の区画内に所在する、SD04・07～09等の南北溝は、敷地内を更に小区画するための溝と考えられる。中でもSD09は、敷地内を東西に2分割している。SD09により画された西区画と東区画は柱穴の密度がかなり異なり、西区画の密度がかなり高い点より、SD09は居住域の東辺を画する区画溝と考えられる。その区画された西区画の居住域より12群：SB04・07・15等の建物群を検出した。これらの建物は周辺の条里型地割の方向に建物を揃え配されている。12群中のSB04とSB15は、重複しているため厳密に言えば2時期に分かれが、柱穴同士が切り合わないため、その前後関係は明確でない。柱穴の数からみれば、より多数の建物が抽出できるはずであるが、多数の柱穴より整合性をもつ建物を抽出するのは困難であり、今後の検討になるところが多い。なお、東区画では建物・柱穴等遺構密度がかなり低い点より畑地等の耕作域と考えられる。この屋敷地の面積は、南辺が調査区外に位置するため明らかにすることはできないが、仮に敷地が正方形を呈するのであれば、1辺約48mで面積約2,300㎡を測る屋敷地が推定できる。この規模の屋敷地は下川津遺跡の第1微高地上に展開している16世紀頃の屋敷地の類例があり、おそらく有力農民層クラスの屋敷地と考えたい。Ⅱ区では、13群：SB13 14群：SB19・22・26等の建物群が展開している。厳密にみて14群のSB22・26は建物間がかなり接近しており時期差が考えられる。17世紀以降この集落は、遺構・遺物共に少なく、SE02、SD26等が確認できた程度である。そのため、この集落は急速に衰退し、現在の景観と同様に、農地化されたものと考えられる。

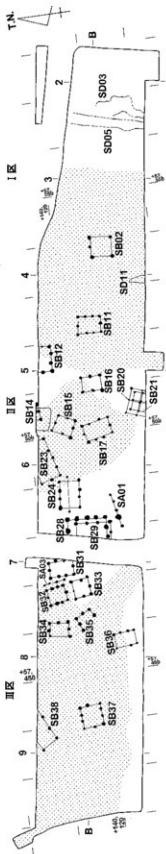
（参考文献）

香川県教育委員会 1990「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅵ—下川津遺跡—」

西村尋文 1990「下川津遺跡における6～8世紀の集落構造と動向」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ—下川津遺跡—』香川県教育委員会



**I 期 (4C 地域)**  
1 群 : SB30



**II 期 (7C-8C 地域)**

2 群 : SB17・23・35・38

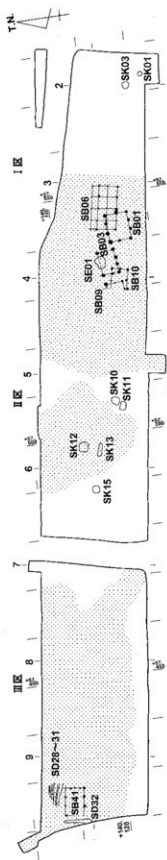
3 群 : SB32・33・36・37

4 群 : SB04・28・29・31・34

5 群 : SB02・11・12・16

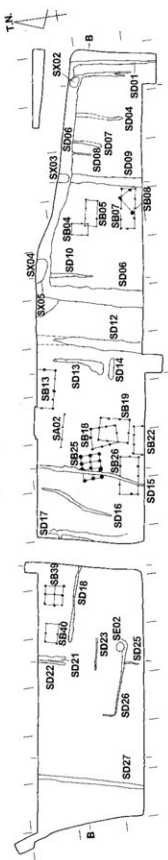
6 群 : SB20・21・15

第178図 集落変遷図(1)



**III期 (12C~14C頃)**

- 7群: SB01・03・06
- 8群: SB41
- 9群: SB06・10



**IV期 (16C~18C頃)**

- 10群: SB18・25
- 11群: SB39・40
- 12群: SB04・07・05
- 13群: SB13
- 14群: SB19・22・26
- 15群: SB08

第179図 集落変遷図(2)



## 南天枝遺跡 觀察表

第21表 南天枝遺跡掘立柱建物跡一覽表

報告遺構名	調査区	区画	主軸方位	構造・規模		面積 (m <sup>2</sup> )	柱間寸法		付属施設
				梁間 (m) × 桁行 (m)	梁間 (m) × 桁行 (m)		梁間 (m)	桁行 (m)	
SB01	I区	B3	N-87° - E	2間(4.6) × 3間(5.7)		26.2	1.9~2.5	1.7~2.2	
SB02	I区	A3・B3	N-5° - E	2間(4.1) × 1間(4.4)		17.9	2.0~2.2	4.4	
SB03	I区	B3	N-83° - E	2間(3.4) × 3間(4.9)		16.7	1.4~2.0	1.4~1.9	
SB04	I区	A3	N-9° - E	1間(2.5) × 2間(3.3)		8.1	1.2~1.3	1.2~2.1	
SB05	I区	A3・B3	N-80° - W	1間(2.6) × 3間(5.0)		12.8	2.4~2.5	1.4~2.0	
SB06	I区	A3・B3	N-80° - W	2間(4.0) × 4間(9.3)		37.2	1.8~2.2	1.8~2.6	北面庇、総柱
SB07	I区	B3	N-81° - W	2間(2.9) × 4間(8.3)		24.1	1.3~1.7	1.8~2.4	
SB08	I区	B3	N-34° - W	1間(4.0)以上 × 1間(2.6)以上		10.4以上	4.0	2.6	
SB09	I区	B3・4	N-81° - E	2間(3.4) × 1間(1.7)以上		5.8以上	1.4~2.0	1.7	
SB10	I区	B3・4	N-78° - W	2間(3.4) × 1間(2.5)以上		8.6以上	1.5~1.9	2.2~2.5	
SB11	I区	A4・B4	N-6° - E	2間(3.7) × 3間(4.7)		17.4	1.4~2.0	1.5~1.6	
SB12	II区	A4・5	N-90° - E	1間(2.0)以上 × 3間(5.4)		10.8以上	2.0	1.5~2.0	
SB13	II区	A4・5	N-78° - W	1間(2.3)以上 × 4間(8.0)		18.4以上	2.3	1.7~2.5	
SB14	II区	A5	N-88° - E	? × 2間(3.3)以上		—	—	1.6~1.8	
SB15	II区	A5	N-27° - E	2間(3.6) × 2間(4.1)		14.8	1.5~2.1	1.7~2.2	
SB16	II区	A5・B5	N-1° - W	1間(3.3) × 2間(4.0)		13.2	3.3	1.9~2.1	
SB17	II区	A5・B5	N-15° - W	2間(3.8) × 3間(5.7)		21.7	1.6~2.0	1.5~2.3	
SB18	II区	A5・B5	N-0° - E	2間(4.4) × 3間(5.1)		22.4	1.7~2.7	1.6~2.1	
SB19	II区	A5・B5	N-13° - E	2間(4.8) × 3間(6.1)		29.3	2.0~2.8	1.8~2.3	
SB20	II区	B5	N-20.5° - E	1間(2.5)以上 × 2間(5.3)		13.3以上	2.3~2.5	2.5~2.8	総柱
SB21	II区	B5	N-20° - E	2間(3.8) × 1間(1.7)以上		6.5以上	1.7~2.0	1.7	総柱
SB22	II区	B5	N-81° - W	1間(1.9)以上 × 3間(5.7)		10.8以上	1.9	1.8~2.0	
SB23	II区	A5・6	N-71° - E	2間(4.2) × 4間(8.7)		36.5以上	2.0~2.2	1.9~2.8	
SB24	II区	A6	N-85° - W	1間(4.2) × 3間(5.6)		23.5	4.1~4.2	1.5~2.2	構持柱
SB25	II区	A5・6	N-88° - E	2間(3.8) × 3間(5.1)		19.4	1.8~2.0	1.3~2.4	総柱
		B5・6							

報告遺構名	調査区	区画	主軸方位	構造・規模		面積(m <sup>2</sup> )	柱間寸法		付属施設
				梁間(m)	桁行(m)		梁間(m)	桁行(m)	
SB26	Ⅱ区	B5・6	N-80°-W	2間(3.9)×4間(7.9)		30.8	1.5~2.5	1.9~2.1	
SB27	Ⅱ区	B6	N-73°-E	1間(2.5)以上×2間(5.3)		13.3以上	2.5	2.7	
SB28	Ⅱ区	A6・B6	N-4°-E	2間(4.0)以上×4間(8.0)		32.0以上	2.0~2.4	1.8~2.1	
SB29	Ⅱ区	A6・B6	N-4°-E	1間(2.3)以上×3間(7.3)		16.8以上	2.3	2.2~2.8	
SB30	Ⅱ区	A7	N-63°-E	1間(1.9)以上×1間(2.5)以上		4.8以上	1.9	2.5	
SB31	Ⅲ区	A7	N-3°-W	2間(3.1)×3間(5.1)		15.8	1.5~1.7	1.6~1.8	
SB32	Ⅲ区	A7	N-10°-W	2間(3.4)×3間(3.8)		12.9	1.5~1.7	1.2~1.5	
SB33	Ⅲ区	A7・B7	N-9°-W	2間(3.6)×2間(4.0)		14.4	1.5~2.2	1.8~2.1	
SB34	Ⅲ区	A7	N-5°-E	2間(3.0)×2間(4.3)		12.9	1.2~1.6	2.0~2.1	
SB35	Ⅲ区	A7・B7	N-26°-W	2間(3.0)×2間(3.4)		10.2	1.4~1.7	1.6~1.8	
SB36	Ⅲ区	B7	N-6°-W	1間(2.9)×3間(4.4)		12.8	2.9	1.3~1.6	
SB37	Ⅲ区	A8・B8	N-83°-E	2間(4.3)×3間(4.4)		18.9	1.6~2.7	1.1~1.8	
SB38	Ⅲ区	A8	N-70°-E	1間(3.1)×2間(6.2)以上		19.2以上	3.1	2.8~3.4	
SB39	Ⅲ区	A7	N-11°-E	2間(3.9)×2間(4.2)		16.4	1.6~2.0	1.8~2.1	総柱
SB40	Ⅲ区	A7	N-77°-W	1間(2.8)×2間(4.0)		11.2	2.4~2.8	1.9~2.0	
SB41	Ⅲ区	A9	N-83°-W	4間(3.9)×3間(5.9)		23.0	0.9~1.1	1.9~2.0	

第22表 南天杖遺跡出土土器調査表

遺物番号	整理区	区画	出土状況	器種	部位	数量	形状	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
1 SH01	II区	A5	須恵 杯	口縁部	小片	石莖中・小少、長石大・中少	内外：5YR6/1灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
2 SH01	II区	A5	須恵 高杯	胴部	小片	石莖、長石大・中少	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
3 SH01	II区	A5	土師 壺	口縁部	4/8	石莖大・小多、長石大・小小	内外：5YR6/6黄	(口)ヨコナズ、オサエナズ(体)オサエナズ後ハテ、ハテ	(口)ヨコナズ、オサエナズ(体)オサエナズ後ハテ、ハテ	回転ナズ	回転ナズ	
4 SH02	III区	A7	須恵 高杯	胴部	小片	長石中・小微	内外：N6/灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
5 SH02	III区	A7	須恵 高杯	胴部	1/8	石莖大・中微、長石大・中少	内外：N4/灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
6 SH02	III区	A7	土師 壺	口縁部	3/8	金襴母大・中微、石莖・長石大・小少、赤色胎土大・中微	内外：10YR8/4浅黄	(口)ヨコナズ(体)オサエナズ後ヘラケナス	(口)ヨコナズ(体)オサエナズ後ハテ	回転ナズ	回転ナズ	
7 SH02	III区	A7	土師 鉢	口縁部	1/8	石莖中・小微、長石中・小少	内外：10YR8/3黄	(口)ヨコナズ、板ナズ(体)板ナズ	(口)ヨコナズ、板ナズ(体)板ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
8 SD06	I区	B3	土師 小皿	口縁部	1/8	石莖中・小少、長石大・小小	内外：10YR7/3にぶい黄	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
9 SD06	I区	B3	土師 小皿	口縁部	1/8	石莖中・小少、長石中・中微	内外：10YR8/2灰白	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
10 SD06	I区	B3	土師 小皿	底面	6/8	石莖中・小少、長石大・中微、赤色胎土中少	内外：7.5YR7/3にぶい黄 胎：普通粘7.5YR7/灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
11 SD06	I区	B3	土師 杯	口縁部	小片	石莖中・小少、長石中・小小	内外：10YR7/3にぶい黄	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
12 SD06	I区	B3	土師 杯	口縁部	1/8	石莖、長石中・小少、赤色胎土大	内外：10YR7/3にぶい黄	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
13 SD06	I区	B3	土師 壺	口縁部	小片	精緻	胎：7.5YR7/灰白	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
14 SD06	I区	B3	須恵 壺	口縁部	小片	石莖中・小少、長石大・中少	内外：2.5Y6/1黄灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
17 SD07	I区	B3	肥前系陶器	口縁部	2/8	精緻	胎：10YR3/1黄灰 灰釉10Y5/2オリーブ灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
20 SH08	I区	B3	土師 小皿	口縁部	1/8	石莖中・小少、長石中・小微、赤色胎土中少	内外：7.5YR6/6黄	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
21 SH08	I区	B3	土師 小皿	高部	1/8	(口)6.4 (底)5.9 (底)5.9 (底)7.6	内外：2.5YR6/4にぶい黄 胎：普通粘7.5YR7/灰 胎：普通粘7.5YR7/灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
22 SH08	I区	B3	土師 杯	口縁部	2/8	石莖中・小微、長石中・小少	内外：2.5YR6/4にぶい黄 胎：普通粘7.5YR7/灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
23 SH08	I区	B3	土師 杯	底部	2/8	角四中微、長石中少、赤色胎土大・中微	内外：10YR7/4にぶい黄 胎：普通粘	(口)回転ナズ(底)別 転ナズ後七上ナズ	(口)回転ナズ(底)別 転ナズ後七上ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
24 SH08	I区	B3	須恵 杯蓋	口縁部	1/8	石莖大・小少、長石大・中微、赤色胎土大	内外：2.5Y7/灰白 胎：普通粘7.5YR7/灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
25 SH08	I区	B3	青磁 碗	口縁部	小片	精緻	胎：N8/灰 胎：2.5G Y6/4オリーブ灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	
26 SH08	I区	B3	青磁 碗	口縁部	小片	精緻	胎：N8/灰 胎：2.5G Y6/4オリーブ灰	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ	

器物番号	志	種別	区分	出土状況	器種	部位	法量	所産量	胎土	色票	内面調整	外面調整	備考
27	SB08	I区	B3	SP0190	須臾 壺	口縁部	(口)14.9	28	石英・長石大・中少	内：2.5Y7/3黄緑・2.5Y7/1灰白 外：2.5Y7/1灰白	(口)回転ナズ(体)ヘラクスリ後ナズ	(口)回転ナズ(体)格子	十瓶
28	SB08	I区	B3	SP0190	土師 土釜	胴部		58	金雲母中微・石英・長石大・中曹	胎：5Y7/1灰白・福：1 内外：5YR6/6橙	回転ナズ、脇輪	回転ナズ、脇輪	
29	SB18	II区	B5	SP0259	背腹 碗	口縁部		小片	精緻	胎：5Y7/1灰白・福：1 内外：5YR6/6橙	回転ナズ	オサエ後ナズ	把子総穿孔1箇所
30	SB18	II区	B5	SP0259	土師 把子	口縁部		小片	金雲母大・中微・石英・長石大～小曹	内外：5YR6/6橙	オサエ後ナズ	オサエ	把子外側自然釉
31	SB19	II区	B5	SP0219	須臾 高杯	胴部	(底)9.6	18	石英・長石中・小曹	内：2.5Y6/1黄灰 外：2.5Y7/1灰白	回転ナズ	回転ナズ	
32	SB20	II区	B5	SP0304	土師 杯	口縁部		小片	長石中・小曹	内外：2.5YR6/8橙	回転ナズ	回転ナズ	
33	SB24	II区	A6	SP1034	須臾 把子	口縁部		小片	長石中・小曹	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナズ	回転ナズ	
34	SB24	II区	A6	SP1013	須臾 把子	口縁部	(口)6.8	28	長石中・小曹	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナズ	回転ナズ	
35	SB25	II区	B6	SP0051	須臾 杯蓋			小片	長石中・小曹	内外：2.5Y6/1黄灰	回転ナズ	回転ナズ	
36	SB25	II区	A6	SP1008	須臾 壺		(口)22.3	18	石英大～小少、長石小	内外：2.5Y7/1灰白	回転ナズ	回転ナズ	
37	SB26	II区	B5	SP0448	陶器 鉢	口縁部		小片	精緻	胎：5Y7/0灰 福：7.5 YR4/2灰黒	回転ナズ後脇輪	回転ナズ後脇輪	灰目茶碗
38	SB26	II区	A6	SP0048	陶器 杯	口縁部		小片	石英中・小少	胎：10YR7/3にぶい黄 砂 胎：10YR3/3暗褐	回転ナズ後脇輪	回転ナズ後脇輪	
39	SB28	II区	A6	SP0045	須臾 杯	口縁部		小片	石英大～小少、長石中・小曹	内外：2.5YR6/2灰白	回転ナズ	(口)回転ナズ(底)脇輪 ヘラクスリ	
40	SB28	II区	A6	SP0045	須臾 把身			小片	石英・長石中・小少	内外：2.5Y6/1黄灰	回転ナズ	回転ナズ	
41	SB28	II区	A6	SP0059	須臾 把身		(口)11.3	18	長石大～小少	内外：N6/灰 外：N4/灰	回転ナズ	回転ナズ	
42	SB28	II区	A6	SP0059	土師 壺	把子部		68	石英・長石大・中少、赤色粘土大微	内：7.5YR5/6浅黄緑 外：5YR7/6黄	オサエ後ナズ	オサエ後ナズ	
43	SB29	II区	B6	SP0065	須臾 盥			18	石英大～小少、長石中・小曹	内外：2.5Y6/2黄灰 外：2.5Y4/2黄赤	回転ナズ	回転ナズ、ハケ	
44	SB30	III区	A7	SP1017 SP1018	土師 壺		(口)14.5	28	石英・長石大～小少	内：7.5YR6/6橙・7.5YR5/0にぶい黄 外：10YR3/4浅黄緑・7.5YR5/2灰黒	(口)回転ナズ(体)オサエ後ヘラクスリ	(口)回転ナズ(体)オサエ後ハケ(底)ナズ	
45	SB31	III区	A7	SP1015	須臾 杯	口縁部		小片	石英大～小曹、長石大～小少	内外：N5/灰	回転ナズ	回転ナズ	
47	SB32	III区	A7	SP0054	土師 杯	口縁部		小片	石英中・小曹、長石中・小曹	内外：2.5YR6/6橙	(口)回転ナズ(体)ミナズ	(口)回転ナズ(体)ナズ	
48	SB32	III区	A7	SP0057	陶文 鉢			小片	金雲母中・小曹 石英大～小曹	内：N2暗赤 外：10YR7/3にぶい黄	黄灰文	黄灰文	
49	SB33	III区	A7	SP0127	須臾 壺	口縁部		小片	石英中・小曹、長石大～小曹	内：5Y6/1灰 外：5Y6/1灰・N4/灰	回転ナズ	回転ナズ	
51	SP002	I区	A2	須臾 杯身	底部	(高)11.8 (底)7.0	1/8	石英中・小少、長石大～小少	内外：N5/灰	回転ナズ	回転ナズ	(底)回転ナズ 高曹貼付	
52	SP003	I区	B2	瓦器 碗			小片	石英・長石小曹	内外：N6/灰	ヘラミガキ		回転ナズ	回転ナズ
53	SP004	I区	A3	土師 杯	底部	(底)8.5	2/8	石英中・小少、長石中・小曹	内：10YR6/3にぶい黄 外：10YR5/2灰黒橙	回転ナズ	回転ナズ	回転ナズ、回転ヘラ切	
54	SP005	I区	A3	土師 土釜	胴部		6/8	石英・長石大～小少	10YR7/2にぶい黄緑・5YR7/4にぶい黄	回転ナズ	回転ナズ	オサエ後ナズ	

遺物番号	調査区画	出土状況	器種	部位	法量	検存量	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
55 SF006	I区 B3		土師 小皿	口縁部	(口)7.3 (底)1.0 (高)3.2 0.6	6/8	石英、長石中、少少、 赤色粒少大、中少	内外：5YR7/6黄	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ切り	
56 SF007	I区 B3		瓦器 椀		(口)10.6 (底)8.4 (高)8.4	2/8	石英中、少少、長石中、 小微	内外：N5/灰	ヘラミガキ	(底)回転ナデ(底)回転ナ デ(高)回転ナデ(底)ヘラ 切り	
57 SF008	I区 B3		土師 杯		(口)12.5 (底)8.4	4/8	石英中、少少、長石中、 小微	内外：N6/灰	(口)(頸)回転ナデ(体) タタキ後回転ナ デ切り	(口)回転ナデ(底)ヘラ 切り	取耳蓋?
58 SF008	I区 B3		須恵 壺	胴部	(口)8.0 (底)7.1 (高)7.1	2/8	石英小粒、長石中、小 外、赤色粒少大、中微	内外：2.5YR7/灰白 5YR7/6黄	回転ナデ	削製	
59 SF009	I区 B3		土師 小皿		(口)12.5 (底)8.4	1/8	石英、長石大、中微、 小微	内外：2.5YR7/灰白 5YR7/6黄	須恵 回転ナデ	削製 回転ナデ(底)回転 ヘラ切り	
60 SF010	I区 B3		須恵 杯身	口縁部	(口)6.7 (底)1.6 (高)2.3	8/8	石英大、中微、長石大、 少	内外：5YR6/6黄 外：10YR8/2灰白・5Y R7/6黄	回転ナデ	削製	
61 SF011	I区 B3		土師 杯	底部	(口)9.2 (底)7.5 (高)7.5	1/8	石英中、少少、長石中、 小微	内外：7.5YR8/3浅黄黄	回転ナデ	削製	
62 SF012	I区 B3		土師 小皿		(口)13.0 (底)3.8 (高)5.0	2/8	石英、長石大、中、少 普、赤色粒少大、中少	内外：2.5YR6/灰白・2. 5YR7/6黄	回転ナデ	(口)オサエ後回転ナデ (底)削北ヘラ切り	
63 SF013	I区 B3		土師 小皿	底部	(口)10.9 (底)2.1 (高)7.6	2/8	石英大、中少、長石大、 中普	内外：10YR7/3にふい 黄	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ切り	
64 SF013	I区 B3		土師 杯	体部	(口)11.3 (底)2.6 (高)7.6	2/8	石英大、中少、長石大、 中普、赤色粒少大微	内外：10YR7/3にふい 黄 外：7.5YR6/4にふい 黄	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)回転 ヘラ切り	
65 SF013	I区 B3		土師 小皿	底部	(口)9.4 (底)7.6	1/8	石英小粒、長石大、中 少	内外：10YR7/2にふい 黄	回転ナデ	(口)回転ナデ(底)ヘラ 切り	
66 SF014	I区 B3		土師 壺	口縁部	(口)10.6 (底)3.5 (高)6.8	2/8	石英大、中普、長石大、 少	内外：5YR6/6黄 外：5YR5/5にふい 黄	回転ナデ	ヨコナデ	
67 SF016	I区 B3		土師 杯	底部	(口)13.5 (底)7.6	2/8	石英、長石大、中普	内外：5YR6/6黄	回転ナデ	ヨコナデ	
68 SF016	I区 B3		土師 杯	底部	(口)10.9 (底)3.5 (高)6.8	2/8	石英大、中少、長石大、 中普、赤色粒少大微	内外：10YR8/3浅黄 外：5YR5/5にふい 黄	回転ナデ	ヨコナデ	
69 SF017	I区 B3		土師 杯	口縁部	(口)10.6 (底)3.5 (高)6.8	2/8	石英大、中普、長石大、 少	内外：10YR8/3浅黄 外：5YR5/5にふい 黄	回転ナデ	ヨコナデ	
70 SF018	I区 B3		弥生 壺	胴部	(口)16.9 (底)6.5 (高)6.5	1/8	石英、長石大、中普	内外：5YR6/6黄	回転ナデ	ヨコナデ	
71 SF019	I区 B3		土師 壺	口縁部	(口)10.6 (底)3.5 (高)6.8	2/8	石英、長石大、中普	内外：10YR8/3浅黄 外：5YR5/5にふい 黄	回転ナデ	ヨコナデ	
72 SF022	I区 B3		土師 杯	口縁部	(口)10.6 (底)3.5 (高)6.8	2/8	石英大、中普、長石大、 少	内外：10YR8/3浅黄 外：5YR5/5にふい 黄	回転ナデ	ヨコナデ	
73 SF022	I区 B3		土師 杯	口縁部	(口)10.6 (底)3.5 (高)6.8	2/8	石英大、中普、長石大、 少	内外：10YR8/3浅黄 外：5YR5/5にふい 黄	回転ナデ	ヨコナデ	
74 SF023	I区 B3		土師 土釜	底部	(口)16.9 (底)6.5 (高)6.5	1/8	石英、長石大、中普	内外：5YR6/6黄	回転ナデ	ヨコナデ	
75 SF024	I区 B3		土師 小皿		(口)16.9 (底)6.5 (高)6.5	1/8	石英、長石大、中普	内外：5YR6/6黄	回転ナデ	ヨコナデ	

番号	種別	地区	区画	地況	形状	容量	土質	色調	内面調整	外面調整	備考
76	SP024	I区	B3	上野 小皿	底部	28	石英・長石中・小骨	内外：10YR7/2に多い黄褐色	回転ナズ	(T)回転ナズ(底)糸切	
77	SP024	I区	B3	上野 杯		28	石英中・小少、長石中・小骨	内外：7.5YR6/3の灰白・2.5YR7/6の淡黄褐色	回転ナズ	回転ナズ	
78	SP025	I区	B3	土師 杯		28	石英大・小少、長石中・小骨	内：10YR6/3に多い黄褐色 外：10YR6/3に多い黄褐色・5YR6/4に多い黄褐色	回転ナズ	(R)回転ナズ(底)回転ナズ(体)オサエ後ナズ ヘラ切り後ナズ	
79	SP026	I区	B3	須恵 杯蓋		小片	長石小骨	内外：N4/灰	回転ナズ	回転ナズ	内面天井控壁に用い か、外面自然釉
80	SP027	I区	B3	須恵 蓋		小片	石英・長石中・小骨	内外：N7/灰	回転ナズ	回転ナズ	口縁部外面自然釉付 着
81	SP028	I区	A4	須恵 杯蓋		18	石英中・小少、長石中・小骨	内外：N6/灰	当て具裏	回転ナズ	
82	SP029	I区	A4	須恵 蓋	底部	18	石英中・小少、長石小骨	内外：N7/灰汁	(R)回転ナズ(体)当 て具裏	(R)回転ナズ(体)タタキ 後蓋目	
83	SP030	I区	B4	土師 杯		38	石英中・小少、長石大・小少	内外：10YR7/4に多い黄褐色	回転ナズ	(R)回転ナズ(底)糸切 り、転球正底	
84	SP039	I区	B3	土師 小皿	口縁部	28	石英・長石中・小少	内外：10YR5/1黄褐色	回転ナズ	(R)回転ナズ(底)回転 ナズ(ヘラ切り)後ナズ	
86	SP032	II区	B5	土師 小皿	底部	68	石英・長石中・小骨、赤色粒子中・中骨	内：2.5YR6/6黄褐色 外：2.5YR6/6黄褐色・10YR8/4淡黄褐色	回転ナズ、転球工具 裏	回転ナズ、静止糸切り	
87	SP033	II区	B5	土師 上蓋	口縁部	小片	石英・長石大・小少	内外：10YR7/2に多い黄褐色 外：7.5YR6/4に多い黄褐色	(R)ヨコナズ、転球 ナズ(体)オサエ後取 ナズ	(R)ヨコナズ、オサエ 後ナズ(体)オサエ後ナズ	
88	SP033	II区	B5	土師 上蓋	底部	38	石英・長石大・小骨	内外：10YR7/2に多い黄褐色	(R)ヨコナズ(体)オ サエ後ナズ	オサエ後取ナズ	
91	SP035	III区	A7	土師 羹		18	石英大・小骨、長石中・小骨	内外：2.5YR6/8黄褐色	回転ナズ	(R)ヨコナズ オサエ後ナズ	
92	SP036	III区	B7	土師 杯		小片	金部母・石英・長石中・小骨	内：2.5YR6/8黄褐色 外：2.5Y2/黒	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
93	SP037	III区	B7	須恵 高杯	口縁部	18	石英・長石大・小少	内外：2.5YR7/灰白	回転ナズ	回転ナズ	
94	SP038	III区	B9	須恵 蓋	高台部	38	石英・長石大・小骨	内外：2.5Y7/灰白	回転ナズ	(底)回転ナズ、回転ヘ ラ切り後ナズ(底)回転 ナズ	
96	SE01	I区	B3	井筒内 土師 小皿	底部	88	石英中・小骨、長石中・小少	内：10YR6/1灰白・7.5YR7/6黄褐色 外：10YR8/1灰白・7.5YR7/6黄褐色・5YR7/6黄褐色	回転ナズ	(T)回転ナズ(底)回転 ナズ(ヘラ切り)後ナズ	内面に釘油漬
97	SE01	I区	B3	井筒内 土師 小皿	口縁部	18	石英中・小少、長石小骨	内：10YR7/3に多い黄褐色 外：10YR7/3に多い黄褐色・5YR7/6黄褐色	回転ナズ	(R)回転ナズ(底)ヘラ 切り	
98	SE01	I区	B3	井筒内 土師 小皿		28	石英大・小骨、長石大・小少	内外：10YR8/6黄褐色 外：5YR7/6黄褐色	回転ナズ	(R)回転ナズ(底)回転 ナズ(底)正底	転球正底
99	SE01	I区	B3	井筒内 土師 小皿	底部	88	石英・長石大・小骨、赤色粒子中・中骨	内外：7.5YR6/4に多い黄褐色	(R)回転ナズ(体)回転 ナズ(底)正底	(R)回転ナズ(底)回転 ナズ(底)正底	

遺物 番号	調査区	区画	出土状況	器種	部位	法量	材質	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考	
100 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 杯	底部	(口)10.5 (底)3.2 (高)7.0	6/8	石灰中・小赤、 赤色粒子大・中 少、赤色粒子大・中 少	内外：10YR8/2灰白 内外：10YR7/6黄	(口)回転ナズ(底)回転 ナズ後仕上げナズ	(口)回転ナズ(底)回転 ナズ後仕上げナズ		
101 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 杯	口縁部	(口)10.6 (底)2.9 (高)6.2	1/8	石灰中・小赤、長石中・ 小赤、赤色粒子大・中 少	内外：10YR8/2灰白・7 内外：10YR7/6黄	回転ナズ	回転ナズ(底)回転 ナズ後仕上げナズ		
102 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 杯	口縁部	(口)10.0	1/8	石灰中・小赤、長石中・ 小赤、赤色粒子大・中 少	内外：10YR8/2灰白 内外：5YR6/6橙	回転ナズ	回転ナズ		
103 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 杯	口縁部	(口)11.2	1/8	余量母大、山少、石灰 中・小赤、長石大・中 少、赤色粒子大・中 少	内外：10YR8/2灰白・10 XR7/3にぶい黄赤 XR8/1にぶい黄	回転ナズ	回転ナズ		
104 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 碗	口縁部	(口)13.2	1/8	石灰中・小赤、長石中・ 小赤	内外：10YR8/2灰白・10 XR7/3にぶい黄赤 XR8/1にぶい黄	ヨコナズ	ヨコナズ	平島系?	
105 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 碗	口縁部	(口)13.2	1/8	石灰中・小赤、長石大・ 中赤	内外：10YR7/4にぶい 黄	回転ナズ	回転ナズ		
106 SE01	I 区	B3	井筒内	黒色A 碗		(高)7.2 (底)0.9	2/8	石灰・長石中・小赤、 赤色粒子中・小赤	内外：N5/0暗灰 XR7/3にぶい黄赤 R7/3にぶい黄	回転ナズ	(底)へら切り後ナズ (高)ヨコナズ、高台貼 付		
107 SE01	I 区	B3	井筒内	土師 土鍋			小片	石灰・長石大・小少	内外：10YR6/1暗灰 XR7/3にぶい黄赤 R7/3にぶい黄	(口)ヨコナズ、高台貼 (体)刺繍、ナズ	(口)ヨコナズ(体)オナ ズ		
108 SE01	I 区	B3	井筒内	須恵 壺		(口)12.8	1/8	石灰大・小赤、長石大・ 小少	内外：N5/0灰	回転ナズ	回転ナズ		
109 SE01	I 区	B3	裏込め	土師 小皿		(口)6.5 (底)1.4 (高)5.5	2/8	石灰大・小赤、長石中・ 小少	内外：7.5YR7/6橙	回転ナズ	(口)回転ナズ(底)回転 ナズ後仕上げナズ		
110 SE01	I 区	B3	裏込め	土師 小皿		(口)7.9 (底)6.8	1/8	余量母大赤、石灰中・ 小赤、赤色粒子大・中 少	内外：10YR8/2灰黄褐 XR7/3にぶい黄赤 R7/3にぶい黄	回転ナズ	(口)回転ナズ(底)へら 切り		
111 SE01	I 区	B3	裏込め	土師 杯		(口)7.9 (底)6.8	3/8	石灰・長石・赤色粒子 大・中少	内外：5YR6/6橙・10Y R7/3にぶい黄赤	回転ナズ	(口)回転ナズ(底)へら 切り後ナズ		
112 SE01	I 区	-	裏込め	須恵 酒杯	口縁部		小片	石灰中・小赤、長石大・ 中少	内外：5YR6/1 XR8/1にぶい黄	回転ナズ	回転ナズ	東屋系?	
115 SE02	III 区	B7	下層	肥前系陶器		(高)15.5 (底)0.9	3/8	精微	胎：2.5YR8/3灰黄 釉：5YR7/1の黄・灰	回転ナズ後施釉 復行露胎	回転ナズ後施釉後刷毛 目	共役手陶	
116 SE02	III 区	B7	下層	肥前系 鉢		(口)20.7	1/8	精微	胎：10R6/5赤黄 釉：5YR8/2灰黄・7.5 XR8/2灰白	回転ナズ後施釉後刷毛 目	回転ナズ後施釉後刷毛 目		
117 SE02	III 区	B7	中層	瓦葺 羽釜		(口)19.1	4/8	黄石中・小赤、石灰・ 長石大・小少	内外：N2/黒	(口)ヨコナズ、ハケ 後仕上げナズ(体)ハケ 目	(口)ヨコナズ、ハケ (把手)オナズ(体)オナ ズ後仕上げナズ	回転ナズ、オナズ後ナ ズ	外国産付着
118 SE02	III 区	B7	中層	瓦葺 始塔	口縁部		小片	余量母大赤、角形石灰 中少、石灰、長石大・ 小少	内外：7.5YR6/3にぶい 黄	回転ナズ	回転ナズ	外国産付着	
119 SE02	III 区	B7	中層	瓦葺 始塔	口縁部		小片	石灰・長石大・小少	内外：10YR4/2灰黄褐	(口)回転ナズ(体)へ ら切り後仕上げナズ	(口)回転ナズ(体)オナ ズ	外国産付着	



調査番号	調査区	出土状況	器種	部位	法量	検出量	胎土	色票	内面調整	外面調整	備考
120 SK01	I区 B1	出土状況	備前 大壺	口縁部	(口)39.0 (底)31.7	28	石灰大・中少、長石大・中量	内：2.5YR7/赤黒 2.5YR6/6 外：2.5YR6/3に多い赤黒・2.5YR5/1赤黒・2.5YR5/2に多い赤黒 5YR5/2に多い赤黒	(口)黄転ナズ(体)黄転ナズ (底)ナズ	(口)黄転ナズ(体)黄転ナズ (底)ナズ	口縁・肩部外面自然
121 SK10	II区 B5	土師 小皿	土師 碗		(口)16.6 (底)16.2	38	長石・赤色粒子中・小量	内：10YR8/3黄黒	黄転ナズ	黄転ナズ、黄転ヘラ切 り底ナズ	
122 SK10	II区 B5	土師 碗	土師 碗		(口)17.0	18	石英・長石小量	内：2.5YR6/8 外：10YR7/4に多い黄	(口)ヨコナズ(体)ヘ ラミガキ	(口)ヨコナズ(体)オサ エ後ナズ	
123 SK10	II区 B5	瓦器 碗	瓦器 碗		(口)10.3	18	石英・長石小少	内外：N3/黒	(口)ヨコナズ(体)ヘ ラミガキ	(口)ヨコナズ(体)オサ エ後ナズ	和泉型
124 SK10	II区 B5	瓦器 碗	瓦器 碗		(口)12.9 (底)11.4 5.6(口縁) 5.6(口縁)	38	長石中・小量	内：10YR7/3に多い赤 黒	(口)ヨコナズ(体)ヘ ラミガキ	(口)ヨコナズ(体)オサ エ後ナズ	和泉型
125 SD05	I区 A1	青磁 皿	青磁 皿		(口)12.6 (底)12.7 5.6(口縁) 5.6(口縁)	58	長石大量	胎：5YR4/灰白 釉：黄黒10YR6/2オリー フ黄	黄転ナズ後焼物、黄 転ナズ後焼物、黄 転ナズ後焼物	黄転ナズ後焼物	横田・新田 I・1.68皿
126 SD06	I区 A2	肥前系陶器 皿	肥前系陶器 皿		(口)14.4 (底)12.8 5.6(口縁) 5.6(口縁)	48	長石大・中少、長石中・小少、赤色粒子大・中少	胎：10YR7/3に多い赤 黒 釉：5Y6/灰	黄転ナズ後焼物、砂 目	黄転ナズ後焼物、砂 目	砂目皿
127 SD06	I区 A2	肥前系陶器 皿	肥前系陶器 皿		(口)10.7 (底)13.5 (底)8.5	48	石英中・小量、長石大・中少、赤色粒子大・中少	胎：10YR7/4に多い 黄黒 釉：灰黒7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	漆黒皿
128 SD06	I区 A2	肥前系陶器 皿	肥前系陶器 皿		(口)12.5	18	石英・長石中・小量	内：7.5YR5/2灰黒 外：N5/灰	黄転ナズ	黄転ナズ	漆黒皿
129 SD06	I区 A2	土師 杯	土師 杯	口縁部	(口)11.6	18	石英中・小量、長石大	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
130 SD06	I区 A2	土師 杯	土師 杯	底部	(口)14.6 (底)7.5	18	石英中・小量、長石中・小少	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
131 SD06	I区 A2	土師 杯	土師 杯	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	18	石英中・小量、長石中・小少	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
132 SD06	I区 B4	須恵 杯身	須恵 杯身	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	18	石英中・小量、長石中・小少	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
133 SD06	I区 B4	須恵 杯蓋	須恵 杯蓋	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	18	石英中・小量、長石中・小少	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
134 SD06	I区 A3	須恵 杯蓋	須恵 杯蓋	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	18	石英中・小量、長石中・小少	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
135 SD06	I区 B4	須恵 杯	須恵 杯	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	18	石英中・小量、長石中・小少	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
136 SD06	I区 A3	須恵 杯	須恵 杯	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	18	石英中・小量、長石中・小少	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
137 SD06	I区 B4	土師 杯	土師 杯	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	18	石英中・小量、長石中・小少	内：N5/灰 外：7.5YR1/灰白	黄転ナズ	黄転ナズ	
138 SD06	I区 A3	肥前系陶器 杯蓋	肥前系陶器 杯蓋	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	28	長石中・小量、長石中・小少	胎：N5/灰白 釉：赤黒	ヨコナズ後焼物	ヨコナズ後焼物、黄文、 黄化文	
139 SD06	I区 A3	肥前系陶器 杯蓋	肥前系陶器 杯蓋	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	28	長石中・小量、長石中・小少	胎：N5/灰白 釉：赤黒	ヨコナズ後焼物	ヨコナズ後焼物、黄文、 黄化文	
139 SD06	I区 A3	肥前系陶器 杯蓋	肥前系陶器 杯蓋	口縁部	(口)14.4 (底)7.5	28	長石中・小量、長石中・小少	胎：N5/灰白 釉：赤黒	ヨコナズ後焼物	ヨコナズ後焼物、黄文、 黄化文	

番号	調査区	出土状況	遺物	部位	法量	数量	胎土	色	内面調整	外面調整	備考
140	SD06 I区 A2	無山燒？ 龜山燒？ 花子燒	口縁部	小片		石染中・小破、長石大 ～小少	内外：5YR7/1オリーブ 黒	ヨコナテ、ミガキ	ヨコナテ、オサエ後ナ テ	把手部穿孔1ヶ所	
141	SD06 I区 A2	土師 片口 襷鉢	底部	4/8	(口)18.8 (底)11.7 (底)10.2	石染中・中少、長石大 ～小普、赤色粒子混	内外：2.5YR8/3或黄緑 外：2.5YR8/3	(口)ヨコナテ(体)オサ エ後ハケ(底)ナテ	(口)ヨコナテ(体)オサ エ後ハケ(底)ナテ		
142	SD06 I区 A2	土師 細鉢	口縁部	小片	(口)22.4	石染・長石大・中普、 赤色粒子混	内：10YR6/2の灰白 外：2.5YR7/1に黄緑	ヨコナテ、取ナテ、 取ナテ	ヨコナテ、刺蓮 (口)ヨコナテ(体) オサエ後ハケ		
143	SD06 I区 A2	土師 土蓋	口縁部	小片		石染・長石大～小少	内外：10YR6/2に黄緑 外：10YR6/2に黄緑	ヨコナテ、取ナ テ(体)取ナテ、ナテ	ヨコナテ、オサエ後ナ テ		
144	SD06 I区 A2	土師 土蓋	口縁部	小片	(口)24.3	石染大・中普、長石大、 中少	内外：10YR8/3或黄緑 内外：7.5YR7/1に黄 緑	ヨコナテ、ナテ	オサエ後取ナテ、ナテ		
145	SD06 I区 A2	土師 羽蓋	脚部	6/8		石染・長石大～小普	内外：7.5YR7/1に黄 緑	ヨコナテ	オサエ後取ナテ		
146	SD06 I区 B4	土師 羽蓋	脚部	5/8		石染・長石大～小少	内外：10YR7/1に黄緑 底	オサエ後取ナテ	オサエ後取ナテ		
147	SD06 I区 A2	土師 土蓋	脚部	5/8		金葉付中破、石染・長 石大～小普	内外：5YR7/4に黄緑 外：2.5Y4/1黄緑、10Y R/3に黄緑	オサエ後取ナテ	オサエ後取ナテ		
148	SD06 I区 B4	土師 土蓋	脚部	3/8		石染・長石大・中普	内外：5YR7/4に黄緑 底	ヨコナテ	オサエ後取ナテ、ナテ		
149	SD06 I区 B4	土師 土蓋	脚部	小片		石染・長石大・中少	内外：5YR7/1灰白 底	ヨコナテ	ヨコナテ		
151	SD01 I区 A1	土師 土蓋	口縁部	小片		石染中・小破、長石中・ 小破	内外：N4/灰	ヨコナテ	ヨコナテ	胃部外面自然釉	
152	SD05 I区 B2	須恵 杯	杯身	小片	(口)10.5 (高)3.9 (底)18.3	石染中～小少、長石大 ～小普	内外：N4/灰	ヨコナテ	ヨコナテ		
153	SD05 I区 A2	須恵 杯	杯	小片		石染中～小少、長石大 ～小普	内外：N4/灰	ヨコナテ	ヨコナテ		
154	SD05 I区 B2	須恵 短頸 壺	頸部	1/8		石染中・小破、長石中・ 小破	内外：N7/灰	ヨコナテ	ヨコナテ	体部外面自然釉付着	
155	SD05 I区 B2	須恵 壺	頸部	2/8	(口)17.3	石染中・小破、長石中・ 小破	内外：N7/灰	ヨコナテ	ヨコナテ		
156	SD05 I区 A2	須恵 壺	頸部	1/8	(口)13.3	石染・長石中・小少	内外：N6/灰	(口)ヨコナテ、当て 目	(口)ヨコナテ、当て 目		
157	SD05 I区 A2	須恵 鉢	口縁部	1/8	(口)24.2	石染中・小破、長石大 ～小破	内外：N7/灰	ヨコナテ	ヨコナテ		
158	SD09 I区 B3	肥前系陶器 土師	口縁部	1/8	(口)11.6	長石中・小破	胎：5Y6/1灰 釉：灰 胎：7.5Y6/2灰 オリー ー	ヨコナテ、柄杓	ヨコナテ、柄杓	溝縁目	
159	SD09 I区 B3	肥前系陶器 土師	底部	2/8	(胎)15.5 (底)10.0 (底)9.3	精緻	胎：5Y7/灰白 胎：5Y7/灰白 胎：黄緑 5Y6/4 オリー ー	ヨコナテ、柄杓、砂 目	ヨコナテ、柄杓、砂 目		
160	SD09 I区 B3	土師 土鍋	口縁部	小片		金葉付大・中少、石染・ 長石大～小普	内外：7.5YR7/1に黄 緑	(口)ヨコナテ、取ナ テ(体)取ナテ、ナテ	ヨコナテ、取ナ テ(体)取ナテ、ナテ		
161	SD12 I区 B4	磁器 碗	体部	小片		精緻	胎：5Y7/1灰白 胎：黄緑、7.5Y6/3 胎：オリー	ヨコナテ、取ナ テ(体)取ナテ、ナテ	ヨコナテ、取ナ テ(体)取ナテ、ナテ		
162	SD12 I区 B4	青磁 碗	底部	2/8	(高)3.4 (底)10.5 (底)1.3	精緻	胎：2.5Y7/1灰白 胎：7.5Y7/1灰	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ、柄杓、砂 目	

遺物番号	墓誌	墓形	区画	墓土状況	路線	部位	法量	埋没量	胎土	包裏	内面調整	外面調整	備考
163 SD12	I区	B4			備前 堀鉢	口縁部		小片	石英中・小礫、長石大～小少	内：5YR6/4にぶい層、 2.5YR6/5の灰白層、 2.5YR6/5の灰白層	回転ナズ	回転ナズ	
165 SD15	II区	A6			肥前系海跡		小片	小片	石英、長石大～小少	内外：5Y7/1灰白 胎：5Y7/1灰白 灰層5Y6/2灰ナリ	回転ナズ、胎土	回転ナズ	清浄層
166 SD15	II区	A6			須磨 杯	口縁部	(口)10.8	1/8	石英、長石大～小少	内外：5Y7/1灰白 胎：2.5Y8/1灰白 胎：5Y8/1灰白	回転ナズ	回転ナズ	
167 SD15	II区	A6			白磁 皿	口縁部		小片	石英、長石大～小少	内：10YR5/3浅黄褐色 外：10YR7/3にぶい黄	回転ナズ後縁部 回転ナズ後縁部	回転ナズ(体)オナ 工後ナズ	
168 SD15	II区	A6			土師 土鍋	口縁部		小片	石英大～小礫、長石大～小少	内：5Y3/0ナリ	オサエ	オサエ、ナズ	
169 SD15	II区	A6			土師 甕	把手部		S/8	石英大～小礫、長石大～小少	内：10R5/6赤褐色 外：5YR4/4淡黄	回転ナズ	回転ナズ	帯蓋
170 SD17	II区	A6			備前 油鉢			小片	石英、長石大～中礫	内：10R5/6赤褐色 外：10R4/1暗赤灰	回転ナズ	回転ナズ	
171 SD18	III区	A7			土師 杯		(口)12.8 (高)3.5 (底)9.8	2/8	石英、長石大～小礫、赤色磁子大、中礫	内外：5YR6/4褐色	ヨコナズ、ヘラミガキ、マメツ	ヨコナズ、ヘラミガキ、マメツ、回転ナズ	
172 SD22	III区	A8			土師 甕			小片	石英、長石大～小礫、赤色磁子大、中礫	内：5YR7/4にぶい層 外：5YR6/4にぶい層	(口)ヨコナズ、ヘラミガキ、マメツ	(口)ヨコナズ(体)ハナ 後ナズ	
173 SD26	III区	B7			須磨 壺	口縁部	(口)19.9	3/8	石英中・小少、長石大	胎：2.5Y6/2灰黄 胎：5Y7/1灰白	回転ナズ(体)当 キ後蓋目	回転ナズ(体)ハナ タタ	
174 SD27	III区	A9			肥前系海跡 皿	口縁部	(口)11.4 (高)3.6 (底)4.4 (口)1.5 (底)0.3	3/8	石英中・小少、長石大、中礫	胎：2.5Y6/2灰黄 胎：5Y7/1灰白	回転ナズ後縁部、砂	回転ナズ後縁部	
175 SD31	III区	A9			白磁 碗			小片	精礫	胎：5Y8/1灰白 胎：5Y7/1灰白	回転ナズ後縁部	回転ナズ後縁部	横田・森田II-1類
176 SD32	III区	A9			土師 小皿		(口)8.3 (高)1.5 (底)6.2	8/8	石英大～小礫、長石大～小少、赤色磁子大、中礫	内：10YR5/3浅黄褐色 外：10YR5/3浅黄褐色、 5YR7/5褐色	(口)回転ナズ(底)回転 ヘラ剪り後ナズ	(口)回転ナズ(底)回転 ヘラ剪り後ナズ	塚体正底
177 SD32	III区	A9			瓦器 小皿		(口)8.2 (高)1.5 (底)4.5	7/8	石英、長石大、中礫	内外：N5/灰	ヨコナズ、ナズ	(口)ヨコナズ(底)オナ 工後ナズ	
178 SD32	III区	A9			瓦器 碗		(口)15.0 (高)3.9 (底)4.4 (口)1.5 (底)0.3	3/8	長石中・小礫	内：7.5Y7/1灰白 外：N7/灰白	(口)ヨコナズ、板ナ ズ(体)回転ナズ、ヘラミガ キ	(口)ヨコナズ、オサエ 後ナズ(体)板ナズ	和瓦型
179 SD32	III区	A9			瓦器 碗		(口)16.9 (高)4.0 (底)4.4 (口)1.5 (底)0.3	1/8	石英、長石小礫	内外：N6/灰	(口)ヨコナズ(体)オナ 工後ナズ(底)板ナズ	(口)ヨコナズ(体)オナ 工後ナズ(底)板ナズ	和瓦型
180 SX03	I区	A3			肥前系海跡 赤付椀	口縁部	(口)9.4 (高)1.1 (底)4.4 (口)1.5 (底)0.7	2/8	精礫	胎：N8/灰白 胎：10YR5/1明黄灰 残須：藍	回転ナズ、胎土	回転ナズ、胎土	高台
181 SX03	I区	A3			備前 海鉢	口縁部		小片	長石中・小礫	内：10YR4/1粉灰 外：5YR4/2灰黄	回転ナズ	回転ナズ	

遺物番号	寄附者	地区	出土状況	容器	部位	法量	形状	胎土	色澤	内面調整	外面調整	備考
182 SX03	I区 A3		土師 土釜	脚部		3/8	石英・長石大~小多		内：10YR7/2にぶい黄 赤：10YR2/6黄褐色 外：2.5YR7/4にぶい黄 赤：2.5YR7/4にぶい黄 黒：2.5YR7/4にぶい黄 赤：2.5YR7/4にぶい黄 黒：2.5YR7/4にぶい黄 2/1黒	オサエ後ナア	外面調整 オサエ後原ナア	
185 SX04	I区 A3		肥前系陶器 土師 甕	底部	(口)13.7 (底)3.4 (高)4.5 4(高石高) 0.3	2/8	精緻		内：10YR2/6黄褐色 外：2.5YR7/4にぶい黄 赤：2.5YR7/4にぶい黄 黒：2.5YR7/4にぶい黄 赤：2.5YR7/4にぶい黄 黒：2.5YR7/4にぶい黄 2/1黒	陶転ナア	陶転ナア、胎動、胎 動ノ目輪ハキ、砂目 シ、露胎	
186 SX04	I区 A4		土師 甕		(口)14.2 (底)6.4	5/8	石英、長石大~小少、 赤色粒子大、中少		内：2.5YR7/4にぶい黄 赤：2.5YR7/4にぶい黄 黒：2.5YR7/4にぶい黄 10R8/8赤褐色	(口)ヨコナア、ナア (底)オサエ後ナア	(口)ヨコナア、ナア (底)オサエ後ナア	口縁部内面へら記号
188 SX05	I区 A4		土師 土釜	脚部		6/8	石英・長石大~小豊		内外：10YR8/2灰白 ハケ	陶転ナア	オサエ後ナア、ナア	
189 SX08	II区 A5		須恵 杯身		(口)11.8 (底)4.5	7/8	長石中、小少		内外：5Y6/1灰 陶転ナア	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)陶転 へらケスリ、(底)陶転 へら	外面全体自然編
190 SX08	II区 A5		土師 甕	口縁部	(口)18.3 (底)10.0 (高)13.5	2/8	石英・長石大~小豊		内：2.5YR2/6赤褐色 外：2.5YR2/6赤褐色	(口)ヨコナア、ナア (底)オサエ後ナア	(口)ヨコナア、ナア (底)オサエ後ナア	
191 SX13	III区 A7		須恵 杯蓋		(口)12.2	2/8	石英中、小微		内外：N7/灰 陶転ナア	陶転ナア	陶転ナア	
192 SX13	III区 A7		肥前系陶器 土師 甕	口縁部	(口)10.2 (底)4.4 (高)4.1 1(高石高) 0.8	5/8	精緻		胎：N6/灰白 赤：N6/灰 黒：N6/灰	陶転ナア	陶転ナア	
193 SX13	III区 A7		肥前系陶器 土師 甕	口縁部	(口)17.3 (底)4.3 (高)4.3	8/8	石英、長石中、小微、 赤色粒子中微		内外：10YR8/3浅黄褐色 外：10YR2/6灰白、 5YR8内黄褐色	陶転ナア	陶転ナア(底)陶転 へら切	
194 浅谷1	I区 B3		土師 小皿		(口)7.7 (底)1.2 (高)1.2	3/8	石英大~小多、長石中・ 小少		内外：10YR2/6灰白、 5YR8内黄褐色	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)陶転 へら切	
195 浅谷1	I区 A3		土師 小皿		(口)7.3 (底)1.5 (高)1.5	3/8	石英大~小多、長石中・ 小少		内外：10YR2/6灰白、 5YR8内黄褐色	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)陶転 へら切	
196 浅谷1	I区 B3		土師 小皿		(口)7.7 (底)1.2 (高)1.2	2/8	石英大~小多、長石大 ~小少		内外：10YR8/2灰白 赤褐色	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)陶転 へら切	
197 浅谷1	I区 B3		土師 小皿		(口)11.7 (底)6.1	3/8	石英大~小多、長石大 ~小少		内外：10YR7/3にぶい 黄褐色	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)陶転 へら切	
198 浅谷1	I区 B3		土師 小皿		(口)7.5 (底)1.6 (高)1.6	4/8	石英大~小多、長石大 ~小少		内外：10YR7/3にぶい 黄褐色	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)陶転 へら切	
199 浅谷1	I区 B3		土師 杯		(口)11.1 (底)8.0 (高)3.6	6/8	金雲母中微、石英、長 石大~小少		内外：10YR7/3にぶい 黄褐色	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)陶転 へら切	
200 浅谷1	I区 B3		土師 杯		(口)12.3 (底)7.4	6/8	石英大~小多、長石大 ~小少		内外：10YR8/2灰白 赤褐色	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)陶転 へら切	
201 浅谷1	I区 A3		土師 杯	底部	(口)11.0 (底)9.5 (高)3.5	8/8	石英、長石、赤色粒子 大、中少		内外：10YR8/3浅黄褐色 外：10YR8/3浅黄褐色	(口)陶転ナア(底)陶 転へら切	(口)陶転ナア(底)陶転 へら切	概法比直
202 浅谷1	I区 B3		土師 杯		(口)13.0 (底)8.1 (高)5.7	1/8	石英、長石大~小少		胎：10YR8/3浅黄褐色 外：10YR7/3浅黄褐色	陶転ナア	(口)陶転ナア(底)赤切	

遺物番号	遺物名称	区画	出土状況	器種	部位	法量	埋深	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
203	浅谷1 I区 B3 Ⅱ⑤層	土師 杯		石英大~小片、長石大、中、小片、赤色粘土、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)11.9 (底)3.5 (高径)7.7	3.6	石英大~小片、長石大、中、小片、赤色粘土、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)回転ナデ(底)赤切り (口)回転ナデ(底)赤切り	板状正貨
204	浅谷1 I区 B3 Ⅱ⑤層	土師 杯		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)10.6 (底)8.5 (高径)7.7	3.6	石英大~小片、長石大、中、小片、赤色粘土、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)回転ナデ(底)赤切り (口)回転ナデ(底)赤切り	
205	浅谷1 I区 A3 Ⅱ⑤層	土師 杯		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)10.8 (底)8.1 (高径)7.7	3.6	石英大~小片、長石大、中、小片、赤色粘土、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)回転ナデ(底)赤切り (口)回転ナデ(底)赤切り	
206	浅谷1 I区 B3 Ⅱ⑤層	土師 杯		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)10.8 (底)8.1 (高径)7.7	3.6	石英大~小片、長石大、中、小片、赤色粘土、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)回転ナデ(底)赤切り (口)回転ナデ(底)赤切り	
207	浅谷1 I区 A3 Ⅱ⑤層	土師 杯		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)10.8 (底)8.1 (高径)7.7	3.6	石英大~小片、長石大、中、小片、赤色粘土、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)回転ナデ(底)赤切り (口)回転ナデ(底)赤切り	
208	浅谷1 I区 A3 Ⅱ⑤層	土師 碗		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)13.7 (底)4.4 (高径)9.4 (底径)4.0	4.8	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	胎：10YR8/3或黄緑・5YR7/6 内外：10YR8/2灰白	(口)回転ナデ(底)赤切り (口)回転ナデ(底)赤切り	西洋蓋
209	浅谷1 I区 B3 Ⅱ⑤層	青磁 碗		精緻	胎：NS/灰白 GV6/Oオリーブ灰	(口)13.7 (底)4.4 (高径)9.4 (底径)4.0	1.6	精緻	胎：NS/灰白 釉：2.5 GV6/Oオリーブ灰	胎：NS/灰白 釉：2.5 GV6/Oオリーブ灰	胎：NS/灰白 釉：2.5 GV6/Oオリーブ灰	
210	浅谷1 I区 B3 Ⅱ⑤層	青磁 碗		精緻	胎：5Y7/1灰白 釉：5Y6/2灰オリーブ	(口)15.4 (底)4.4 (高径)9.4 (底径)4.0	1.6	精緻	胎：5Y7/1灰白 釉：5Y6/2灰オリーブ	胎：5Y7/1灰白 釉：5Y6/2灰オリーブ	胎：5Y7/1灰白 釉：5Y6/2灰オリーブ	
211	浅谷1 I区 B3 Ⅱ⑤層	青磁 碗		精緻	胎：7.5Y6/1灰 釉：10Y6/1灰	(口)15.4 (底)4.4 (高径)9.4 (底径)4.0	1.6	精緻	胎：7.5Y6/1灰 釉：10Y6/1灰	胎：7.5Y6/1灰 釉：10Y6/1灰	胎：7.5Y6/1灰 釉：10Y6/1灰	
212	浅谷1 I区 A4 Ⅱ⑤層	土師 火鉢		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)18.8 (底)15.4 (高径)14.9	1.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	口縁部外面沈澱、印花、泥質土
213	浅谷1 I区 B4 Ⅱ⑤層	須恵 盃		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)15.4 (底)4.4 (高径)9.4 (底径)4.0	1.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
214	浅谷1 I区 B4 Ⅱ⑤層	土師 盃		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)15.4 (底)4.4 (高径)9.4 (底径)4.0	1.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
215	浅谷1 I区 B4 Ⅱ⑤層	土師 盃		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)14.9	3.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR7/3に赤い黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
216	浅谷1 I区 B3 Ⅱ⑤層	土師 土鍋	口縁部	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)11.8	2.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
222	浅谷2 II区 B5 Ⅱ⑤層	須恵 杯(蓋)		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)12.5	1.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
223	浅谷2 II区 A6 Ⅱ⑤層	須恵 杯身		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)10.5	1.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
225	浅谷3 III区 A7 Ⅱ⑤層	須恵 杯		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)17.1 (底)10.5 (高径)14.9	1.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
226	浅谷3 III区 A8 Ⅱ⑤層	須恵 蓋		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)18.3	5.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
227	浅谷3 III区 A7 Ⅱ⑤層	須恵 蓋		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)18.3	5.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
228	浅谷3 III区 A9 Ⅱ⑤層	土師 小皿		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)7.2 (底)1.0 (高径)4.9	3.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	
229	浅谷3 III区 A9 Ⅱ⑤層	瓦葺 小皿		石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	(口)10.0 (底)8.0	2.6	石英大~小片、長石大、中、小片	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	胎：10YR8/3或黄緑・外：7.5YR6/6 内外：N5/灰	

遺物番号	東京	東区	区	出土状況	設備	部位	法珠	形産	胎土	色調	内面調整	外面調整	備考
230	浅谷3	Ⅲ区	A9	Ⅱ⑩層	土師 杯			2/8	石英中・少、長石中・小	内：10YR8/2灰白 外：10YR/2に多い黄	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、ヘラケズリ	内面赤色顔料付着
231	浅谷3	Ⅲ区	A9	Ⅱ⑩層	瓦器 椀	(口)17.4	2/8	石英中・少、長石中・小	内：5YR8/1灰白 外：5Y7/1灰白	ヨコナテ、ヘウミガキ	ヨコナテ、オサエ	ヨコナテ、オサエ	
232	浅谷3	Ⅲ区	A8	Ⅱ⑩層	土師 土釜	(口)28.2	3/8	石英・長石中・少	内：10YR6/4に多い黄 外：10YR/4に多い黄	ヨコナテ、ナテ	ヨコナテ、オサエ、ハケ	ヨコナテ、オサエ、ハケ、帽子タテキ	外面僅付着
233	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 壺		8/8	石英大・中少、長石大・小	内：5YR6/4に多い黄 外：2.5Y7/灰白	ナテ	オサエ	オサエ	
235	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 杯	(口)12.0	1/8	石英・長石中・小	内：5Y6/1灰 外：5Y7/灰	面転ナテ	面転ナテ	面転ナテ	
236	浅谷3	Ⅲ区	B7	Ⅱ⑩層	須恵 杯	(口)11.4	1/8	石英中・小、長石中・少	内外：N6/灰	面転ナテ	面転ナテ	面転ナテ	
237	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 杯	(口)10.0 (高)3.8 (底)7.0	7/8	長石中・小	内外：5Y7/1灰白	面転ナテ	面転ナテ	(口)面転ナテ(底)面転ナテ	底面内面火ぶくれ
238	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 杯	(口)10.1 (高)3.6 (底)7.0	1/8	石英・長石中・小	内外：N6/灰	面転ナテ	面転ナテ	(口)面転ナテ(底)ハケ	
239	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 高杯	(口)12.7	4/8	石英・長石大・少	内外：N6/灰	面転ナテ	面転ナテ	(口)面転ナテ(底)ハケ	
240	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯	(口)10.3 (高)2.9 (底)7.3	6/8	石英・長石中・少、赤色粒子大・中、少	内外：5YR6/8橙	面転ナテ	面転ナテ	(口)面転ナテ(底)面転ナテ	
241	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯	(口)12.8	1/8	長石中・少	内外：2.5YR7/8橙	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ、オサエ後ナテ	
242	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯	(口)12.4	1/8	石英・長石中・少	内外：5YR4/2灰黄・2.5YR6/6黄	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	
243	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯		小片	石英大・中少、長石中・小	内外：5YR7/8橙 外：5YR7/6橙	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ、マメツ	
244	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 杯		小片	石英大・中少、長石中・小	内外：5YR7/8橙 外：5YR7/6橙	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ、オサエ後ハケ	
245	浅谷3	Ⅲ区	B7	Ⅱ⑩層	土師 壺	(口)21.7	1/8	石英大・中少、長石中・少、赤色粒子大・中	内外：5YR7/8橙	(口)ヨコナテ、ハケ (体)オサエ、ハケ	(口)ヨコナテ、ハケ	(口)ヨコナテ、ハケ	
246	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	土師 壺	(口)23.3	1/8	石英・長石中・小	内：7.5YR6/5浅黄 外：10YR/3に多い黄	(口)ヨコナテ、ハケ (体)オサエ、ハケ	(口)ヨコナテ、オサエ	(口)ヨコナテ、オサエ	
247	浅谷3	Ⅲ区	B7	Ⅱ⑩層	土師 壺	(口)27.7	4/8	石英・長石中・小、赤色粒子大	内：7.5YR6/6明黄・5YR6/6明黄 外：5YR6/6明黄	(口)ヨコナテ(体)オサエ後僅付着	ヨコナテ、オサエ後ハケ	ヨコナテ、オサエ後ハケ	
248	浅谷3	Ⅲ区	B7	Ⅱ⑩層	土師 壺		6/8	石英大・中少、長石中・少、赤色粒子大・中	内：10YR7/4に多い黄 外：7.5YR7/4に多い黄	面転ナテ後僅付着	面転ナテ、ナテ	面転ナテ	赤土は須恵質 赤土は須恵質 内面にトナリ付
249	浅谷3	Ⅲ区	A7	Ⅱ⑩層	須恵 杯	(口)19.7 (高)7.3 (底)7.7 2.5Y6/6高	6/8	石英大・中、長石大・小	内：2.5Y7/4灰白 外：2.5Y6/3オリーブ	面転ナテ後僅付着	面転ナテ	面転ナテ	
251	浅谷3	Ⅲ区	A9	Ⅱ⑩層	須恵 杯	(口)13.2	1/8	長石中・小	内外：N6/灰	面転ナテ	面転ナテ	面転ナテ	外面自然釉

種別	番号	区画	出土状況	器種	部位	法量	形状	動土	色調	内面調整	備考
252	急高瀬Ⅰ区 A4	I③層	須恵 高杯	杯部	(口)17.0	石英・長石大~小少	内：N5/灰 外：N5/灰	同転ナデ	同転ナデ、同転ヘラケ	同転ナデ、同転ヘラケ	
253	急高瀬Ⅰ区 A2	I③層	須恵 壺	口縁部	(口)17.4 (高台)7.6 (底)6.0	石英大~小少、長石大~小微	内外：5YR7/6灰	同転ナデ、タタキ	同転ナデ、当て具痕	同転ナデ、高付貼付	口縁部外面へラ配号?
254	急高瀬Ⅰ区 A2	I③層	土師 碗		(口)11.7 (高台)7.4 (底)5.1	石英・長石中、小少	内外：5YR7/6橙	同転ナデ	同転ナデ、高付貼付		
255	急高瀬Ⅰ区 A2		肥前青梅砂 轆轤	底部	(口)28.2	精緻	胎：2.5YR8/3淡黄 釉：2.5Y7/6黄	同転ナデ後縁軸	同転ナデ後縁軸、高台	同転ナデ後縁軸、高台	裏面 裏付手痕
256	急高瀬Ⅰ区 A1:2	I③層	土師 二脚		(口)17.7 (高台)14.6 (底)14.5	石英大~小少、長石大~小微	内外：2.5YR2/灰白 7.5YR8/4にぶい黄	ヨコナデ	(口)同転ナデ(体)オサ 二脚ナデ	(口)ヨコナデ(体)オサ 二脚ナデ	外面据付着
258	急高瀬Ⅰ区 B1、2	I③層	土師 トチン		(口)17.7 (高台)14.6 (底)14.5	石英・長石大~小少	内外：5YR7/6橙	同転ナデ	同転ナデ		
263	急高瀬Ⅰ区 B2	I③層	須恵 杯	口縁部	(口)12.4 (高)12.2 (底)12.1	石英・長石大~小微	内外：10YR8/4淡黄橙	同転ナデ	同転ナデ		
264	急高瀬Ⅰ区 B2	I③層	土師 杯	口縁部	(口)7.9	石英・長石大~小微	内外：N7/灰白	同転ナデ	同転ナデ		
265	急高瀬Ⅰ区 A1:2		須恵 平瓶		(口)13.8	長石大~小少	内：N5/灰 外：5YR7/6橙	同転ナデ	(口)同転ナデ(瓶)同転 ヘラケナデ	(口)同転ナデ(瓶)同転 ヘラケナデ	
266	急高瀬Ⅱ区		須恵 高杯	口縁部	(口)12.6 (高)12.5 (底)7.3	石英・長石中、小微	内外：5YR7/6橙	同転ナデ	同転ナデ		
267	急高瀬Ⅱ区 A5 ~B		土師 杯		(口)13.1	長石大~小微	内外：N5/灰	同転ナデ	同転ナデ		
268	急高瀬Ⅱ区 B6		須恵 頸頭 土師 高杯	頸部	(口)12.5	石英・長石大~小少	内外：5YR6/6橙	同転ナデ	同転ナデ		
269	急高瀬Ⅱ区 B6		土師 高杯	頸部	(口)13.1	長石大~小微	内外：N5/灰	同転ナデ	同転ナデ		
270	急高瀬Ⅱ区		土師 壺	把持部	(口)12.5	石英・長石大~小少	内外：5YR6/6橙	同転ナデ	同転ナデ		
271	急高瀬Ⅱ区 A4、5	II層	須恵 杯		(口)19.4 (底)13.5 (底)6.0	石英・長石中、小少 長石中、小少	内外：2.5YR6/8橙 内外：5Y6/1灰	同転ナデ	同転ナデ		
272	急高瀬Ⅱ区 A5	II層	青磁 碗		小片	精緻	胎：5YR8/灰白 1.0YR1/赤	同転ナデ後縁軸	同転ナデ後縁軸		
273	急高瀬Ⅱ区 A5	II層	土師 土釜		小片	石英・長石大~小微	内外：7.5YR7/6橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、オサエ後ナ デ	外面据付着	
274	急高瀬Ⅱ区 B5	II層	土師 土釜		小片	金銀母大、中微、石英 大~小少、長石大~小	内：10YR8/3淡黄橙 外：5YR7/6黄	ヨコナデ	ヨコナデ		
275	急高瀬Ⅱ区 A4、B4	II②層	土師 土鍋	口縁部	小片	石英・長石大~小微	胎：10YR7/3にぶい黄 外：10YR8/3淡黄橙	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、オサエ後ナ デ	ヨコナデ、オサエ後ナ デ	
276	急高瀬Ⅱ区 A4、B4	II③層	土師 土鍋	口縁部	小片	石英・長石大~小少	内：10YR7/3にぶい黄 外：10YR8/3淡黄橙	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、オサエ後ナ デ	ヨコナデ、板ナデ	外面据付着

遺跡番号	調査区	出土状況	器種	部位	法量	発見所	出土	色調	内面調整	外面調整	備考
277	包含層 II区 A4・B4	II④層	土師 土器	胴部	5/8	7.5YR6/4に多い橙	新七		オサエ後板ナデ		
278	包含層 II区 A4・B4	II⑤層	土師 漆鉢	底部	(底)12.0	2/8	石英・長石大一小管	内：10YR7/3に多い黄褐色 外：7.5YR6/4に多い橙	(体)ナデ、脚し目ナデ (底)ナデ	(体)ナデ、板ナデ(底)ナデ	
279	包含層 II区 A4・B4	II⑥層	土師 漆鉢	口縁部			石英・長石大一小管	内外：10YR6/2灰黄褐色	ナデ、脚し目	新緑	

第23表 南天姥遺跡出土石器調査表

遺跡番号	報告遺構名	調査区	区画	出土状況	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存度	備考
46	SB31	III区	A7	石鏃		サヌカイト	18.0	13.0	3.0	0.50		
50	SH39	III区	A7	SP0087 砥石			136.0	126.0	51.0	1386.50		
89	SP015	I区	B3	石臼			307.0	289.0	135.0			
90	SP034	III区	A7	楕形石粉基材		サヌカイト	73.0	73.0	20.0	115.40		
113	SB01	I区	B3	砥石			188.0	88.0	47.0	985.50		
114	SD01	I区	B3	砥石			261.0	144.0	88.0			
150	SD06	I区	B4	楕形石器		サヌカイト	42.0	24.0	14.0	15.00		
183	SN03	I区	A3	石製紡錘車本製品			34.0	40.0	7.0	12.50		
184	SX03	I区	A3	石製紡錘車本製品			34.0	36.0	8.0	10.30		
187	SX04	I区	A3	石製紡錘車本製品			44.0	48.0	4.0	13.20		
218	浅谷1	I区	B3	II①層 砥石			6.0	49.0	27.0	105.35		
219	浅谷1	I区	A3	II①層 石鏃			22.0	14.0	4.0	0.50		
220	浅谷1	I区	B3・4	II①層 調整有る薄片			74.0	66.0	10.0	55.60		
221	浅谷1	I区	B3	II①層 石臼			300.0	176.0	113.0			
224	浅谷2	II区	A5	II①層 石鏃			36.0	38.0	9.0	10.50		旧石器?
234	浅谷3	III区	A8	II①層 石鏃			29.0	17.0	6.0	2.00		
250	浅谷3	III区	B7	II②層 薄片			32.0	25.0	7.0	4.30		旧石器?
259	包含層 II区	I区	A2	I③層 楕形石器			43.0	54.0	15.0	36.60		
260	包含層 II区	I区	A2・B2	I③層 石製紡錘車本製品								
280	包含層 II区	III区	A8	柱状片刃石斧			134.0	44.0	24.0	245.00		



寺田・産宮通遺跡 図版



I区調査区全景（北より）



II区調査区全景（南より）



SH01全景 (西より)



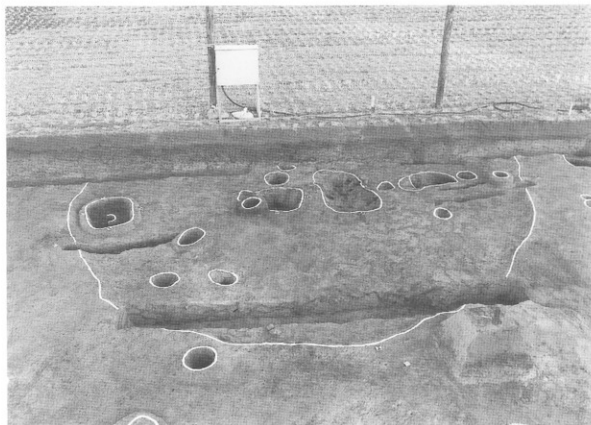
SH02,SD03全景 (西より)



SH03全景（東より）



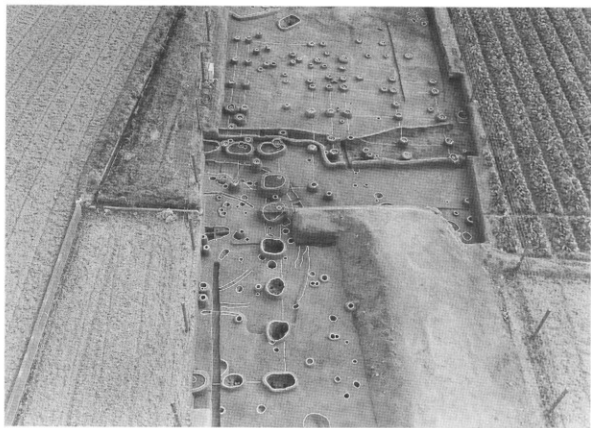
SH04・05全景（北より）



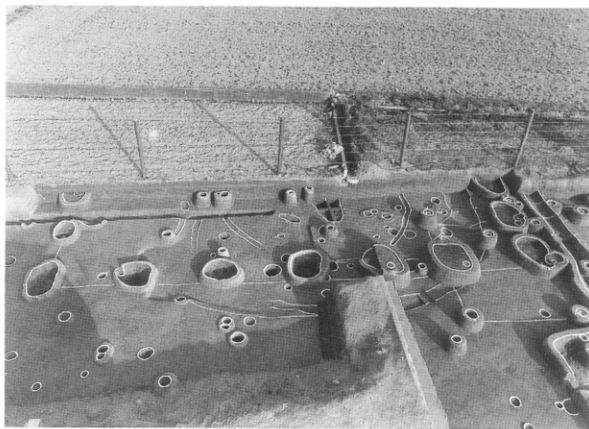
SH06全景 (西より)



SH06 1・2号炉 (北より)



SB01~03全景 (北より)



SB03全景 (西より)